映画情報



6 1973

国際情報社

昭和廿六年十月三日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行） 昭和四十八年 五月十五日印刷 昭和四十八年 六月一日発行
復刊第二五〇号 通刊第三十八巻 第 六 号 六月号 昭和廿六年九月十一日 国鉄首都特別扱承認雑誌第二〇七四号

●特選3大付録●

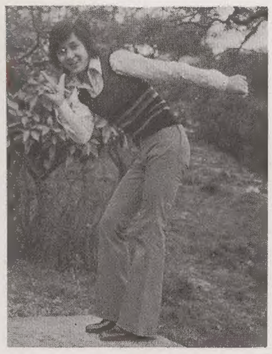


●ピンナップ・メイト

篠ヒロコ
HIROKO SHINO

●スター・ポート
伊丹幸雄
SACHIO ITAMI

新曲「ほんとの僕」とサチオ・ミュージカルに賭けるカレ（撮影／高松春雄）



●スター・カレンダー
エディ・ウィリアムス
EDY WILLIAMS

アメリカではポルノ映画界の大スター。ボインの割にスマートなラインだなあ



●**カラー・ページ**
衝撃の話題作《ラストタンゴ・イン・パリ》…M・ブランド
そこを訪ねよう世界映画の旅／ディズニーランド……森田守
なんたってカワインだもん……………ダニエル・ビダル
シリーズ《対決》6……………天知茂・原田芳雄
THIS FACE……………………山科ゆり
あのオリビア・ハッセーが帰って来た……………
《子連れ狼》お茶の間に旋風を……………萬屋錦之介

●**グラビア・ページ**
特集／NOWな映画《ハロー！キートン》……淀川長治
対談／男どうしで語ろうよ《ふたり》三橋達也・由原木七郎
燃えるイギリス映画界……………………高山鉄郎
女は度胸よ賑やかなポルノ戦線・山川レイカ・ひし美ゆり子
燃える若山富三郎《桜の代紋》……………
砂漠に燃えあがる恋《陽は沈み陽は昇る》……………

●**記事ページ**
連載／あのひとがいま・応蘭芳……………石崎勝久
芸能記者覆面座談会《花の素顔のもう一つの素顔》……………



世界一の美女・ドヌーブ

CATHERINE DENEUVE

オードリー・ヘップバーンが第一線から退き、クラウディア・カルディナーレもかつての活気なく、オリビア・ハッセーはヤングすぎ、キャンディス・バーゲンもキャサリン・ロスもいまひと息というとき、も早やカトリーヌ・ドヌーブにかなうものがない。長い豊かなブロンド、火のように燃えるかと思えば、そのおなじ炎で平気で男を裏切る青い瞳、なめらかな肌、優雅さと気品、そして同時に一種の卑しさとエゴイズム……世界一の美女・ドヌーブは、今年二十代最後のふくよかな女の世代を謳歌しようとしているのである。







CATHERINE DENEUVE

■世界一の美女・ドヌーブ

美しいおんなは美しい顔をもっている。その事実に間違いはない。だがおんなの美しさ



とは美しい顔だけかというと、それはちがうというひとが多いだろう。
美女、美しい女、美しい顔という発想はこうして、現代ではモロくもくずれ去った。われわれがカトリーヌ・ドヌーブというスターに感じる〝美女〟の感覚も、そうである。ド







ヌーブの容貌のまとまり加減も結構。だがドーヌの顔立ちにそれほど感動しないひとでも彼女がスクリーンのうえにかもし出す〝おんなの香り〟には、しびれちゃうといわないではいられない。

女優カトリーヌ・ドヌーブの成長は、おんなのはじまりと共にスタートした。十七歳になるかならないかで彼女は自分より十六歳年上の男性に愛され、十八歳になるかならないかでそのひとの子をうんだ。そして間もなく男の愛は霧散し、彼はドヌーブを捨て去っていく。

ロジェ・バディム監督との不幸な出会いはしかしドヌーブをして「シェルブールの雨傘」（一九六三年）という傑作映画で名演をさせた。さいきんテレビで放映されたりリバイバル公開されたりして、当時のドヌーブに接したが、いくらか固さはのこっているが、若いおんなの悲しみの情感には胸を刺される思いだった。

ついで彼女は一九六五年、イギリスで「反撥」という異常心理映画に出た。ポーランドからとび出して来たロマン・ポランスキーの西欧デビュー作で、異国にいる孤独と青春の潔白さを乾いたタッチでえがいた。

おなじ年、私生活でのドヌーブは、イギリスの写真家デビッド・ベイリーと結婚したものの、この夫婦生活は短期間で消滅。というのも、ドヌーブにはかがやかしいスターへの道が間もなく開かれることになるからだ。

その端緒となったのは、ルイス・ブニュエル監督の「昼顔」である。貞淑な外科医の若妻が、夫にかくれ娼婦となって、サディストの男にさいなまれては快楽の沼に妖しく沈んでいく。こうして肉体が夫を裏切れば裏切るほど、彼女の心は夫への愛とすまなさでいっぱいになる。マゾヒズムの極致を、ドヌーブの繊細な肌と清楚な気品が、かげろうのようにはかない女心を通して描破していった。

「シェルブールの雨傘」の哀しみ、「反撥」の異常、「昼顔」の二面性、この三作が女優カトリーヌ・ドヌーブのその後の〝おんなの魅力〟と〝円熟〟に重大な影響をあたえている。「恋のマノン」「哀しみのトリスターナ」「哀しみの終るとき」「ひきしお」そのすべてが、〝女の謎〟の妖しさを浮き彫りにしている。

わたしにタッチしちゃだめ







LEENA SKOOG

SILVIA DIONISIO

PIA-GIANCARO

真っ赤なビキニのピア・ジアンカーロはミス・イタリア出身のポルノ女優です

いや、いまはしがないポルノ女優といわれても、未来はイタリアのマリリン・モンローなんていわれたいなと思ってるコです。コマーシャルじゃないけど"ジットガマンノコデアッタ"ってところ。だってマリリンが有名になったのは26歳のとき、ピアはまだ22歳だもんね。

シルビア・ディオニシオはここでは黒いベルトやガンで固めているけど、いつもはロングヘアを垂らしたカワイコちゃん。ヌードになるとなぜか骨っぽくて引きしまってて、中性的な妖しさがあるんだなァ。やっぱりすこし痩せたのかも知れない。シルビアをほっそりさせちゃった男の子って一体誰なんだろう。

「イタリアには世界中からいろんな国籍のひとが集ってポルノ映画に出ているけど、イタリア製のポルノって数がすくないでしょ？　それはね、西ドイツやイギリスにくらべてイタリアのほうがお品がいいからよ。みんなボディ以上のものを認めてもらいたくてローマに集ってくるのよ」

とシルビアがいうようにたしかに誰もがポルノ女優という名に満足していないのである。タッチしちゃだめ、という心理もここから出てくる。

黄色いブラウスに赤のホットパンツ、小麦の穂のような髪をなびかせるのはスエーデン出身でイギリスで活躍するポルノ女優レーナ・スクーグ。野性的なふくよかさをもつレーナは「グレタの性生活」でこの世界にデビューしたが、バストも巨大でなくはつらつとしているという評判だ。





LEENA

エーデン出身でイギリスで活躍するポルノ女優レーナ・スクーグ。野性的なふくよかさをもつレーナは「グレタの性生活」でこの世界にデビューしたが、バストも巨大でなくはつらつとしているという評判だ。





なんたってカワインだもんネェ



〃透きとおってるってホントかな〃でおなじみのCMタレント、ダニエル・ビダル。いや、さいきんは〃サッサでね、インテリア・ボックスみがきましょ〃といったほうがいいかも知れない。

まるでフランス人形のような、という表現があるが、まさにその通りのフランス人形のような彼女である。

ブロンドの髪（これは漂白している）にブルーの目、ピンクの頰、今年22歳とは思えないベビー・フェイスの持主で3年前の44年9月『天使のらくがき』でデ





DANIELE VIDAL

まくった。その後も『カトリーヌ』『チャオ・ベラ・チャオ』『ピノキオ』『オー・シャンゼリゼ』などのヒット曲を次々と発表している。日本にも来日して、ルックスとキュートな歌声がCMに買われたというわけ。

「稼いだお金はどうするの?」

「ギャラはみんなパパとママにあずけてパリの郊外に〝トニオ〟っていうフランス料理店をひらいたの」

「噂されてるジャン・ピエール・サベリとのロマンスはどう?」

「かれねえ、いいお友達だったわ。彼が世界歌謡祭で来日したとき、何回もデートしたからさわがれちゃったのね。でももう……」

サベリは『夜空のモナムール』でヒット中のフランスの歌手。でもダニエルが去年3度目の来日で吹きこんだ『別れのくちづけ』(作曲・井上忠夫、作詞・片桐和子)のように、もう別れのくちづけを交しているよう。

「日本について好きなところは?」

「うん、ムードでは絶対、北海道ね。フランス郊外の感じなんですもの。それから日本の食べものでは、シャブシャブと鉄板焼。牛肉が好きなのよ。きらいなのはお寿司。歌手ではミッシェル・デルペッシュだけど、日本のひとならムッシュー・布施明、尾崎紀世彦、マドモアゼル岸洋子ね」

かわいい目をくりくりさせながら、割と平気で意見をのべるダニエル。いろんなモードでいろんなポーズをさせると、ミドルティーンから彼女自身である22歳まで、みごとに適応し変身していくふしぎなタレント性をもっている。

「大人のムードどう?」

と聞いたら、ちょっと口をとがらせて

「だって私もう、大人よ」

「じゃ、結婚するとしたら?」

「もちろん人間性ゆたかな、男性的なひと。ひと口でいったらパパみたいに包容力のあるひとかな。フランス人でなくても、日本のひとでもいいの」

さては日本男性に候補者がいる……?







衝撃の話題作 ラストタンゴ・イン・パリ

〝人間の頽廃をここまで描き、人間感情を犯し、人間の品位をくつがえした監督はほかにいない。しかし、これまでの破壊をこれほど美しく、リリシズムをもって描いた天才はほかになく、観客は凌辱され、征服され、低俗きわまりないことば、さらに低俗きわまりない行為さえもうけいれさせられる。彼にとって、エロチシズムは武器なのであり、楽しみではない〟

フランソワール紙はマーロン・ブランドの新作「ラストタンゴ・イン・パリ」をこう評価した。そしてこの監督が、今年三十歳のイタリア人、ベルナルド・ベルトリッチなのである。

去年「ゴッドファーザー」で一九七〇年代最大の娯楽作といわれ、世界的な爆発ヒットとなり、あらゆる記録を破った原因がマーロン・ブランドにあるとすれば、彼の今度の作品は一九七〇年代最大の頽廃映画というわけだ。





ポルノか芸術かといった議論の枠をはるかにとびこして、この映画はとんでもないポルノであって同時に芸術なのだ。

映画のはじめでは、男の力、女を魔法にかけてしまう力がえがかれ、女に対して自分の欲望を一方的におしつけ支配してしまう。この男はパリに住むアメリカ人で、もう四十歳をこえている。男の妻は自殺した。こうして彼は若いフランス女と監房のようなうつろな部屋でむきあって、男と女の生理機能の極限的関係をのみ要求する。

これを演じるのは、マリア・シュナイダー。赤褐色の髪と年令の割にはおどろくほど豊満な肉体をもっているが二十歳というあどけない表情が、また別の魅力でもあるおんなである。

映画のなかで、二度三度とデートを重ねた男は、沈黙を破って過去を語り出す。それと同時に、男の魔力は消えうせ彼を変身させていた神秘の部屋を出たとたん、卑屈なピエロにすぎなくなる。異常に荒々しいエロチシズムの光彩の向うには死があるだけなのだ。







ツモローランドのロケット・ジェットに乗ってファンタジーランドのマッターホルンを眺める



ニューオルリーンズ広場には美しい花園をもつ南部の豪邸が



夜になるとムードが一変するディズニーランド、花火とイルミネーションが山を美しく照らす



ファンタジーランドの中心はやはり「眠れる森の美女の城」



アドベンチャーランドへの入口には胸をわくわくさせる原始と南国ムードがもう漂っている…

そこを訪ねよう世界映画の旅

● その18

ディズニーランド

文／森田　守

ウォルト・ディズニーといえば動画映画界に不動の地位をきずいた人物。その彼は一九六六年に死去したが、いまだに葬儀は出されていないウォルトはわれわれと共に生きている、という同社の全員の意志がそこにあらわれているわけで、この神話の人物にふさわしく、ウォルトが生前、使っていた事務所も、書きかけの机の上も、すべてそのまま保たれているという。

そして今から五〇年前の一九二三



ディズニー漫画のすばらしい展示会場ともいえるファンタジーランドの一番奥に“小さな世界”と呼ばれるアトラクションがある。白壁の建物がまばゆいばかりだ

INVITATION TO DISNEYLAND

[illegible]クションを創立し、ミ[illegible]スや**「白雪姫」**をうみ、**「砂漠は生きている」「水鳥の生態」**などの記録映画、**「フラバー」**や**「メリー・ポピンズ」**などの劇映画を次々につくり、いまだに世界中の小・中学生に親しまれている現状は、驚異という他はない。

そのウォルト・ディズニーの一大デモンストレーションとして知られるのが、ディズニーランドである。

「そこを訪ねよう世界映画の旅」もちょっと足をとどめてみよう。

★



ディズニー漫画の最高峰はやはりこの「白雪姫」である

“地球で一番ハッピーな所”ディズニーランドは、ロサンゼルスの東南43キロのアナハイム市にある。

ウォルト・ディズニーが二人のお嬢さんと遊園地に行った時、幼い二人が遊び疲れるまで一人淋しくベンチで待っていた経験から、家族ぐるみで楽しめるユニークな遊園地をという夢が芽生え、次から次へ湧き出るアイディアを満すに必要な土地をアナハイムのオレンジ畠に選んだ。一九五五年七月十七日、一七〇〇万ドルを投じ、22のアトラクションを備えて華々しく開場した。

ディズニーランドは全くユニーク[illegible]目を集めている[illegible]の言葉の通り“ディズニーランドは世界に唯一つ”で、ディズニー映画の歴史とアメリカ開拓の歴史とアメリカ近代科学を三本の柱とした、魔法の王国という独持のカラーをもつパークだ。演出も設備も運営もディズニー哲学の上に回転している。ディズニーランドには既に一億人以上が訪れたが、その80%が大人である。



ミュージカルのたのしさで人気の「メリー・ポピンズ」

■ディズニーランドへ行くには

ロサンゼルス空港からエアポート・バスのディズニーランド行きが30分毎に発車、50分で着く。料金は片道$2・95。ロサンゼルスのダウンタウンからディズニーランド/サンタアナ行きバス（58番）で約1時間片道$1・35。タクシーだと約$20かかる。

■ディズニーランドの規模

場内三〇〇万平方メートルに総額一億三三〇〇万ドルを費した55のアトラクションを備え、三日三晩かかっても遊び尽せね中味の濃さ。一年間に一千万人が訪れる。場外四三五万平方メートルに一一、五〇〇台収容の駐車場がある。

（記事ページにつづく）

あのオリビア・ハッセーが帰ってきた

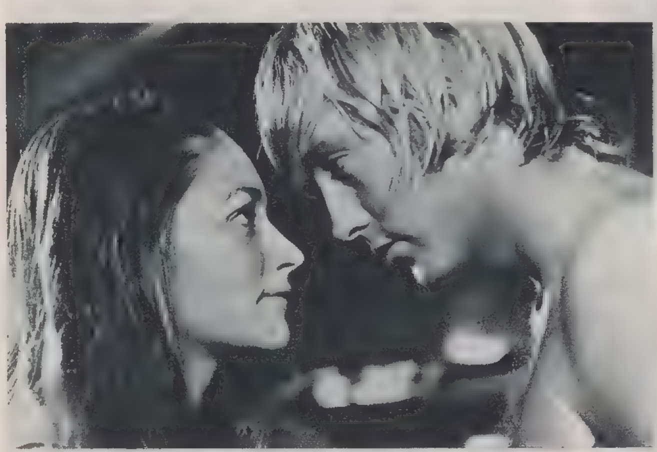


OLIVIA HUSSEY

オリビアの新作《サマータイム キラー》

「ロミオとジュリエット」でオリビア・ハッセーがみずみずしいジュリエットを演じてデビューしてから4年もたった。その間にオリビアは、アメリカの歌手ディノ・マーチンと結婚して引退してしまったかに見えたが──今年は2本の作品、この「サマータイム キラー」と、ミュージカル映画「失われた地平線」で再び登場する。

「サマータイムキラー」は、久しぶりにあのオリビアの魅力を12分に発揮する青春映画だ。白昼のニューヨークで、ローマの豪邸の夜会で、そしてマドリッドで、無謀ともいえる大胆不敵な手口による殺人事件がおこる。犯人はまだ少年のようにあどけない表情の、金髪をなびかせ、オート





バイをたくみに乗りまわすクリストファー・ミッチャム。マフィアの抗争で父を殺された彼は、父の仇を次々と狙っていくのだ。その標的のひとり、マドリッドに住むラフ・バローネの娘がオリビア・ハッセー。オリビアはミッチャムの海に浮んだ“夏の家”に誘拐され監禁されるうちに、若い2人の間にいつしか恋する心が芽生える。そしてすべてをとびこえて愛の陶酔にひたりこむ彼ら。クリストファーは名優ロバート・ミッチャムの次男で、父そっくりの甘い容貌、ナィーブな情感の持主。オリビアのかれんなグラマーと好対照をみせる。そして秘かにこの殺人者を追う刑事としてカール・マルデンがからみ、舞台はミッチャムの後を追いリスボン、パリ、ローマなど南ヨーロッパ各地のうつくしい夏の風景をちりばめていく。監督はスペイン出身でアメリカで仕事するアントニオ・イサシで、セルジオ・バルドッテイの哀歓のフォーク音楽もたのしめる。





① バスター・キートン監督・主演「セブン・チャンス」は1925年製作のもので内気な主人公が７人に求婚するお話



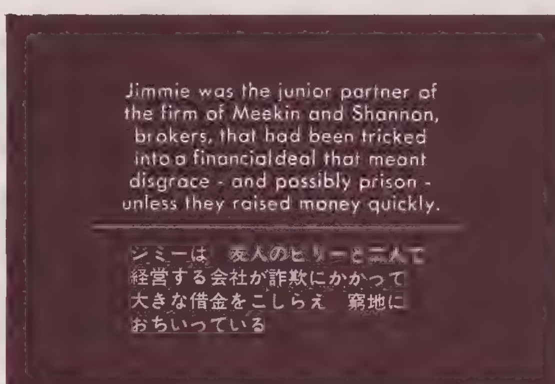
② ジミー（キートン）はメリー（ルース・ドワイヤー）に恋している。だが内気な彼は春には求婚できなかった



③ そして夏にも、秋にも、冬にも、またぬぐりくる春にも、まだメリーに求婚できなかった——



④ ジミーはビリー（ロイ・バーンズ）と会社を経営している青年社長。ある日ひとりの小男がやって来て手紙を



⑤ 手紙はジミーの祖父の遺言。もしジミーが27歳の誕生日の夕方７時までに結婚すれば 700万ドルがもらえると



⑥ 27歳の誕生日。それは今日だ！ 今日の夕方までに結婚すればいい。ジミーは早速メリーへの求婚練習を始める



⑦（無声映画にはこうした字幕が画面の合間にはさみこまれて主人公のセリフやストーリイを代弁したものである）



⑧ メリーの家の庭に行っても、ドアも叩かず練習するジミー。いつの間にか来たメリーはうれしそうだが——



⑨（ヤボな注釈はなしにすべきだろうが、こうした堂々たる求婚セリフは、大らかでたいへんロマンチックだ）



⑩ やっとジミーはメリーとイイ線まで来たが、やぼな彼は言った。「ぼくは結婚すればいいんだ、700万のために」



メリーにたちまち振られたジミーは、仕方なく片っ端
ら求婚する。ガールフレンドは７人、チャンスも７回だ



「ぼくはあなたを愛しています。結婚して下さい。今す
に」「冗談でしょ、いまゴルフしてるのよ」



「ねえ、今日は。あなたを愛してます、結婚してくれま
んか」「あなた、気が変になったんじゃないの」



ビリーはジミーのへまを見て気が気じゃない。「ねえ
、あの男と結婚してやってくれない？」「まあ失礼ネ」



ビリーは新聞広告をすることにした。夕方までに広い
球に一人ぐらいはジミーと結婚する女も現われるだろう

●特集／NOWな映画《キートンのセブン・チャンス》



⑯ 夕刊をみると、女性たちの反応はすごいものだった。ベールをかぶって馬に乗りひとりの女性がかけつけた



⑰ ある女性はいつも乗りなれた自転車で、ビリーが指定した教会へと走って来た。相手が誰かもかまわずに



⑱ 遠くからの花嫁候補はおくれてはならじと自動車で。700万ドルというドルの魅力は何ものにもまさるのか



⑲ ビリーが言った夕方5時、ジミーはひとりぼっちで教会に現われた。花婿の正装をし、花をもって不安げに



⑳ だが求婚疲れがでていつの間にか最前列でトロトロとうたたね。その間に花嫁候補はすごい数となって教会へ



㉑ 気がついたジミーは、たちまち花嫁たちにかこまれパニック状態となり、あわてて教会からとび出したが……



㉒ なんと居るわ居るわ、まるでウンカのごとき大群となって町から町へジミーを追ってくる。追っかけシーン展開



㉓ ジミーはビリーに伝言した。今となってはやはり愛するひとはひとりだ。そのメリーもやっと心配になって……



㉔ 昼間、折角のジミーの求婚を断ってしまった自分の愚をくやんでいたが、今となってはジミーがどこに居るやら



㉕ そのころジミーはバスター・キートン得意のアクロバットの妙技を岩山でおみせしようとしていた



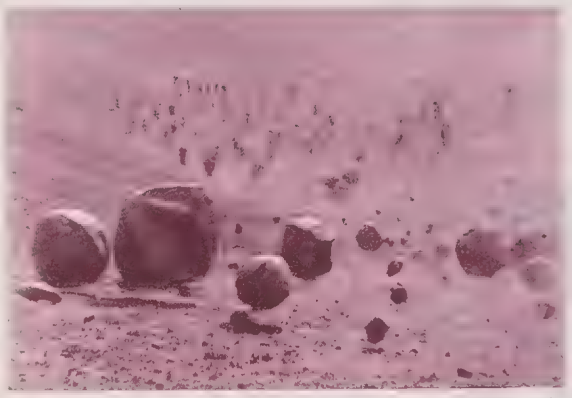
㉖ なだらかなスロープをまるで石ころのようにころがりまたピョイピョイと石を避けてとぶ妙技ぶり



㉗ キートンの体がまるで石ころのように小さくみえるこの石と人間の対比のおかしさも計算されたもの



㉘ やっと石がとまった。一つの大きな石が途中でひっかかったからで、それをおさえようとする姿も……



㉙ だがそのとき、花嫁の一群がジミーに迫って来た。ジミーは早速石をころがすと、皆が悲鳴をあげて逃げていく



㉚ 近くの教会の時計はまさに7時になろうとしていたがジミーは現われない。観客もここらで冷汗をかかされる――

（次頁につづく）

懐しのバスター・キートン！

淀川長治

バスター・キートンといっても今日の若い人たちは御存知あるまい。

大正中期から昭和の初めにかけて、**チャップリン**や**ロイド**とともに三大喜劇王と呼ばれた人気花形。

映画を活動写真と呼んだ一九一九年（大正七年）ごろからキートンはデブ君と呼ばれた喜劇俳優のドタバタ短篇喜劇に盛んに活躍した。そのキートンはやがて一九二〇年（大正九年）ごろから早くも自分で監督して主演する一本立ちの売れっ子スタアになってきた。

そのころは映画館は盆と正月には「ニコニコ大会」と呼んで画白いドタバタ喜劇の短篇を五本も六本も七本も同時上映し、この「ニコニコ大会」のキートンは花形スタアだった。

「**馬鹿息子**」「**成功成功**」「**荒武者キートン**」「**滑稽恋愛三代記**」と、もうこのころの一九二三年（大正十二年）にはキートンは短篇から長篇に移りその人気いよいよ盛んだった。

ところで、チャップリンはドタ靴にチョビ髭にステッキとそのいでたちがチャップリンどくとくのトレイド・マークとなったように、ロイドもまたロイドめがねで個性を示した。ところがキートンは……『**笑わぬ喜劇王**』というトレイド・マークを用いたのであった。彼は映画の中では、いっさい笑わない。キ

の中では一度も笑わなかった。

なぜ笑わないのか。すなわちキートン演じる主人公は、いつも大まじめ。大まじめにヘマをやる。大まじめにガッカリする。大まじめに格闘する。大まじめにガール・フレンドに恋をする。かくてそのロマンスがハピイ・エンドに終るというのに、彼は大まじめに彼女を抱きしめ映画は終った。

笑わぬキートンが演じるその面白さ。これを見る客の爆笑。笑わぬ男を、ころげまわつて笑いながら見る客。キートン喜劇はすでにそこに皮肉があった。

ことにキートンは小柄で胴が長く腰が大きい。そのスタイルにはどこか日本人をさえ思わせた。しかもその無表情さ。これを俗に『**ストーン・フェイス**』（石のごとき顔）と呼んだのだが、どうも日本人の無表情っぷりと似ているのであった。それゆえでもなかろうがキートンの人気は日本では大いに盛んだった

さて、チャップリンにはペイソス（悲哀）、ロイドには勇気、ところがキートンには……メランコリイ（ゆううつ）が呼びもの。喜劇スタアがメランコリイで人気を呼ぶ。これにはよほどの演技の実力が必要だ。そしてキートン映画の面白さはそのギャグ（笑いの種）のすばらしさ。一分間に一回は笑わせてくれた

しかもそのギャグが、いま見ても、とびきり上等の漫画スタイルなのだ。フランス人がキートンに盛んに拍手を送ったのもそのギャグの見事さゆえだろう

さて、チャップリン映画が『**ビバ・チャップリン！**』のかけ声で「**モダン・タイムス**」を第一弾としてぞくぞく名作登場の、このときに当り、こんどはキートン喜劇が『**ハロー！キートン**』のかけ声で、これまた名作ぞくぞくの登場だ。チャップリン映画に感激の若きファンは、ここにまた……キートン喜劇の真価をあらためて知ることであろう

その第一弾にとび出すのが、一九二五年作の「**セブン・チャンス**」。日本では「**キートンの栃面棒**（とちめんぼう）」と題して大正十五年の七月に封切られた名作だ。そのころといえば**ロナルド・コールマン**の「**ステラ・ダラス**」、**ジョン・バリモォア**の「**海の野獣**」**ヴァレンチノ**の「**熱砂の舞**」が封切られたころである。オールド・ファンにはたまらなく懐しいころである。

さて…「セブン・チャンス」とは何なのか。無口無表情、内気なキートン、思う彼女に恋も打ち明けられぬ、そんな男。てんで結婚なんか思っても希望なし。ところがこの男に祖父の遺産がころげこんだ。ただし……ここが問題だ。「二十七歳の誕生日の夕方七時までに結婚すれば、七〇〇万ドルの遺産をゆずる」大変だ。そこで友人が考えて今日の五時までにこれこれの男と結婚する女を求む。こんな記事を無断で新聞に出してしまった。

この男、当年とって二十七歳、もはや考えるよちなし、それもなんと今日がその誕生日。さてその新聞その夕刊を見た町じゅうの女があわてふためき教会に馳けつけてきた。それが十人二十人……いや百人、千人と、さあ大変だ。

ストーリーのアイディアも面白いが、それよりキートン扮するその男を描く演出が面白い。彼はかねて愛した女の前に立った。女も心のうちで彼を愛している。しかし内気な彼はひとことも愛の言葉が口から出ない。そのとき彼女は小さな犬をつれていた。その日の春はやがて夏に移った。またも男はその女の前に。しかし愛していますとやっぱり云えないのだ。彼女の犬はすこし大きくなっていた。やがてその夏は秋に移った。男は彼女の前に。しかもまだ一言も愛していますとはいえない。彼女の犬はもうすっかり大きくなっちまった。やがてこの映画のラスト・シーン。冬だ。犬はも


「海底王キートン」


「キートンの機関車」


「荒武者キートン」


「キートンのゴー・ウェスト！」





キートン／その生いたち

バスター・キートンは一八九五年十月四日旅芸人だった両親の巡業先のビックウエイでうまれた。三歳から舞台に出て、父に投げとばされるアクロバットの役を二十歳までつづけた。キートンは〝人間モップ〟と呼ばれたが、五十歳をこえた父キートンが二十歳の息子を投げとばせなくなって、一座は解散したのだ。一九一七年、映画界入り、キートン・プロを作るが一九二八年解散。いらいトーキーの波と共にサイレント時代の才能を発揮できなくなる。一九四〇年、二十二歳のエレオノラ夫人と再婚、一九五九年、オスカー特別賞受賞、一九六六年、肺ガンのため死去。七〇歳、作品数一四一本





写真は上から１歳と５歳のキートン、父ジョー、母マイラと共演シーン(1901)、ついで1965年「レール・ロッダー」のキートン、そして夫人のエレオノラと



「キートンの蒸気船」

きくなりすぎて、二人はその巨犬の向うとこっちから顔を上げ背をのばして話さねばならぬ。さてこのとき、ついについにお彼は、愛していますと云えたのだ。女は大喜び。彼に喜こんで接吻と顔をつきだしたその瞬間、巨犬の方がさきにキートンの顔をペロリ。その演出の面白さ。

さて……カンサス生れのこのキートンはアクロバット芸人夫婦の子供だった。両親はこの子供を一歳何ヵ月で早くも舞台につれだし両親はこの子供をキャッチ・ボールのボールそのまま投げ合った。さすがこれには警察からひどいお叱りを受けた。しかし三歳のころには、すっかり芸を仕込まれて、この親子は「ザ・スリー・キートンズ」という看板かかげ舞台で人気を呼んだ。ところがある日、この子が舞台の高い台からころげ落ちた。アッと客がびっくりしたのに、この子はスックと立って平気で次ぎなる芸をやりだした。これを客席から見ていたハリイ・ホゥーデニィが「おお、バスター！」と叫んだのだったが「おお、でかした！」という意味である。このハリイ・ホゥーデニィは当時有名な手錠抜けの芸人だ。この有名な男はのちに映画化もされ、この男を映画ではトニー・カーティスが演じていた。さて「おお……バスター！」このかけ声で『バスター・キートン』という芸名がこの子供にその日につけられたのだ。本名はジョセフ・フランシス・キートンだった。

このキートンは「**サンセット大通り**」「**ライムライト**」「**80日間世界一周**」「**おかしな、おかしな、おかしな世界**」にも出ていたので御存知の方もあろう。しかし惜しいことに昭和四十一年の二月一日、彼は七〇歳で病死した。

しかしキートンの真価これこそは「セブン・チャンス」を第一弾に、やがてこれについでの「**海底王キートン**」「**キートンの蒸気船**」などで初めておわかりになろう。

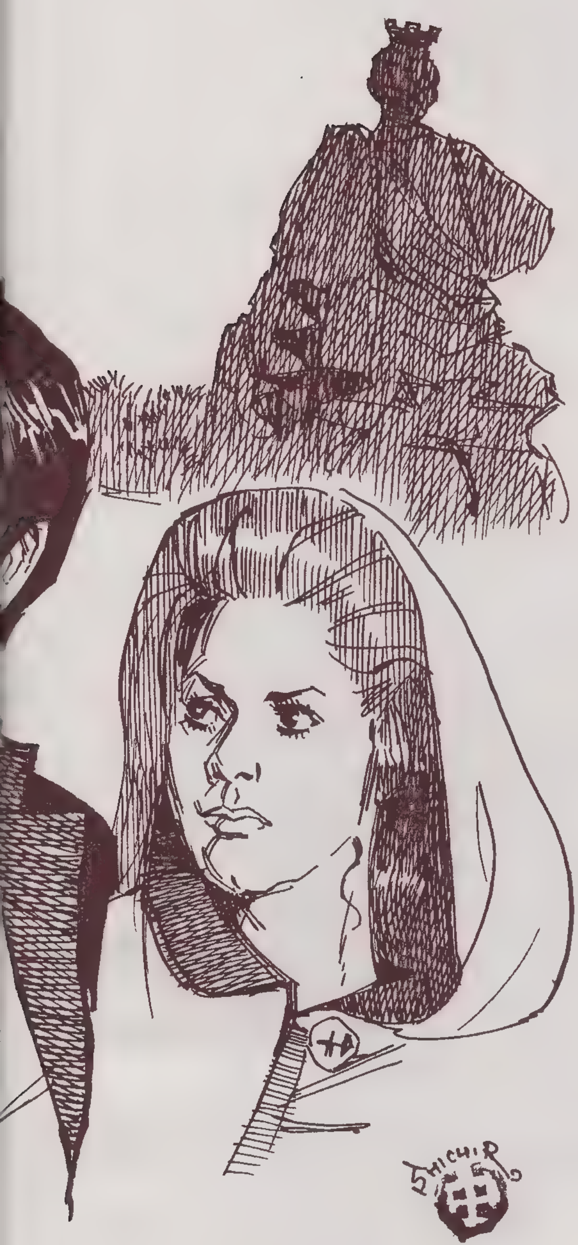
アクロバット芸人だったそのキートンの身のこなし、運動神経のすばらしさ。しかもその映画の中の顔は運動神経まったくゼロの、そのおかしさ。このキートンを見て、チャップリンとともに、いかにサイレント時代のドタバタ喜劇が面白かったかを、悟られることであろう。



よこから
ひとこと

ご両人のご希望にそって、今月はひさしぶりにメロドラマ。話のなかに、おふたりの意外にナイーブな面がでてきたような気がする。

三橋さんは、四月から「みんなで歌おう73」（NTV系）が始まった初日はかなり緊張していたようだが彼の個性を生かした、楽しい音楽番組になりそう。



男どうしで語ろうよ

ベッド・シーンがなかなかうまい女優だね

ロバート・ワイズ監督の「ふたり」

おしゃべり〈 三橋 達也 / 由原木七郎

TWO PEOPLE

三橋 彼女がいいね。**リンゼー・ワグナー**って新人でしょ。はじめモロッコのレストランに入って来て食事をするシーンでは、すこしもいいと思わなかったけどね。ギスギスした女だと思ったね。

由原木 はじめいいと思わなかった。だけど絶世の美人だね（笑）

三橋 いや美人とかいうことじゃなくて、彼女の魅力は動くところにあるね、表情がいいよ。

由原木 どの辺からよくなったかね。**ピーター・フォンダ**と知り合いになるカサブランカまでの汽車の中もどうってことなかったよね。汽車が故障して、近くの村で一緒にいた編集者の**エステル・パーソンズ**が、さんざん買物して来たとき、ワグナーがピーターの方をちらっと見るじゃない、あの目つきがよかったな。あの辺からかな。よくなったのは。

三橋 パリに来てからだなよくなったの。カメラマンが**アンリ・ドカエ**と**ジュラルド・ハーシフェルド**の二人じゃない。そのせいかな。アンリ・ドカエの方は、モロッコのロケが終ってパリに戻ってきて、やっと彼女の魅力をつかんだんだな（笑）。

由原木 しかしこの映画ほど、男と女で見方が別れるものはないんじゃない。ピーターが、ベトナムの戦場から脱走して、はじめはソ連でちやほやされて、政治家に利用されて、スエーデンに来て、モロッコに来て、なんていう男の気持は女にはどうしても理解できないんじゃないかと思うよ。

三橋 男と女の差というより生活の差じゃない。脱走した彼のいわば隠遁生活は女にもおぼろげにはわかるだろうけど、なにしろ彼女は19歳で月収10万ドルの生活をしてたっていうトップモデルだろ

のようで、ハリウッドの映画でみせられる軍隊っていうと、スポーツやゲームみたいで、あいつら陽気にやってるって感じだったけどはじめてじゃない？こういうの。真面目な人間には、やっぱりつらいところなんだね。

三橋 なんていうのかな、非常に高級な反戦映画ですよね。なまなましい残酷シーンを見せるわけでもないし、かしこまって正面切って反戦って叫んでるわけでもなし、非常に説得力がありますね。

由原木 反戦運動に対する批判も効いてるよね。脱走兵のピーターを利用する政治家のいやらしさ彼女の方でも、ニューヨークで反戦デモに参加したら、マスコミ用に有名人と一緒に先頭を歩かされて、その夜、進歩派の政治家と寝ちゃった、なんていってたね。

三橋 パリ会談に来てるベトナムの代表が、毎夜パーティに現われる、なんてのも出てたしね。停戦になった今だから描けるし、わかるっていうところもある、大人の反戦映画だね。

由原木 しかし彼女は握手するみたいに簡単にセックスするんだね。四年半カメラマンと一緒にいて、子供までできたけど、結婚はしたことない。向うじゃ〝同棲時代〟なんて騒ぐまでもなく、どんどんやっちゃってるんだね。だけどベッド・シーンがうまい女優だな。モロッコが出てきたからすぐ思い出したけど「カサブランカ」のイングリッド・バーグマン以来じゃない、ラブシーンのうまさはちょっと長かったな。

三橋 あのベッド・シーンはちょっと長かったな。最近の傾向だし、興行的なこと考えるとしょうがないのかも知れないけど、ふたりだけの向かいあった演技があれだけあるんだから、ベッド・シー



一度画面がぼけぼけになるでしょ
あの後は余計だな。

由原木　そう、あの後ピンが戻ってから、やけに生々しくなったよね。

三橋　彼女は新人なのに心理の変化はよく演じわけてたな。**ロバート・ワイズ**って「砲艦サンパブロ」の監督でしょ。彼特訓したのかな。はじめ汽車の故障の間に彼を誘うシーンなんか、なんて淫乱な女かと思ったけど、そのうち火遊び半分が、だんだん本物の愛に変っていくあたりね。

由原木　どの辺から本気になってきたかね。パリで一度別れて、クラブでばったり顔を合わせるあたりかな。

三橋　いや寝てからですよ。終ってから彼女が「点数教えて欲しい？」って聞くじゃない。あれは火遊びのつもりが本物に変っていくことへの虚勢だろうし、テレだろうけど、あのとき彼が「よせ！」っていうと、彼女がすっと真顔になるじゃない、あの辺ですよ。

由原木　その辺の男女の機微みたいなものはよく描いてるね。

三橋　ボクもうひとつ好きだったシーンは、パリからニューヨークへ来て、ピーターを家へつれて来るでしょ。それで台所でお母さんと彼女が話してて、お母さんが「今までのボーイフレンドとちがって、彼には親近感がもてるわ」っていうと、彼女が、わっとお母さんに抱きついて泣くじゃない、あのシーン、ボク好きだったな。

由原木　感じが出てたね。

三橋　それからね、彼女がいいなって思ったシーン、ボクは違うんだな。パリの夜の街を歩いて二人でホテルに入って来るでしょ、エレベーターをおりてから、彼女がパッと鍵をなげて、階段のところへ隠れるじゃない、あのときの表情が実に可愛いかった（笑）。

由原木　あの辺もう少しなにかあるのかと思ったけど、あれだけなんだね。でもこの映画、実になんでもない日常生活を描いてるよね。日本なら脚本の段階から通らないよ。

三橋　なんでもないことの積み重ね、というのは「ある愛の詩」あたりからの影響だろうね。しかしピーターの方は、あれは真に勇気のある男だよね。脱走は反戦のためであって悪いことをしたとは思わないけど、もう脱走してる意味はないし、生活を取りもどしたいから、アメリカにもどって自首するっていうんでしょ。その間にあんな素敵なパリの夜があって、恋があって、女から、ここにとどまって生活しようっていう、実に強い誘惑を受けるわけでしょ、ボクなら負けちゃうな。きっとヒモみたいな生活だろうけど、ボクならそうしちゃうな（笑）。

由原木　この映画、色調がガタン・ガタンと変るね。

三橋　フィルムを二種類使ってるんだよね。普通のシーンは殆どノーライトで撮ってるんだけど、光量が足りなくなるとハイスピードのフィルムに変えてるんだな。セントラル・パークで別れるシーンなんか、彼が公園の外に出てきたとき、がらっと色調が変るでしょ。あれあのシーンとるときに夕方になっちゃって、フィルムを変えたんだろうな、急に黄色っぽくなりましたよね。

由原木　くわしいね（笑）、それにしても彼女がいいね。ピーターはやけに足が長くてぎこちない歩き方だし、受けの演技はよくやってはいるけどね。

三橋　そう、彼女がいい。彼よリ彼女を買うねボクも（笑）。



●今月のボディライン●
スー・ジェラード

スー・ジェラードはロンドンの人気トップ・モデルである。彼女の住いはロンドンのミューズにあり、ここで気ままなひとり暮し。といっても、スーの話題のひとつは、あのトム・ジョーンズのガールフレンドだということで、事実、いくら二人がイギリスで否定しても、イタリアの新聞や週刊誌はどんどん彼らがデートしている姿をスナップし“正真正銘ロマンスは存在する”と書きたててるんだからどうしようもない。さすがに恋人がトムともなると、話は国際的であります、チキショー。

トムとスーは今までに4本の映画に共演している。そして、こんどトムがスペインのマドリッドとアルメリアで撮影するウエスタンにも共演がきまっている。スーはまた、テレビのCMには35本も出ていてこの方面ではベテラン。

スコットランドうまれの24歳で、17歳のときからモデルになり3年前の1970年には、イギリスで“最高価格のモデル”といわれた。

その年、彼女の胸にとびこんで来たのが他ならぬトム・ジョーンズであったわけ。

ごらんのように、あどけない顔立ちの割におどろくほどのボインで、これがボヨヨーンとゆれると、イギリスのテレビ視聴者は“イギリスで最高のボイン”と称賛したものである。

トムは自分のテレビショーのレギュラー・メンバーにスーを加え、女優兼ダンサーとしてスーと契約、イギリスとアメリカの巡演には絶対欠かせないメンバーとなった。そしてご念の入ったことに、ショーでない場合は秘書としても同伴するという熱の入れかた。これでは彼の恋人でないというほうがおかしい

ところでスーの意見をひとつ「トムって才能あるひと、男性としてもステキ。でも私ももう24歳。誰かトムなしでもかわいい、魅力的だよって云って」

魅力的だよ、かわいいよ。





THE TORSO
OF THE MONTH/
SUE GERARD

あのトム・ジョーンズの恋人なの！





エンパイア劇場も話題作「レデイ・キャロライン」が人気を集め

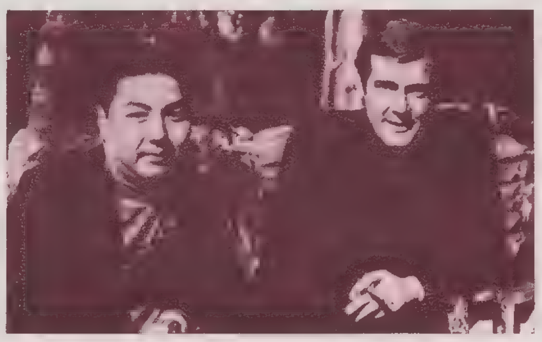


オデオン劇場はコネリーの「ディフェンス」を上映中



リセスター・スクエア劇場では「戦争と冒険」がロングランを





黒ずくめのロジャー・ムーア、清楚なジェーン・セイモアと高山さん

燃えるイギリス映画界

高山鉄郎

イギリス映画の観客層も大きく変化している。

『時計じかけのオレンジ』が昨年から大ロング・ランをつづけ連日若者の長蛇の列。**『戦争と冒険』**が当っている。**『レディ・キャロライン』『ポセイドン・アドベンチャー』『危険な時を永遠に』**が大ヒットで今年からロングを続けている。全てヤング・パワーが独占している。

途中上映を極端に嫌う彼ら。開場を二時間も並んで待つ間、恋人と肩を組み、レコードのこと、映画のこと、話しはつきない。ポルノ映画は観光客用のものになった感が深い。日本がそうであるように、世界の観客層は若者が握った。アメリカでもイギリスでも。

「私たちの映画創りも若者向けの企画。スタッフ、キャスト、私も含めて、若くありたいし企画じたいも考え直さなければならない。映画こそ若者のものだ」

007シリーズの**アルバート・ブロッコリ**プロデューサーの言葉が現代の映画創りを代表する言葉のようである。

私が3代目ボンドだよ

切り札007シリーズ第8弾**『死ぬのは奴らだ』**は今年の夏、世界公開を前にクライマックスシーンの撮影が最高潮。

昨年9月24日ニューオリンズのロケからスタートしたこの映画は、マイアミ、ジャマイカを廻り、一月にはジェームズ・ボンドの本拠地、ロンドンのパインウッド・スタジオへ帰って来た。ここは、今までの7作が全てそうであった様に、最後の仕上げ、クライマックスシーンの磨きをかける所である。想像を絶する、40億円という製作費を投じている。製作課程は、変更されていないが、第8作ではスタッフ・キャストがすばらしく若返った

ロンドン・パインウッド・スタジオEステ



楽いロンドンでのセイモア(上)とフランセスカ・アニス





ージ。（スタジオ内のステージ13個を一度に借り切り大セットを組んでの撮影である。中でもこのEステージはとてつもなく大きい）ジャマイカの再現である。ステージ内には川が流れ、滝がゴウゴウと凄い音をたてて水しぶきを上げている。スタジオを訪問した私に、

「私が3代目ジェームズ・ボンドだよ。よろしく」

と気軽に**ニュー・ボンド＝ロジャー・ムーア**が話しかけて来た。

TVシリーズ〝セイント〟シリーズ、ユナイト映画の『**大逆転**』でスクリーン上からお目にかかったとは云え、**ショーン・コネリー**以外のボンドは?という不安をロジャーは、一目で完全にうちのめしてくれる。おそろしく機敏な動き、甘さの中に光るするどい瞳、特にキャメラの前に立つ時の真剣さは抜群である。この日のロジャーのモードは黒いタートルネックのセーター、黒絹のスラックス。



「死ぬのは奴らだ」でのムーアとガン

肩から吊ったガンホルダーが、ぴったりきまっている。

「第6作、第7作ともロジャーを使いたかった。スケジュールがぎっしりで駄目だったんだ。彼と交渉を始めて4年目でやっと実現したが、私の目には狂いはなかった。今後よほどのことがない限り、ロジャーでいくよ。もう9作目も契約済だ。そう『**黄金銃を持つ男**』に決定したし、脚本もほぼ完成したから、この撮影が終ったらすぐロケハンし、今年の暮から撮影を開始することにしているんだ」

と製作者の一人**ハリー・サルツマン**が語ってくれる。

「幸運です。今までのより、今度の私の役が一番ドラマチックで、出演場面も一番多いの

（次頁へつづく）



写真は左側上が「マクベス」のアニス、下が「イエロー・ドッグ」の田宮とロイ・ファレル、右側上がムーア、下がジーン・セイモア







（前頁よりつづく）

よ。処女の時には未来を告げる事が出来る女なんだけど、ラストはジェームズに……そして凄いことが起きるのよ」

というのは清純そうな顔立ち、一きわ色の白さが目につく**ジェーン・セイモア**。8作目ボンドガールである。白いドレスの中からかすかにのぞく豊かなバストが私の目を輝やかす。**ダニエラ・ビアンキ**と**オリビア・ハッセー**をミックスしたような日本人好みのする美人だ。今までの作品は『**素晴しき戦争**』『**戦争と冒険**』など。

現代によみがえる《マクベス》

アメリカのプレイボーイ誌の編集長**ヒュー・M・ヘフナー**の製作総指揮、**ロマン・ポランスキー**の演出で現代によみがえった『**マクベス**』。

この作品で2人のフレッシュな大物新人スターが誕生した。マクベスことジョン・フィンチとレディ・マクベスの**フランセスカ・アニス**である。

レディ・マクベスの虚像と現実が交錯して妖しい魅力に酔っていたとき、アニス自身が私の滞在先であるロンドン・ケンジントン・パレスホテルへ尋ねて来てくれた。

「私には、とてもレディ・マクベスみたいな生き方は出来ないわ。結婚によって、相手をそくばくする様な生活もしたくないし、夫に夢を託し、自分も生きるって行き方もきらいなの。野心など私にはないのよ。だから、女優としても一時の人気スターになるより、着実な演技派で息の長い俳優になりたい。チヤホヤされたくないのよ」

とお喋りも優雅に、気品がある。ロングドレスに、母が編んでくれたというショールを無雑作にはおって、化粧っ気まったくなしの素顔。ふしぎと可愛さも兼ねそなえている。

「レディ・マクベスは舞台でも演技経験はないの。だいたい今までマクベス劇は、40代から50代のシチュエーションですからネ。その意味では長く蓄積されているはずの憎しみや野心をジョン・フィンチと共に一気に演じきることにものすごく苦労したのよ」

今まで「ハムレット」「ロミオとジュリエット」「テンペスト」などはシェークスピア劇団で経験ずみ。その演技ぶりは専門家すじでも高く評価されていたという。

映画は**エリザベス・テイラー**の『**クレオパトラ**』でアイリス役、その後『**マロニエの別れ道**』に出演というから3本目ということになる。

「好きな食物は、カレーと羊の肉。嫌いなのは野菜。趣味は読書とバレエ。最高に好きなことは睡眠をとること。今でも9～10時間は寝ることにしてるの」

「緑のハイド・パークを自転車で走るのが楽しみ。もちろん一人でよ」といたずらっぽく微笑む彼女だが、ロンドンっ子の注目は、ロマン・ポランスキーとのロマンス説だ。6月結婚がささやかれているから。

（このアニスが4月9日、日本にやってきたが、片目がはれて病院通い。記者会見では何でもよく話し、かなりの理論派。ポランスキーとのロマンスもうまくはぐらかされた）

ナウな《イエロー・ドッグ》

編集終了したての新作。まさにプリントから湯気が立っているほどの新品。『**イエロー・ドッグ**』（**テレンス・ドノバン監督**）の完成試写に招かれた。黒沢作品の脚本で世界的に有名な**橋本忍**のオリジナル脚本、**田宮二郎**主演。異国の地ロンドンにいながら、近くなっ

面白い。期待にそむかないアクション。スケールの大きな物語展開の中にひそむ意外性そしてキャメラ・ワークが素晴しい。

物語は、日本の内閣調査室の情報員が、日本で行なわれる燃料革命の学会発表を前にロンドンへ行き、機密漏えいを防ぐために活躍する。この燃料革命の機密に日本、イギリスアメリカのスパイが入り乱れて、国際的スケールでアクションを展開する。

主演の田宮二郎の他には、表面的なネームバリューより内容中心のキャスティング。かつてカンヌ映画祭で逢った『**支配階級**』の**キャサリン・セイモア**。シェークスピア役者として名のとおっている**ロバート・ハーディ**と芸達者ががっちり脇を固めている。

監督はテレンス・ドノバン。商業映画出身の新進気鋭で、ベニス、カンヌの国際映画祭の商業映画部門で金賞を独占した才腕。やや荒っぽい手法に鋭い映像感覚が突っ走る。米・英ではヌーベル・バーグの再現ともいわれている。それにこの『イエロー・ドッグ』が劇映画は初めてで、イギリス映画界の期待の才能にふさわしい出来ばえだ。

このテレンス・ドノバン監督には、試写後彼のオフィスで逢った。丸々と太り、やや童顔。根はテレ屋なのかよく笑う。ロンドン・ソーホー地区の近く、中華街の真中、広東料理店の奥まった2階が彼のオフィス。

「劇映画をつくりたいとは前々から思っていた。『イエロー・ドッグ』は私のアイデアでこれをどう脚本化するかでいろいろ考えたがミスター・ハシモトが素晴しいものを作ってくれた。」

と製作のいきさつを語る。

1936年ロンドン生れの彼は、22才の時独立してヴォーク、ハーパース・バザー、エルなどの仕事をしてイギリス写真界のニュー・ウェーブと騒がれた。その彼がいまイギリス映画界のニュー・ウェーブとして脚光を浴びるところとなっているのだ。

「近くこの作品をたずさえて日本へ行くつもりだ。日本のファンにも満足してもらえるものだと自負している。映画作りは、やる気になれば資金は集まるものさ」

と、この若い映画作家はいま燃えたぎる情



梶芽衣子

MEIKO KAJI

梶芽衣子といえば、いまや“さそり”より“怨み節”のほうが有名になってしまった。人を射るような上目づかいの目、シャープなボディライン——このカッコいい女のコがなんで怨み節をうたわなければならないのか、その意外性がうけるのだ。「続・仁義なき戦い」で張り切っている。





萬屋錦之介《子連れ狼》お茶の間に旋風を…

どこからともなく現われた一匹のアウトローが悪人を倒し、最後にまた飄然とさすらいの旅に出るというシチュエーションは、西部劇「シェーン」から黒沢明の「用心棒シリーズ」など、いろんなパターンがあるが、この「**子連れ狼**」ほどユニークなものはない。

柳生一族の権謀術数によって、三惨殺された元公儀介錯人、拝一刀が柳生への復讐と拝家の再興を悲願に士道をすて刺客人として諸国をさすらい、さまざまな事件に身を投じていくというこのドラマ。すでに映画では**若山富三郎**主演によって一つのタイプが生み出されていたが、春からNTV系でスタートした**萬屋錦之介**のそれも新しい個性となりそう。











の）をつけた乳母車も、お茶の間のあらたな魅力となろう。第一話では早速この乳母車が、武器をいろいろかくした秘密兵器であることを見せ

日活ロマン・ポルノ女優**片桐夕子**が登場、ピンク・ムードでちょっとしたショッキングだった。また拝一刀といえば大五郎というほど有名になった子役には、五歳の**西川和孝**クンが扮している。が、錦之介も顔負けの大物ぶりが話題となっている。全然ものおじしないところがおみごと。

小池一雄・小島剛夕のコンビによる原作劇画は徳川幕府の大名統制の苛酷な制度を背景にうまれているが、拝一刀の存在はこの暗黒支配のもとにできた三つの組織の一つを代表する。その三つとはスパイ活動をするお庭番、邪魔ものを暗殺する刺客人、そして廃絶、切腹を命じた大名の介錯をする介錯人、であった。そして公儀は介錯人を特別に選定し、三ツ葉葵の紋服着用を許したが、この特権を拝一族は柳生一族に奪われたのだ……。



シリーズ《対決》⑥

原田芳雄 VS. 天知茂

変った個性の、変った生きかたをする二人のヒーローがブラウン管の話題をあつめている。

片やバリっとしたレインコート、粋なタイ姿のはんぱもの刑事、天知茂。対するは黒いジャンパー・スタイルにメタル・ステッチをし、黒メガネにレイヤード・ルックをみせる自由人、原田芳雄。いわばベテランと新進の対決だが、悪に対する考えかたはまったく表と裏なのがおもしろい。

天知茂の「非情のライセンス」（NET系、原作・生島治郎「兇悪の門」）は、おとり捜査の行きすぎや、過剰防衛のため捜査一課を追われた刑事たちのたまり場〝特捜部〟に所属する刑事で、その男のなかにひそむ孤独、悲しみ、そして事件のためには手段をえらばない非情さをも持ちあわせている。いつも一匹狼の生活に満足感さえ感じているのだ。

原田芳雄の「真夜中の警視」（フジテレビ系、シナリオ作家協会企画）は、もと有能な警官だったが、なぜか退職して有線放送の経営者になり、何者にも束縛されない自由な立場で殺人、麻薬、女体密輸といった事件にとびこんでいく男。だが彼は決してひとりよがりの正義漢ではなく、クールに悪の本質と向いあう。

組織のなかのはみ出しものと、組織からとび出した自由人——この対決はみものである。そして天知茂には、月に一回、遊びにいく銀座のクラブのママ役で村松英子がからみ、原田芳雄にはルポライター役で中野良子がコンビを組んでいる。

昭和六年うまれの四十二歳と、昭和十六





●非情のライセンス



●真夜中の警視



年うまれの三十二歳、そして衣裳も、こちら白いトレンチコートと黒いジャンパー・スタイル、どこまでも対照的な二人だ。

THIS FACE/5

ロマンポルノの小妖精/山科ゆり

撮影/長友健二



彼女が急に艶っぽくなったのはホンのここ二、三カ月のことだ。「昼下りの情事・古都曼陀羅」のみな子を演じた彼女が正真正銘の十九歳だなんて、本当に女ってのは魔物だと思っちゃう。彼女のアップは、どこか太地喜和子に似ていて、成熟したオンナを想わせる。

山科ゆり——。昭和二十八年十月二十八日生まれ。生粋の秋田美人だ。秋田高校中退後、モデル、ピンク映画出演などを経て、四十六年十二月に日活に入社。翌四十七年一月「牝猫の匂い」でデビュー、日活ロマンポルノ一線級女優として第一歩を踏みだした。例の白川和子の引退後はロマンポルノのあらたな看板スターとなった感ありで、人気はますます上昇中。田中真理と双璧を成そうというところ。年間約十〜十一本、月一本の出演ペースとくれば、これはもう、まさに山科ゆりあってのロマンポルノと言えそうだ。

一人でいるのが大好きだと言う。以前は住んでいたところにほど近い深大寺をよく散歩したらしい。また「つり」が大好きで、ヒマを見つけては糸をたれると言うから、商売に似合わず案外古風なシットリとした女の子らしいのだが…。

彼女はいま新作「女高生（スケバン）・肉体暴力」にとり組んでいる。それが終ればこんどはすぐ「濡れた荒野を走れ」のクランク・インと、夏から秋にかけてのスケジュールがビッシリとつまっていて、目がまわらんばかりのいそがしさだ。けれども彼女は一見おとなしそうに見えてなかなかシンのしっかりしたコで、めったなことではネをあげない努力家とはもっぱら関係者のあいだでのウワサ。それに身長157センチ、体重45キロ、上から80、58、85と小気味よくまとまったプロポーションと、何よりも十九歳という若さが最高の武器だ。

あらゆる可能性を秘めて彼女はいま「ロマンポルノの小妖精」から「ロマンポルノの女王」へと着実に歩を運んでいる。日活が今一番力を注ぎ込んでいるのも彼女だ。今後もっとも期待されていい山科ゆりくんである。





HIROKO SHINO



いつの間にか女になっていた



「悪い遊び」「ちいさな恋」などをうたっていた元気のいい歌手、シャンプーのコマーシャル・ガール、いやキミの頭に残っている篠ヒロコといったら、すらっとした体をビキニに包んだピンナップ・ガールとしての彼女かな。でも「時間ですよ」（ＴＢＳ系）のお涼さんも篠ヒロコに似てる……似てるんじゃなくてあれが現在の彼女なんだな。いつの間にか、こんなにしっとりとした味の出せる女になっていた、というわけ。もちろんさっと衣装を脱げば、右頁にご紹介したような、ジーンズやホット・パンツをバッチリ着こなすナウな女の子が現われる。だけど、彼女いま一生懸命なのだ。「丸顔だからかな、もう少しやせなきゃいけないのかな……」さびしくて豪華な紫の女のイメージを身につけるために、ディレクターについて特訓中なのだ。はっとするほど妖しい表情が現われては消える。

（撮影／棚沢幸夫）

「時間ですよ」で紫のムードに挑戦中の篠ヒロコ



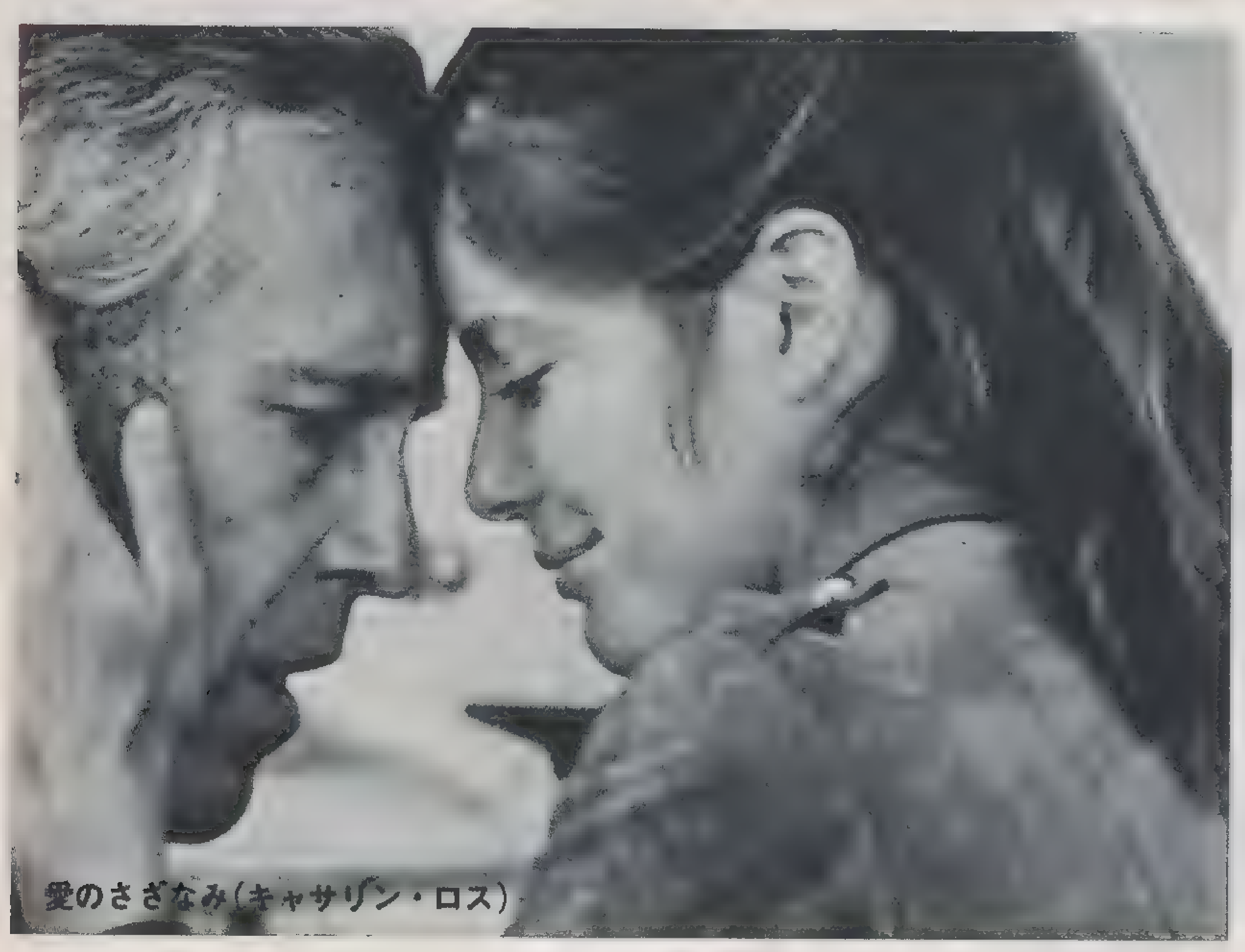

DEANNA LUND
MOVIE PICTORIAL JUNE 1973 ★ PINUP MATE
映画情報６月号★ピンアップ・メイト／ディアンナ・ランド

セクシーに、陽気に、神秘的に

—個性的な三人の女優の新作—

"女をつくる魔術師"と呼ばれるロジェ・バディム監督が、また新しい女優を世の中に送り出したグエン・ウェルズ。バルドーもドヌーブもジェーン・フォンダも、バディム監督と出合ったときにそうであったように、ウェルズも褐色の髪の女性遠くを見つめるような神秘的な瞳、無邪気さの中の、驚くほど大胆なポーズ、新しい個性の誕生である。「卒業」で決定的な人気を得「夕陽に向って走れ！」「明日に向って撃て！」とつづいて出演したキャサリン・ロスは、陽にやけた健康的な雰囲気と、濃いまつ毛の下の神秘性をあわせもったひと。テレビの「ぼくらのナニー」（NHK）でおなじみのジュリエット・ミルズはヘイリー・ミルズのお姉さん。今月はこの三人の個性的な女優の新作をご紹介しよう。（次頁へつづく）

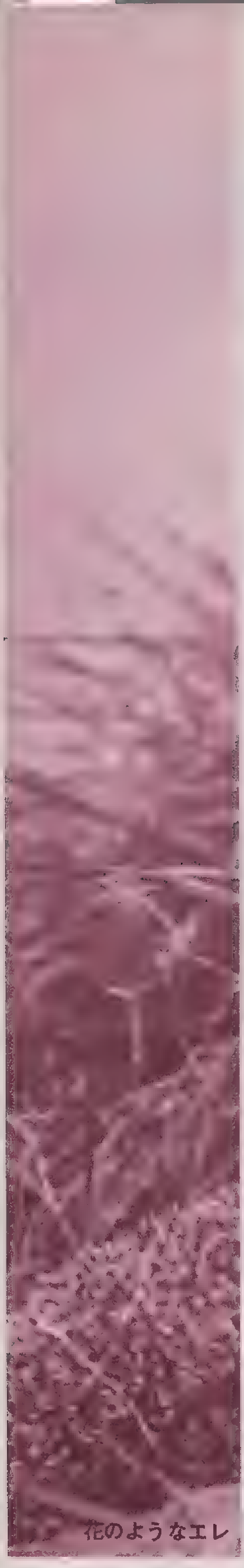

花のようなエレ（グエン・ウェルズ）


愛のさざなみ（キャサリン・ロス）


お熱い夜をあなたに（ジュリエット・ミルズ）

セクシーに 陽気に 神秘的に

―個性的な三女優の新作―


花のようなエレ


愛のさざなみ


愛のさざなみ

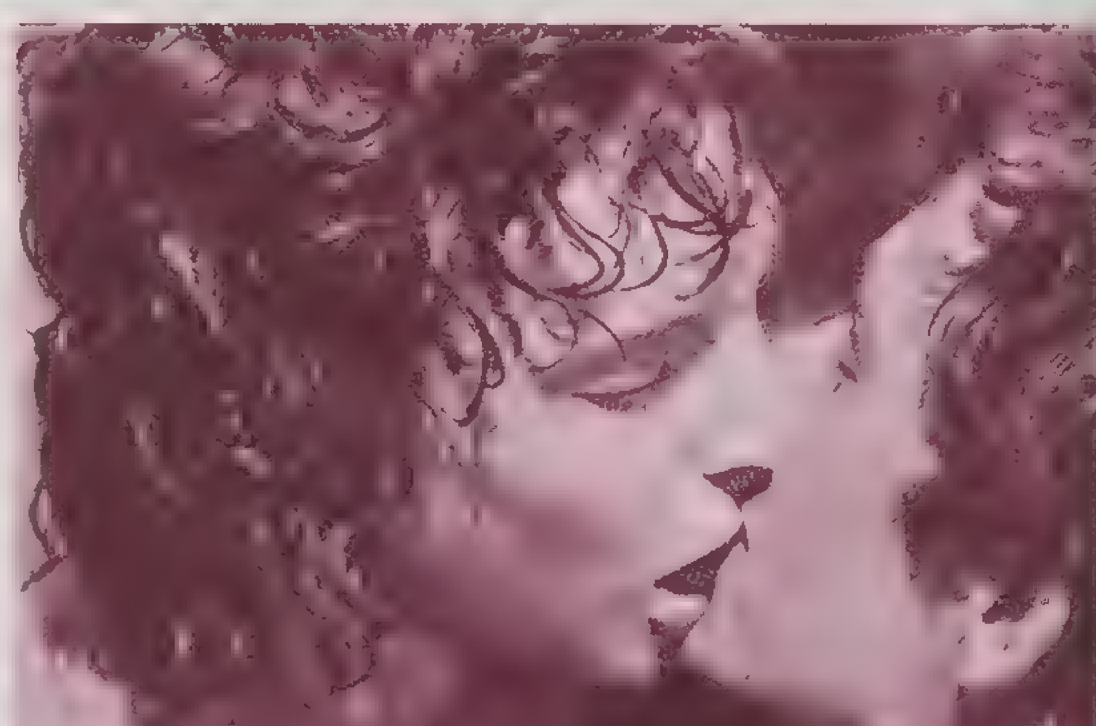

お熱い夜をあなたに


花のようなエレ


お熱い夜をあなたに

グエン・ウェルズのバディム作品へのデビューは**「花のようなエレ」**(原題HELLE)。エレは南フランスの田舎に住むみなしご。耳も聞こえず、口をきくこともできない彼女は、野の花や風を友達にして、毎日を暮している。自然な美しさを持つ彼女は、当然山で働く木こりたちの欲望の対象になり、彼女はすべての男たちの欲望を何の低抗もなく受け入れている。ある日彼女の前に17歳の少年が現われ、少年は大人達の世界から逃れるように、無垢なエレを愛するようになる。言葉のない二人の語らいは、渓流に、かげろうの野辺に、ガラス細工のような透明な別世界をつくり出していく……。このエレに扮するグエン・ウェルズはロサンジェルス生まれで、オーソン・ウェルズ主演の『安全地帯』に出演しているのが、バディム監督の目にとまって今回の抜擢になった。バディムはこの映画の原作を書き映画化できる時機を待ちつづけて遂にヒロインをアメリカ映画のなかに発見したというわけである。グエンは彼の





期待に応え、全くセリフのない、奔放でしかも無邪気、男たちの欲望にけがされながら、全く無垢な、そんな複雑な役を見事に演じている。

バディムの少年時代を写した、エレを愛する少年に扮するのはディディエ・オードパン。9歳のとき、ジャンヌ・モローの息子役として「雨のしのび逢い」に出演したひとである。

撮影は「血とバラ」「バーバレラ」などでバディムと組んだクロード・ルノワール。「ひきしお」のフィリップ・サルドが音楽を担当している。

キャサリン・ロスの新作「**愛のさざなみ**」(原題FOOLS)は、サンフランシスコの美しい街並みを背景にしたドラマ。ロスは、「〝卒業〟で愛する彼と駈け落ちしてゆき、その先の生活をこの作品で演じさせてもらったようなもの」と語っているが、人生に夢を求めてその夢にやぶれた女と男が、行きずりにふれあう苦い愛のドラマである。

ロスが扮するのは、弁護士を夫に持った若い女性。愛を錯覚し、結婚した彼女は、その結婚生活の中に空しさだけを見出し、新しい生き甲斐を手さぐりしているときに、中年の男性に出会う。潮風がやさしいサンフランシスコの夕暮である。男の方も、たまに恐怖映画に出演するぐらいの忘れられた映画俳優。人生に疲れていた二人は、やがてお互いの中に生きる張りを見出してゆく……平凡なドラマだが、この映画を救っているのはやはりキャサリン・ロスの魅力だろう。都会女性を演じながら、ロスのなかには、いつも野性的な明るさが息づいている。

中年の男性を演じているのは「マシンガン・シティ」のジェーソン・ロバーツ。他にジョーン・バエズの妹のミミ・ファリーナ、「砲艦サンパブロ」の岩松信といった珍しい共演者がいる監督は「ウィル・ペニー」「ナンバーワン物語」などを手がけた、トム・グライスである。

ジュリエット・ミルズは、ビリー・ワイルダー監督お得意のコメディ「**お熱い夜をあなたに**」(原題AVANTI!)で、ジャック・レモンの相手役として登場。ジュリエットは、妹のヘイリーと同じように小さいときから芸能界に入り、14歳のときにロンドンの舞台に立って以来、ブロードウェイの舞台、映画と活躍をつづけている。

映画は、アメリカの実業家が、旅行中に急死した父をイタリアまでひきとりに行き、この十年間父が同じ女性と夫婦としてバカンスを楽しんでいた、という事実を知る。そしてここで、父の愛人の娘と知り合い、父と同じようにイタリア式人生の楽しみ方を始めるのだが、情緒欠乏性のアメリカ人と情緒過多で伝統をあくまで守る官僚主義のイタリア人を対比させて、笑いを巻き起していく。アメリカ人の実業家に扮するのはジャック・レモン。その愛人がジュリエットというわけだが、この映画の中で、ジュリエットはイタリアの珍味をぱくついて肥ってしまう女性という設定なので、普段48キロの彼女が、監督の命令で60キロまで体重を増しての出演である。撮影が終ったあとのジュリエットの減量作戦は涙ぐましいものだったという。

共演はイタリア人よりイタリア人らしいという折り紙つきのクライブ・レビルで、絶妙の演技を見せている。





女だけの国の女だけの戦士

テレンス・ヤング監督の「アマゾネス」





アマゾネスというのは、ギリシャ神話のなかの伝説的な女武人族。一人の女王のもとで、女だけで国をつくっていた。弓と三日月形の盾を武器にし、斧や槍をつかい、馬に乗って戦う。民を絶やさないために、一定の季節になると他国の男に会って子を得るが、生まれた子は、男ならば不具にするか殺すかして女だけを育てる。戦争のときに弓をひき、槍を投げる邪魔にならないように、子供のときに右の乳を切りとったために〝乳なし族〟とも呼ばれていた。

ウーマン・リブだとか、上性女位だとか、現代の文明社会のなかでのごそごそとした運動とはちがって、これは、まさに痛快そのもの。

「007」シリーズ、「レッドサン」「バラキ」と、常にヒット作を放つテレンス・ヤング監督が、この伝説に目をつけ、スケールの大きな〝エロチック・アクション〟に作りあげたのがこの「謎の美女帝国アマゾネス」である。

出演するのはヨーロッパ各国から集められた〝アマゾネス・ガールズ〟。四〇〇人の女軍隊のなかで、主役クラスの四〇人を選ぶために、西欧、北欧の全





THE AMAZONS





域でコンテストを行ない、二四〇〇人の応募者があった。条件はセリフを言えること、身長一七〇センチ、体重六〇キロ以上であること。七時起床で、乗馬水泳、レスリング、槍投げ、円盤投げ、弓矢、サーベル、柔道フェンシングの特訓をうけ、夜は英語のレッスン、というハード・スケジュールをこなすためには、相当な体力が必要なのだ。

クローディーヌ・アンプクェルケ、ウルリカ・ペスシュ、デゴラ・マイヤー。まだみんな無名の新人だが、名前を記憶にとどめておいて欲しい。超一流の教授陣について、スポーツや語学の特訓を受けた〝万能の女たち〟が、やがて売り出してくることは必定。撮影はユーゴギリシャ、イタリアなどで行なわれたが、セクシーな決闘シーンでは、いつもロケ現場はヤジ馬でいっぱいだった。テレンス・ヤング監督は、この「アマゾネス」をヒット・シリーズにしようと鼻息も荒く、六月末の日本公開にあわせて、十二人のアマゾネス・ガールズをひきつれて、来日の予定である。

音楽を担当するのは、イタリアの映画音楽界の売れっ子、エンニオ・モリコーネである。









春時代

いた「戦争と冒険」

YOUNG WINSTON

サー・ウィンストン・チャーチル。第二次大戦中、イギリスの首相として指導力を発揮し、連合国を勝利に導いた英雄。「第二次大戦回顧録」などの著作によってノーベル文学賞を受賞。いつも葉巻きをくわえ、多忙な政治生活のなかで、画筆をふるったひと。

一八七四年に富裕な政治家の家に生まれ、一九六五年に九一歳で生涯を閉じたサー・ウィンストン・チャーチルは、英雄喪失の時代と云われる現代の最後の英雄といっていいだろう。

「戦争と冒険」は、このウィンストンの野望と冒険心に満ちた青年時代を描いたものである。

一八九七年、二二歳、インド国境の反乱部族鎮圧に従軍記者として参加。九八年、スーダン回教徒との戦いに二五騎を卒いる騎兵士官として従軍。さらに九九年、ボーア戦争に再び記者として参加。前線でとらわれたが、捕虜収容所を単身脱出。超人的な離れ業をなしとげた。

映画は、後に大政治家になる、この危険を好む青年の姿をくっきりと描き出している。特に、七〇ミリの画面に写し出される戦闘場面の迫力がすごい

主役のウィンストンには三人の俳優が扮している。幼年時代を演じるのはラッセル・ルイス、少年時代はマイケル・アンダーソン、青年時代は、四〇〇人の応募者の中から選ばれたサイモン・ウォードが演じている。ウィンストンの両親に扮するのは「卒業」のアン・バンクロフトと「空軍大戦略」のロバート・ショー。

監督は「素晴しき戦争」のリチャード・アッテンボロー、製作は「永遠のエルザ」のカール・フォアマンである

★

二二歳の陸軍騎兵中尉ウィンストン・チャーチル（サイモン・ウォード）にとって、この戦闘は名をとどろかす最初のチャンスだった。

ウィンストンは一八九七年九月一六日、従軍記者として、インド国境部族



26歳、はじめて国会議員になったとき。演じるのはサイモン・ウォード



24歳、ボーア戦争に従軍記者として参加、このとき捕虜収容所を単身脱出



22歳、インド国境の反乱部族鎮圧に、はじめて従軍記者として参加した



15歳、ハロー校の学生時代は劣等生だった。マイケル・アンダーソン扮



7歳、小学校に入学したとき、学校嫌いの彼だった。ラッセル・ルイス扮



最後の英雄の青

チャーチルの若い日を描

の反乱鎮圧に参加していた。近代的な武器を持たない反乱軍は、たちまちのうちに鎮圧されてしまったが、自分の危険もかえりみず、傷ついた従者を救出した彼の英雄的な行為は高く評価されたのだった。

戦いの終った戦場にたたずむウィンストンの胸中には少年時代の思い出がつぎつぎとよみがえってくる。

一八七四年一一月三〇日、ウィンストンは貴族の家に生まれたが、幼い時から愛情には恵まれなかった。父のランドルフ・チャーチル（ロバート・ショー）は国会議員で保守党の有力者であり、多忙な政治家として息子の相手などしている時間はなかった。母のジェニー（アン・バンクロフト）も、また、政治家の妻として社交生活に追われる毎日だった。

小学校を卒業したウィンストンはパブリック・スクールの名門、ハロー校に入学したが、ギリシャ語とラテン語の不得意な彼は、いつも劣等生としての成績しか上がらなかったが、ここではじめて学校生活の楽しさを味うことができた。ハロー校を卒業後、三度落ちてやっと士官学校に入学した。



今アメリカでブームを呼ぶブラック・シネマのひとつ。仕事も遊びも人1倍、いわゆる世の中の尻尾を握っている黒人のディスク・ジョッキーが主人公で、ふと出会った美しい女を好きになったばっかりに、殺しの組織相手の、情欲と暴力のすさまじい戦いに巻き込まれる。主人公のディスク・ジョッキーに扮するのは「マイラ」「ロールスロイスに銀の銃」などでかっこいいアクションを見せたカルビン・ロックハート。監督は「真夜中のカーボーイ」の編集にあたったヒュー・A・ロバートソンで彼の第一回作品。

MELINDA



残酷欲情軍団



デンマークといえば、ポルノの先進国ということになっているが、いったい解禁後5年たった現在の状況はどうなっているのだろうか。この映画は、1967年にデンマークの地方都市でおこったポルノ裁判の論争を中心に、ドキュメンタリーとドラマをまじえて描いたデンマーク版セックス・ガイド。全篇にちりばめられた今古東西のエロチック芸術の名作と、ユーモアあふれた語り口でお色気とは何かをずばり教えてくれる。監督は舞台俳優兼監督として活躍しているガブリエル・アクセルが担当、意欲あふれる演出だ。

DANISH BLUE

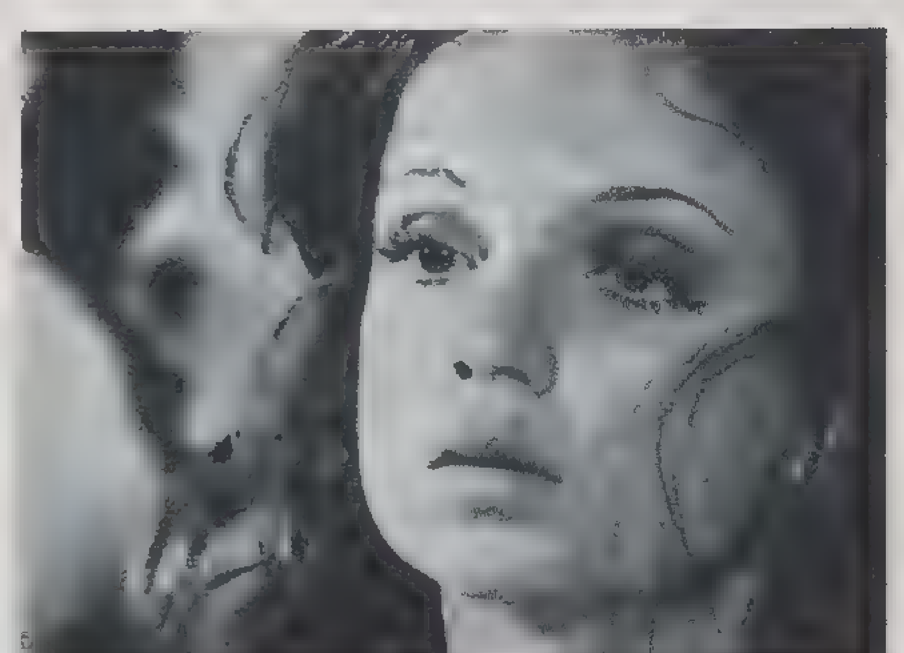


デンマーク・ブルー



ギュンター・フノルト博士原作、エルンスト・ホフバウエル監督の〝女子学生㊙レポート〟シリーズもすでに4作目。欧米ではその一作ずつがすべてヒットし、社会現象としての評論も出てくるほどの話題を呼んでいる。今回は〝セックスを武器に大人の社会を切りまくる女子学生〟の赤裸々な行動のレポートで、出演はミュンヘン市内の素人の女子学生。ただし〝兄妹による近親相姦〟は、セックス描写があまりに凄絶なためにアマチュアの起用をさけて、スエーデンのクリスチナ・リンドバーグに演じさせている。

SCHULMÄDCHEN
REPORT 4. TEIL



性感優等生

女子学生㊙レポート NO.4

女は度胸と賑やかなポルノ戦線



叶優子・佐分利聖子　赤坂・六本木で遊んでいるところを天尾プロデューサーにスカウトされた優子クンと聖子クン（左から）。まわりが赤面するほどの度胸のよさはいかにも20歳の優子、18歳の聖子の若さだ。サイズは優子がT　163、B 88―W59―H89。聖子はT　161、B 89―W58―H 90とごりッパなもの。



テレビのCMにまで、最近は結構ヌードが見られるご時世。まったく、オンナはいいもんです。裸になれば……とは言わないまでも、ヌードモデルから日活、東映はじめとするポルノ映画の女優に転向するのが目立ってきました。また、ズブの素人でもプロデューサーに口説かれ、その気になって頑張っています。男にとって、なんと楽しい時代になったと欣快にたえませんナ。

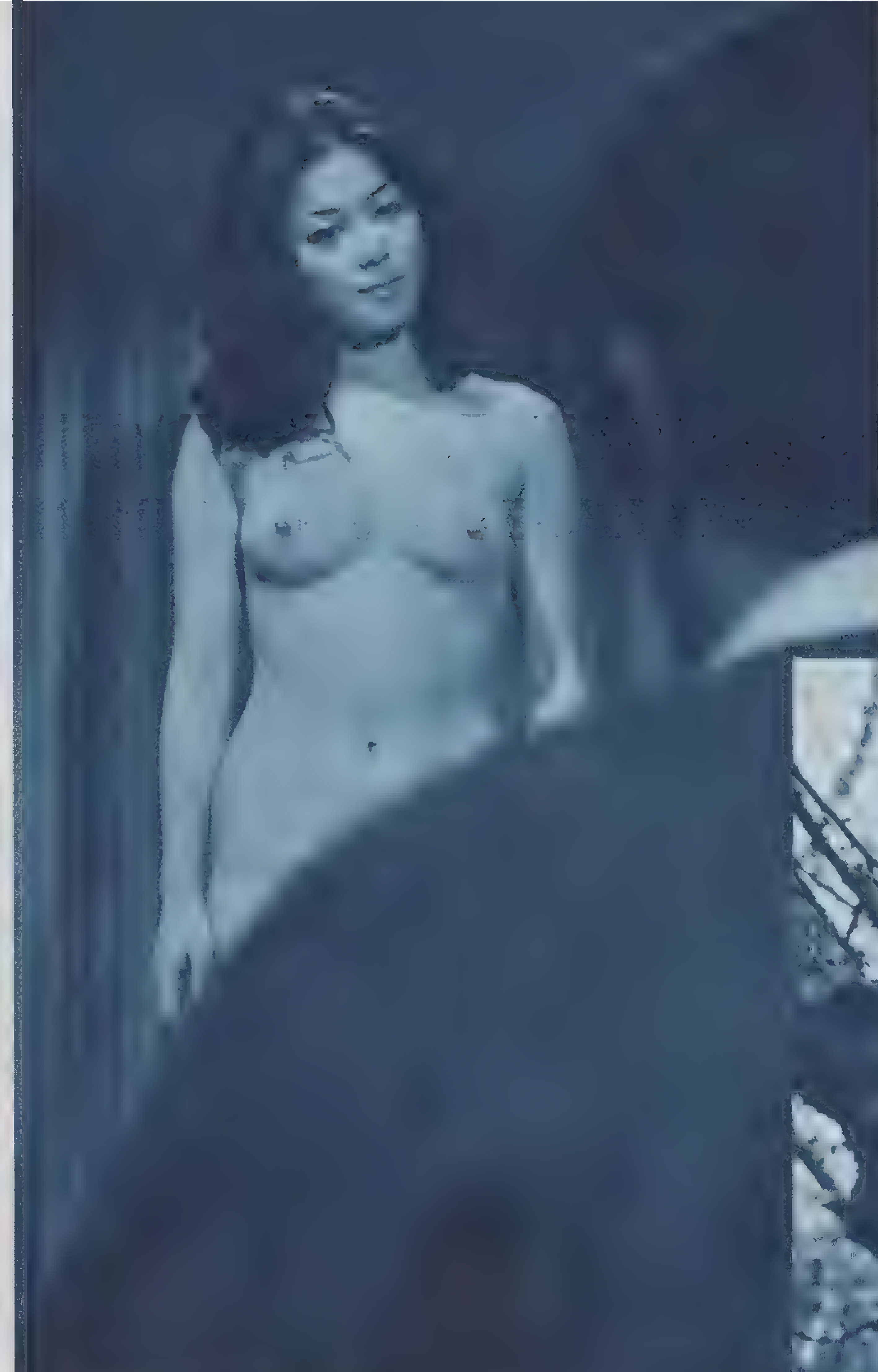
女は度胸よ 賑やかな ポルノ戦線



岡田奈津子・山川レイカ・荒木ミミ 本職のトルコ嬢を主演させようと募集したら応募者がたった七人。これではならじと撮影所長自ら出馬、両親を説得して見つけたのが中央の16歳の山川レイカ　左が20歳の岡田、右が17歳の荒木クン。続々と誕生する新人の中でも東映期待の三羽烏です。

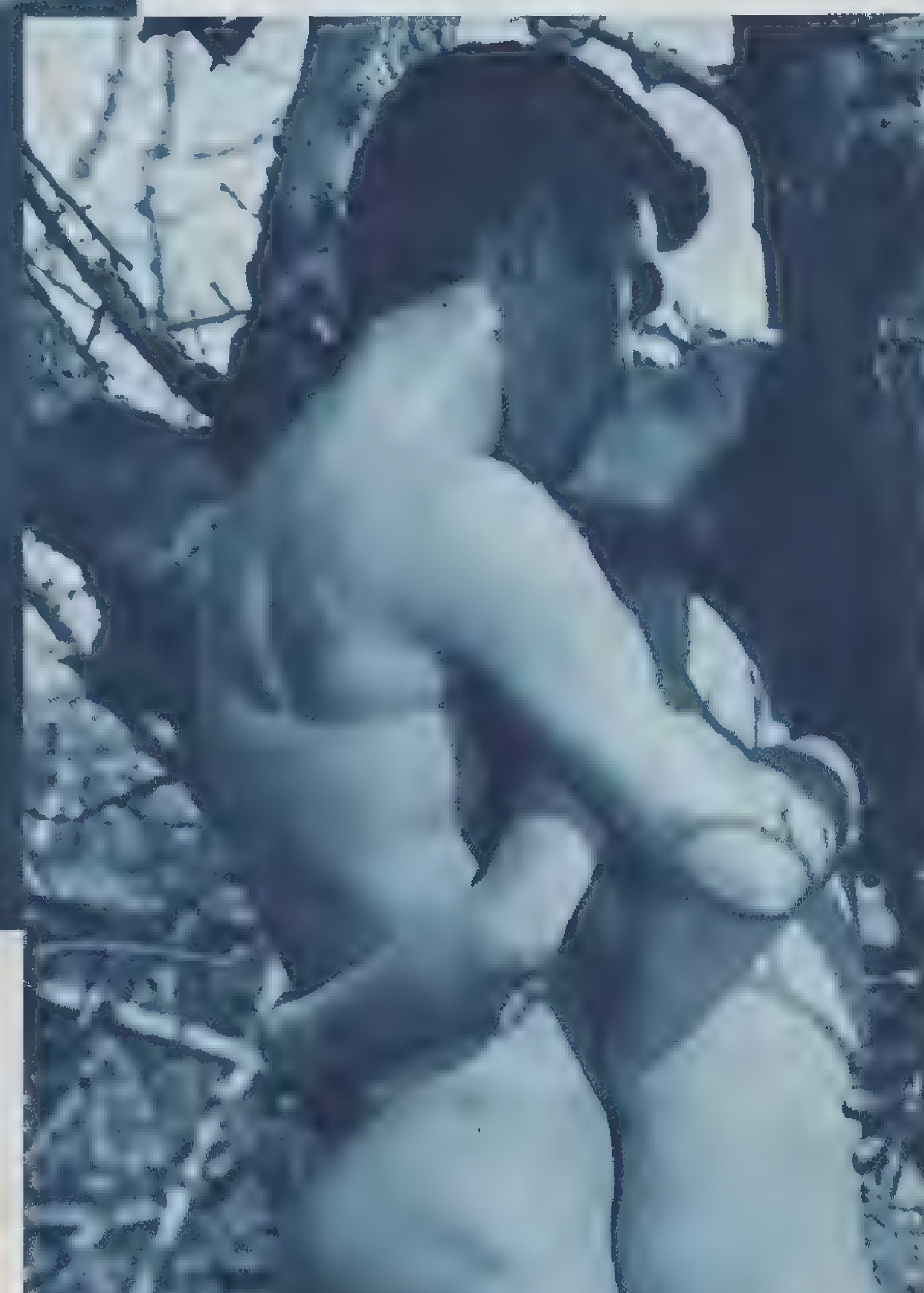


左から岡田奈津子、山川レイカ、荒木ミミ

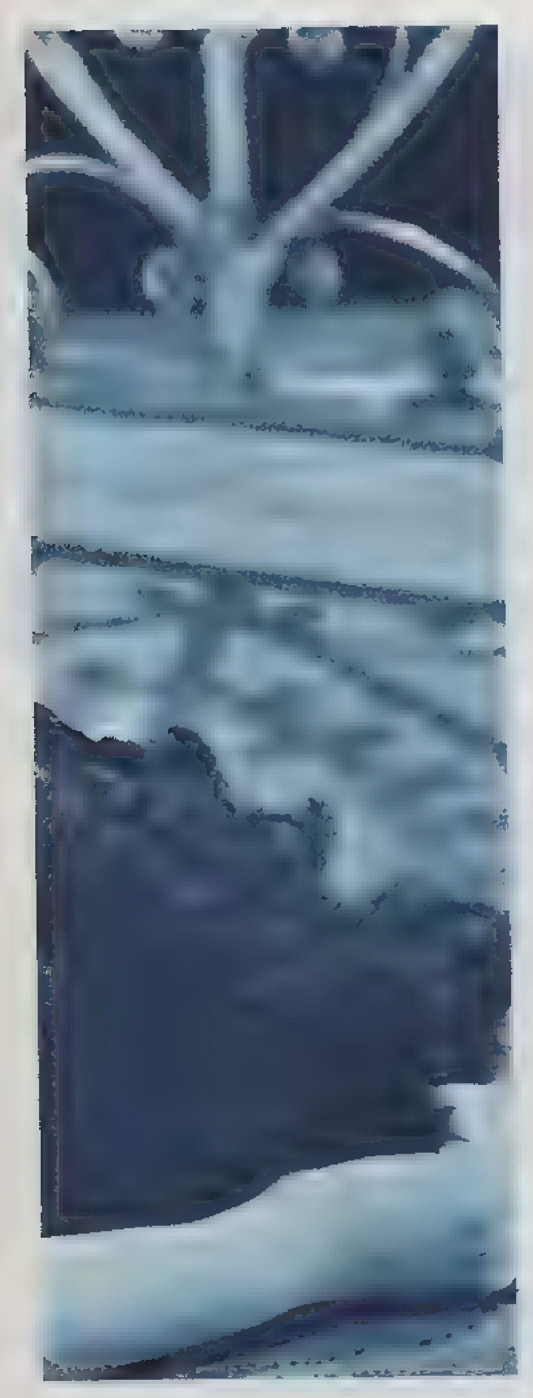


「同棲時代」のひし美ゆり子

ひし美ゆり子 テレビ畑から見事に転身したひし美ゆり子サンは、ポルノ女優とは言われたくないという人だが、最近作の東宝の「高校生無頼控・突きのムラマサ」や松竹の「同棲時代」では惜し気もなく裸身をさらしての熱演ぶり。体育大卒の異色女優で、演技派を目指す。サイズはB 86—W58—H 85。



「高校生無頼控・[illegible]ラマサ」では野外でひし美



加納エリ子 その素晴しい脚線美に一億円の保険をかけて歌謡界入りして話題をまいた新人歌手加納エリ子クンが、新曲「目ざめた朝」のＰＲのために90センチの見事なバストで映画界に斬りこんできた。「やくざ対Gメン・囮(おとり)」がそれで、新曲のためには裸身もいとわないという悲壮さだ

風呂屋シーンが話題の「時間ですよ」で、ヌードモデルが足りなくてと悲鳴あげているという。いいモデルは、最近、増加しているポルノ映画に持っていかれてしまったことが原因らしい。しかも映画の方がギャラがいいとなる



90センチのボインがまぶしい加納エリ子が梅宮辰夫相手に「やくざ対Gメン・囮」で体当り



史上最年少のポルノ[illegible]山川レイカ、デビュー作「トルコ渡り鳥」



山川と同時デビューの荒川ミミも「トルコ渡り鳥」でハッスル



「ボディガード・牙」で全裸のやよい



「突きのムラマサ」の渡辺やよい

渡辺やよい　日活の「ハレンチ学園」の２代目ヒロインとして映画界入りした渡辺やよいクンは、東映ポルノ路線では欠かせないメンバーのひとり。一方、テレビでも「プレイガール」のレギュラーとして見事なアクションを見せてくれる20歳のやよいクンだ。B 87―W58―H 88と立派。

と、当然といえば当然すぎる話だ。

ところが、映画も一昔前では全く考えられなかったスター級の女優たちもヌード・シーンに敢然と挑戦する時代とあれば、単なるヌードだけではとり残されてしまう。根性とやる気がなくては、たとえポルノ映画といえどもスターにはなりにくい。

観客側から言えば、毎週のように同じ顔ぶれ、いやヌードではあきがくるのは当然だ。製作者が、新人発掘にやっきになっているのもよく分るというもの。その点、東映ポルノ路線は本年度の営業の柱とするだけあって、まあよくも新人を探してくる。

「トルコ渡り鳥」でデビューする史上最年少という十六歳の山川レイカ、「ネオンくらげ」で主演する山内みえ子は、最も期待できる新人だ。山川は両親が承知している度胸満点の現代っ子。山内は市原悦子が好きな文学少女という異色さ。

日活ロマン・ポルノも、潤ますみ、続圭子、宮下順子らが、田中、片桐、小川クラスに近づいてきた。

若さ、プロポーション、育ちのよさを備えた新人が多くなったのが、最近の傾向で、前途明るく楽しい限りだ。





アクションは
このオレにまかせろ



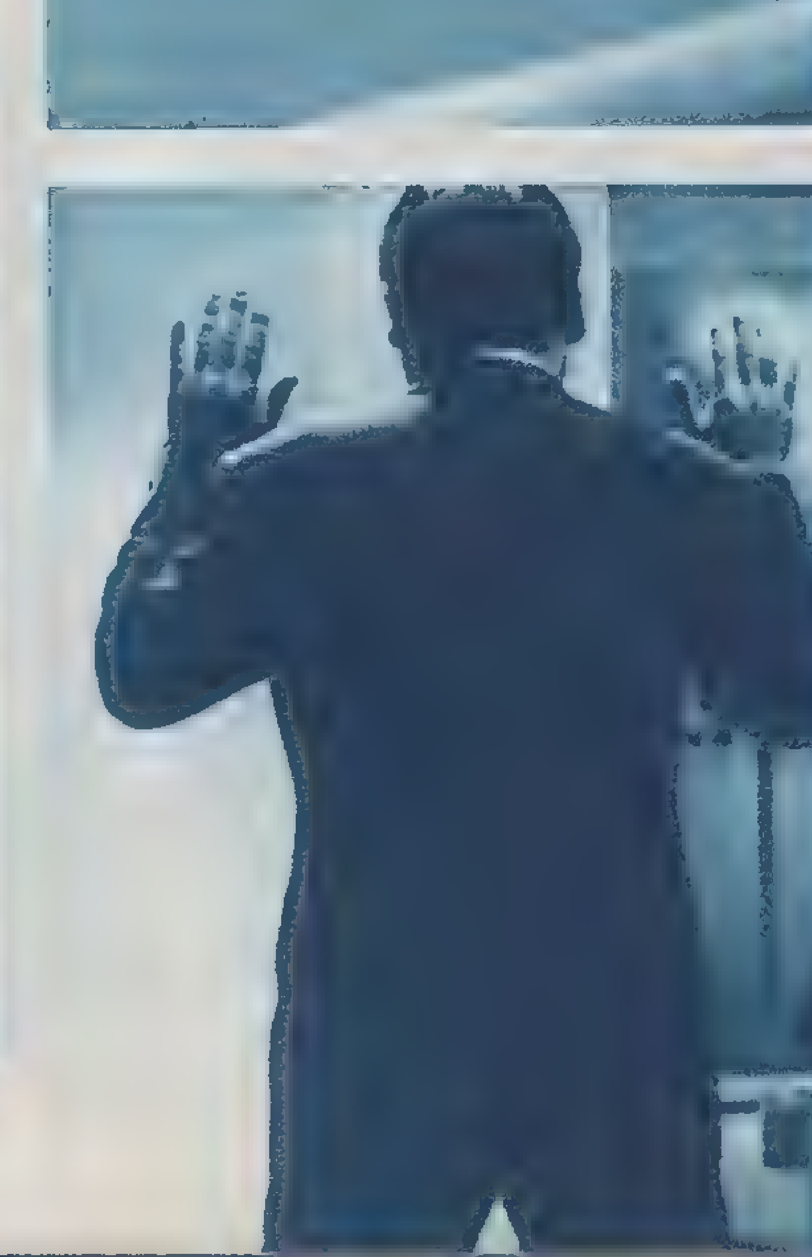












燃える若山富三郎

桜の代紋　（勝プロ）

現代のアクションスターとして菅原文太と共に人気を二分しているのが**若山富三郎**だ。その若山が「子連れ狼」をヒットさせた**三隅研次**監督とコンビを組んで、現代のやくざ組織と警察権力に挑戦する新しい任侠刑事アクション映画をつくりあげた。

タイトルの〝桜の代紋〟とは、警視庁の象徴であるサクラのバッジをやくざ流に表現したもので、警察の非人間性を内部から告発すると共に、暴力団と撤底的に戦う一匹狼のやくざ刑事のものがたりだが、若山は原作・製作・主演と一人三役を引きうけて大ハリキリ乗りに乗ってる感じだ。共演には映画出演二年振りの**関口宏**、「子連れ狼」でおなじみの**真山知子**、**東三千**をはじめ、**大木実**、**松尾嘉代**、**内田朝雄**、**渡辺文雄**などの異色な顔ぶれ。

――奥村昭夫（若山）は暴力を取締る捜査四課のしたたかなベテラン刑事だ。ある日、深夜の国道で警官二名が射殺されるという事件が起きた。奥村たちは犯人である西神会若者頭杉山（**石橋蓮司**）を逮捕したが、杉山は口を割る前に何ものかの襲撃をうけ、白昼護送車の中で射殺されてしまった。奥村はその責任を問われ、自宅謹慎を命じられたが、どうしてもじっとしていることが出来ず、独自の捜査を開始する。奥村がまず目をつけたのは杉山の情婦ミチ（真山）だった。だが、奥村の周辺にも次第に魔の手がしのびよってきた。西神会から奥村の妻佳代（松尾）の身柄をあずかったとの電話が掛ってきたのだ…。

パリのファッション・モデルだったイサベル・デ・バルベールは黒い肌の美人

ベニー・スペンサーはイギリスの新人。彼女がポランスキー監督の恋人や否やがいまの話題だ







左のヌード・ダンサーは知る人ぞ知るスーザン・デンバーグ。さすがプレイボーイ誌出身の曲線



“スーパーフライ”の黒人スター、ロン・オニールがこの5人を選んだ

きまったのだ このコたちに…

世の中に“……鑑定家”は多いが、女のコの鑑定にかけては、どの男性も一見識ある筈だが、ちょっと変った見方をしているのが「スーパーフライ」でカッコいいところをみせた黒人スターのロン・オニール。彼自身はこの映画のヒットで第二作をロンドンで撮影中（上の写真）だが、彼のヨーロッパでみた女のコベスト5がここにいる女性たちというところ。いろいろとりまぜてあるのがミソですな。

●観賞専用/ペニー・ビーチング

くるくるっとカールしたヘアに愛嬌のある顔。ペニー・ビーチングはイギリス娘だが、イタリアの監督フランコ・ゼフィレッリ（「ロミオとジュリエット」「ブラザーサ

THE PRETTY EYE-CATCHERS



ボトムレスのイブニング姿はスリムな性的魅力ミレーユ・ダルク



ペニー・ビーチングはイタリアの監督フランコ・ゼフイレッリに抜擢され彼の新作に出演がきまったラッキー娘

ン・シスタームーン」など）に発見され第二のオリビア・ハッセーとしての未来を約束されているコ。観賞専用にきめた理由は、これ以上いじるとくずれるからだって。その微妙な接点にある女体はジーッと眺めてるとなまめかしいって、ホント？

●食卓専用／イサベル・デ・バルベール

この黒人女性はパリではかなり知られているモデルだったが、「ローマの麻薬ナンバー・ワン」という映画でスターへの道を歩み出すところ。テレビでもミュージカルに出演し、ふくよかな曲線が売りもの。「食事はもっともデラックスに優雅な気分でゆっくりたのしむもの」という持論のロンは、イサベルのようなコと食卓をともにすれば、会話もはずむし食欲旺盛だろうし、最高にたのしい一夕がたのしめるそうな。

●デート専用／ミレーユ・ダルク

ミレーユ・ダルクはご存知アラン・ドロンの恋人だが、そんなことは飛びこえて、一緒につれて歩きたいタイプのコであると。デートのたのしみは、そのコと一緒であること以上に、そのコと一緒のところを他人から羨望の目をもって眺められることにあるそうな。ミレーユと歩いたら誰だって絶対にうらやましがること受けあいと。

●ダンス専用／スーザン・デンバーグ

もとプレイボーイ誌のトップ・バニーガールだったスーザンは、映画スターをへていま故郷ウィーンでヌード・ダンサーをやっている。落ちぶれたと人はいうが、ロンはダンスの感触をたのしむのにもっともふさわしい曲線の持主と決断している。

●タッチ専用／ペニー・スペンサー

イギリスの新人だが近くフランスでローマン・ポランスキー監督の新作に出演がきまった。ポランスキーといえば「反撥」でカトリーヌ・ドヌーブを起用し私生活ではシャーロン・テート（ハリウッドで惨殺された女優）を妻とした鬼才。ペニーは彼に抜擢されたが、さてはポランスキーはタッチ専用の監督だったか！



陽は沈み陽は昇る



ふと君が、窒息しそうな現代社会に反発し我々がどこかへ置き忘れてきてしまったロマンの世界に旅立ちたくなったら——、そんな君にまずおすすめしたいのがこの映画だ。

日活ひさびさの大作「**陽は沈み陽は昇る**」には失なわれたロマンを求めて旅立つ日本、アメリカ、イタリアの三人の若者たちの青春のシルエットが描かれている。彼らの旅はパリからイスタンブール、回教徒のメッカ・メシェッド、アフガニスタンからインド、ネパールへと、自由と平和の幻影を求めて続く。出会い、別れ、旅立ち、そしてどこかに漂よう死の匂い…ナウな感覚がスクリーンいっぱいに広がる。

はるかなる一万五千キロの道をゆく二人の青年と一人の美しい女。一人はオートレーサーとして自己の限界に挑戦の末、敗北し、青春の可能性を旅に賭けようとする日本人青年（**大林丈史**）、そしてカトマンズに平和の幻想を夢見て旅立つ長髪のアメリカ青年（**グレン・H・ネイバー**）、さらに貧しい家族を養





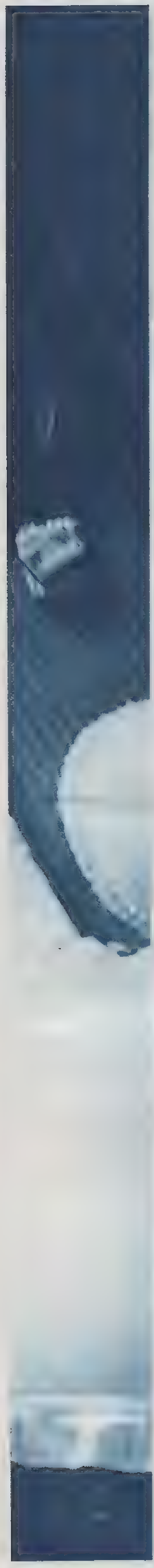
砂漠に燃えあがる恋

熱風、砂塵、別れ、そして出発…



うために金持ちの回教徒に嫁ぐ決心をしたパリの若き花形ストリッパー・ティーナ・ジェルミ（**ローズマリー・デクスター**）の出発、三人はそれぞれの旅の途中でめぐり逢い、それぞれの運命を背負いつつ、激しくその青春を燃焼させながら、大きな、愛と冒険の軌跡を描いてゆく。雄大な中近東の自然と、民衆との出会の中で、そこに渦巻く苛烈な現実と自分たちのロマンの果てにあるものに突き進んでゆく。彼ら三人の若者たちのゆくてに待っていたものは……

監督は**蔵原惟繕**、他に日本人青年の恋人役で**小川ローザ**が出演しているのもこの映画の見どころのひとつだ。









梶芽衣子／紅一点のもうけ役

仁義なき戦い

—広島死闘篇—



四百万人の動員を記録した東映実録シリーズ第一弾「仁義なき戦い」の続編、「**広島死闘篇**」が公開される。

日本の社会を震憾させた「広島ヤクザ戦争」のクライマックスは昭和三十五年四月から三十九月九月まで、実に一年九カ月にわたってくり広げられたものでまだまだ記憶にあたらしいが、実はこの抗争、ある日突然起こったものではなく二十数年にわたってくすぶり続けてきたものであり、これを語るには終戦直後のヤクザ・グレン隊の発祥にまでさかのぼらなければならない。そのような観点から三十八年に激突した日本を二分する大ヤクザ組織の代理戦争をより克明に描くため、今回の「広島死闘篇」ではあえてそれよりさかのぼること更に十年、昭和二十七年から二十八年にかけて起こった広島市内の抗争をとりあげている。ものがたりは二つの組織の血みどろの戦いを骨子としており、のべ十一人が死ぬという死傷率の高い戦闘がものがたるように前作を上回る凄しい迫力と、よりドラマチックな内容だが、まず第一の話題は、「さそり」シリーズでポスト藤の地位を確立したかに見える**梶芽衣子**が出演していることだ。彼女の役は海渡組々長の姪で戦争未亡人ということだが、とにかく紅一点のもうけ役で**北大路欣也**扮するムショ帰りの男と濡れ場を演じている。出演者は他に**菅原文太**、**千葉真一**、**山城新伍**、**名和宏**、**成田三樹夫**、**小松方正**、**金子信雄**がズラリと顔をそろえ、脚本は第一作同様**笠原和夫**が担当、社会派から暴力派監督に転身しつつある**深作欣二**が前作以上のリアルなタッチでダイナミックな演出を試みている。

工員だった山中正治（北大路）はバクチがもとでいざこざをおこし、傷害罪で逮捕された。刑務所の中で山中は看守相手にいつも暴れまわっていたが、そんな彼をやさしくいたわっていたのは同じ獄中の身である山守組々員広能昌三（菅原）だった。二年後、二十一歳で出所した山中が広島駅前の大衆料理屋で無銭飲食し、店の女将靖子（梶）とやり合っているところへ、丁度通りかかった大友勝利（千葉）ら数人の男にとりかこまれ、彼は殴るけるの集中攻撃を浴びてしまった…。







必殺仕掛人（松竹）

テレビのおなじみ人気番組「**必殺仕掛人**」が松竹で映画化される。昨年十月TBSより全国十七局で放映されるやいなや、爆発的人気を巻き起こし、そのブームはかつての木枯紋次郎をしのぐ勢いだが、あまりにも図式化されすぎた現代の社会機構の中で、無気力な生活を続ける多くの日本人にとって、この殺しのプロフェッショナルともいうべき仕掛人の登場は一服の清涼剤の役わりをはたしたというわけなのだろう。裏街道をゆく仕掛人のクールな殺人、一度の失敗も許されぬ非情な掟、ドライな殺人の中に明滅する人間としての良心。一回限りの命を奪われた死者たちへのザンゲ、血の匂いを消すための愛欲への逃避。これら凝縮された人間の苦悩がミックスされた仕掛人たちの無言の行動は見るものをして現代の英雄として感嘆せしむるのかも知れない。

主な出演者は、「人生劇場」「花と龍」でたてつづけに男をあげた**田宮二郎**をはじめ、**山村聡**、**高橋幸治**、**森次浩司**、**川地民夫**などで監督は**渡辺祐介**。初の時代劇演出で、しかもテレビの人気番組だけに、いかに彼が従来の手腕に加えて、このテーマにマッチしたテクニックを行使するかが早くも話題を集めている。

時代劇二大アクションの激突

田宮二郎／勝新太郎



新座頭市物語 笠間の血祭り

（勝プロ）



かたやこちらはおなじみの座頭市シリーズの新作「**笠間の血祭り**」（**安田公義監督**）。早いもので座頭市ものも二十五作目。これは駅前シリーズの二十四作を抜いて社長シリーズ三十作の記録に迫らんとしている。

今回は座頭市が初めて生れ故郷の笠間へかえり、得意のユーモアと居合斬りで悪を倒し、美しい村娘と恋をするなど、従来のシリーズとは少し趣向のかわった出来になっている。**勝新太郎**に**十朱幸代**、**岸部シロー**といった若いスターが初共演、さらに**岡田英次**、**佐藤慶**、**志村喬**のベテランスターがからむ異色キャストだ。

…何年ぶりかなあ——、風に送られるようにやってきた市。水戸街道は笠間宿。そこは市の生れ故郷だった。同じ日、その笠間にやってきたのは、市の幼なじみで江戸に出て大成功、故郷に錦をかざる米問屋の常陸屋新兵衛（岡田）と、道中、市にうるさくいたずらを仕掛けてついて来たフーテンの若者たち、友（岸部）ユリ（**横山リエ**）、ゲン（**酒井修**）、ヒデ（**朝日奈尚行**）。新作「笠間の血祭り」はこんな型破りなスタートではじまる。一作一作に想いきって現代風なアレンジを試みているのが息の長い人気の秘密のひとつといえそうだ。









このシーンを見逃がすな!

エロスと革命の香りが漂よう

「戒厳令」(ATG作品)





五年前に「エロス十虐殺」を撮った**吉田喜重**監督が、今度は社会主義者にして天皇制簒奪の革命家、あるいは昭和軍部の背後にあって青年将校に絶大なる影響を与えた指導的ファシスト北一輝という一人の男の謎にみちた生涯に挑戦している。映画「**戒厳令**」がそれで、二・二六事件によって施行された戒厳令下の極限状況を背景に、北一輝と無名の下級兵士との宿命的な出合いと、革命の不条理のありようを描こうとするものだ。

製作に彼の愛妻**岡田茉莉子**と月刊雑誌「ガロ」で特異な評論活動を続けてきた**上野昂志**が参加、脚本に**別役実**があたるというかなり異色なものだ。北一輝に扮するのはこれも臭いところで**三国連太郎**、これだけでも一見にあたいするほど三国の北はよく似ている。

大正十年の夏も終りに近いある日、小さな風呂敷包みをもった女が北一輝のものを訪れた。朝日平吾（**辻萬長**）の姉となのるその女性（**八木昌子**）は弟にたのまれたからと、その包みを北の前に置いた。中からは血染めの衣が出てきた。それは安田財閥の当主善次郎を刺殺し、その場で自殺した朝日平吾の着ていたものであった。平吾の遺書を読んだ北はその文面にあきらかに自著「日本改造法案」の影響を認め、自分の思想がはじめて現実とかかわりあったことを感じていた…。



こうした本筋に吉田監督独特のエロチシズムを織りまぜてあり「エロス十虐殺」の姉妹編ともいうべき作品である。









O RANFAN

●あのひとがいま――

失神女優・応蘭芳の180度変身?

アンジェラ浅丘(ヌードダンサー)といとこ同志というこの人がアングラ演劇に

文/石崎勝久





東京・渋谷にある青年芸術劇場で舞台げいこする応蘭芳

〝新劇女優〟**応蘭芳**なんていったって、なにもアンタびっくりすることたぁねえんだぜ。

もう、十年も昔になるか。ン？　いや、もっと前だ。六〇年安保のころ、劇団青年芸術劇場というのが、若者たちの人気を集めていた。「**遠くまで行くんだ**」「**袴垂れはどこだ**」など一連の**福田善之**作品を**観世栄夫**演出で上演して話題を投げ続け、青芸ファンは、ズイキの涙流して舞台に見惚れていたもの。それにしても、この劇団、いまから思えば、ヘンなのがいっぱいいいた。**米倉斉加年**、**岡村春彦**、**唐十郎**、**三原四郎**、**古林兎朗**、**佐藤信**、**常田富士男**……。後年、いわゆるアングラ劇界の先駆になった役者、作家、演出家たちが、金魚のウンコよろしく群がっていたのである。

この女優に、**三瀬滋子**というカワイ子ちゃんがいた。「袴垂れはどこだ」などで、なかなかシャープな演技を見せたりしていた。

その頃、**アンジェラ浅丘**が、「ウチのいとこで、セイゲイって劇団で新劇やってるコがいるの。よろしくね」と、ぼくに云ったことがある。

新劇女優とヌードダンサーとは、おもしろい取り合わせだと思った。名前を聞いたら「三瀬滋子っていうのよ」と云った。アンジェラ浅丘の本名は、三瀬美恵子である。三瀬滋子の名前、それでくっきりと脳裡にしみ込んだ。

しかし、安保後、数年たって、青芸は解散し、いつの間にか三瀬滋子の名前も聞かなくなってしまった。

しばらくたって、アンジェラとおしゃべりしていたとき、ふと彼女のイトコのことを思い出した。

「三瀬滋子、最近、どうしてる？」

ぼくは聞いた。

「ウン、バリバリ仕事やってるわよ」

「そうか、あんまり消息聞かないけどね」

「そう？　失神女優って、さんざん評判になっているじゃないの」

「アレ!?・失神女優っていったら、あの……」

「そうよ。応蘭芳よ。彼女、劇団やめてから名前を変えたの」

ウカツにしてぼくは、それまで、三瀬滋子と応蘭芳が同一人物とは、ぜんぜん知らなかったのである。でも、それにしてもだ、一体〝失神女優〟たあ、どういう意味なんだ?。

そこから話は聞きてえんだ。

★

――というわけなんだ。〝失神女優〟って、どこからついたの？

「フッフッフ（そら来たぞという感じの含み笑いして）、あれはねえ、当時（七年ぐらい前だ）平凡パンチに〝一〇〇の質問〟っていう人気企画があって、たて続けにエッチな質問あびせてくるの。いちいち考えてる暇がないくらいポンポン質問が飛んでくるんで、ウソがつけない取材なんだけど、このとき〝セックスするとどういう感じになる？〟って質問があったの」

――ハハン、それで「失神します」なんていったんだな、正直に。

「アハハハ、そうじゃないんですよ〝桃源境に遊ぶ気がします〟って答えたの。そうしたらこんどは女性自身から追加の取材があって、〝桃源境に遊ぶとはどういう気持か？〟って聞くのよ。そんなの、イワク云い難しでしょ。だから〝失神かもネ〟って答えたの。そうしたら……」

――そうしたら〝失神女優・応蘭芳〟が生れちゃったの？　ナーンダ、きっかけは単純なんだな。

「そうなのよ。そういう気分はセックスすれば、みんななるわよね。でも、その頃は日本の女性はまだ慎み深かかったから（笑い）ホンネはかくすのが一般的だった。だから、恋人もいます、セックスするといい気持ですって正直に云う私が、ばかに目立っちゃって失神女優ってことにされたんです」

――なるほどね。

「でもサ、その頃は失神なんてさわがれたけど、いまでは私なんかおと

あの応蘭芳が、アングラで知られる演劇集団日本のお芝居に出演する。蔵原惜治作、三原四郎演出「トリプル・ハムレット」。彼女の役はオフィーリアだ。ナニがナニしてドーなったか。ビックリしている方は、とくとこのインタビューをお読みになったらよろしかろう。〝失神〟から〝アングラ〟まで――の、これ、「応蘭芳早分り」だよ、お立合い――。以上CMデス。

（次頁へつづく）

そこを訪ねよう 世界映画の旅

●その18 ディズニーランド

（カラー頁よりつづく）

■ディズニーランドの見所

●メインストリートU・S・A

ミッキー・マウスの顔が花で作られた正面を入ると『**眠れる森の美女の城**』に向って19世紀の西部の街が続く。100年前に逆戻りしたような錯覚にとらわれる。右手のオペラハウスにディズニー50年を記念して今年新らしく開場した『**ウォルト・ディズニー・ストーリー**』。国際的ショーマンで一生を創造の為におくった大天才ウォルトと兄ロイ・O・ディズニーのドラマチックな生涯を貴重なフィルム、写真、記念すべきコレクション等で記録したアトラクションである。

その向い側、消防署隣のロッカーで先ずネクタイ、上衣、荷物を預け、できるだけリラックスした服装でディズニー・ランド・ツアをするのがコツである。

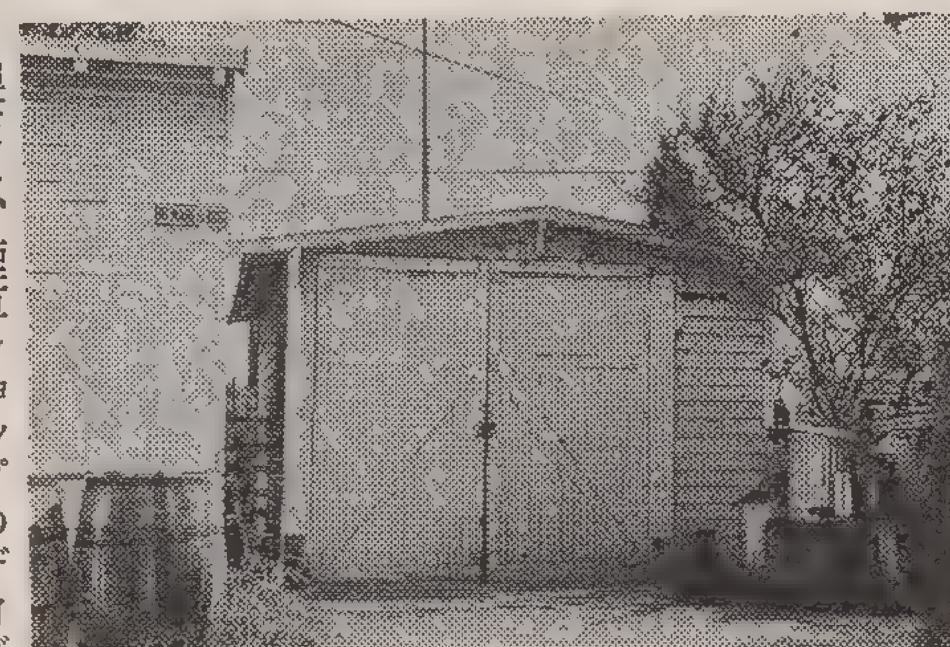


現在もハリウッドの中にあって隆盛をほこる《夢の工場》ウォルト・ディズニー・プロダクションズ

メーンストリートは珍しい店が賑やかに並びショッピングが楽しめるが、注意しないと日本、韓国、香港製をお土産にしかねない。おすすめ品は、左側のキャンディ・パレスで製造販売している手作りのキャンディで、味よし廉価の正真正銘アメリカ製だし、煙草ショップのディズニーランドのマーク入りシガーも珍らしい。のどがかわいたらサンキストの店で絞りたてのオレンジジュースをぜひ。美味い。30セント。



一代の天才だったウォルト・ディズニー



ディズニープロは裏庭のガレージからうまれた

●**アドベンチャーランド**（冒険の国）

プラザという広場に出たら左へ廻るとアドベンチャーランド。先ず、〝エンチャンテッド・ティキ・ルーム〟という南海ムードの建物で、ディズニー開発による電子人造動物（オーディオアニマトロニクス）と植物と偶像が、ポリネシアン音楽で一斉に歌い踊るショーを楽しむと、その名の通り淘然となる。

〝ジャングル探険〟はボートでクリークづたいにアフリカのジャングル旅行が満喫でき、カバや象の襲撃のスリルも味わえる。隣にそそり立つ大木の枝に、楽しい家が乗っているのはディズニー映画「**大漂流記**」の大木の家だ。

●**ニューオルリーンズ広場**

誰でも二度三度見たくなるのが〝カリブ海の海賊〟。ボートでカリブ海の入江に入ると海賊の世界で、まるで海賊気分になるふしぎなアトラクションで、続く幽霊マンションと共に必見の事。九九九人の世界中から集った幽霊が住むこのマンションでは、何時の間にか自分の隣に青白い幽霊が並んでいて、怖ろしいやら楽しいやらである。

●**ベア・カントリー**

昨年第54番目のアトラクションとして新設されたもので、人造電子装置の灰色グマ一族の20頭がフォーク・ソングやスウィングで、まるで生きてるかのようにご気嫌をうかがうのには、思わず引きこまれてしまう

●**フロンティアランド**（開拓の国）

突然開拓時代のアメリカに迷いこんだような錯覚に陥る地区で、アメリカ川をマーク・トウェーン号のショーボートやキールボートで楽しむのもいいが、何をおいても行列に加わって入場したいのはペプシコーラ提供の〝ゴールデン・ホースシュー・レビュー〟で、西部劇でおなじみのサルーンでたっぷり西部のショーが無料で楽しめるが、テーブルの椅子の数だけしか入場させないから入場すること自体が奇蹟に近い人気ショーで、開場以来18年間ロングランという世界記録をもって続演中。日本からの旅行者で見るチャンスをつかんだ人は珍らしい。

●**ファンタジーランド**（おとぎの国）

プラザに戻って『**眠れる森の美女の城**』に入るとディズニー漫画のすばらしい世界でピーター・パン飛行、白雪姫の冒険、ふしぎの国のアリスの楽しい乗り物がある。〝ティー・カップ〟という大きな紅茶茶碗が回転する乗り物は『**ふしぎの国のアリス**』のクライマックスである気

（前頁よりつづく）

なし型のほう。みんなどんどん凄くなってくる。時代の激変にびっくりして、それで失神しちゃいそうになるわ。（笑い）」

——では、こっちも急テンポの質問をする。いい？

「ハイ、いいですわ」

——独身？

「戸籍上は」

——結婚しない？

「間もなく、します」

——相手は芸能関係？

「芸能関係じゃありません」

——生き方のモットーは？

「人に迷惑かけなければ、何をしてもいい」



日中混血で苦労した応蘭芳である

——生年月日は？

「昭和14年3月9日」

——星座は？

「カニ座」

——生れた場所は？

「ロンドン」

——育った場所は？

「14歳まで満州の大連。そのあとは東京」

——今までの仕事のベスト3は？

「自分では、TBSテレビの〝**純愛シリーズ**〟映画〝**ビデ夫人の恋人**〟舞台〝**トリプル・ハムレット**〟」

——あれ？「トリプル・ハムレット」は、まだやってないんだろ？4月30日から5月2日まで、俳優座劇場でやるんじゃなかったっけ？

「フッフッフ、実はそうなんです。でも、これはベスト3に入るぐらいの出来上りにしたいと思うんですよだから、入れちゃったの（笑い）」

——意気はけっこうだけど、何かインチキみたいだね。（笑い）気が抜けたから、またゆるゆる質問するとにして（笑い）「トリプル・ハムレット」では、何の役やるの？

「オフィーリア。張切るわけ分るでしょ（笑い）」

——あなたは、どういうキッカケで芸能界入りしたの？

「それをお話しすると長くなりますけどね、要するに私って日中の混血でしょ？　三瀬は母方の姓だし、応は父方の姓だし……、高校を出て、お勤めしようとしたとき、日本人の両親がいないと駄目だっていわれたの。その差別にとっても怒りを感じた。それなら自分の力だけで勝負できる女優になってやろうと思った」

——なるほど。

「それで東映のニューフェースに一年いて、そのあと俳優座の養成所に入り直したんです。12期です」

——ほう!?　養成所の12期といえば〝花の12期〟っていわれ、優秀な連中が揃って出た期だよね。

「そう、いますわね。**中村敦夫、山本圭、東野孝彦、長山藍子、樫山文枝**……」

——そして応蘭芳か。なるほど、花の12期だ。ダイビングは、いつからやり出したの？

「高校時代。自由学園にいてオリンピック選手の金戸久美子さんなんかと一緒にやったんです。国体にも出ましたよ、愛知県代表で……」

——愛知県？　東京じゃなくて？

「ウフフ、越境選手。でも、満更愛知県とエンがないわけでもないんですよ。イトコたちがいましたもん」

——そうか、アンジェラが名古屋だ「そうなの。それに、ダイビングや水泳は、名古屋のプールでイトコたちに初めて習ったのだし……」

——でも、大陸の大連育ちにしてはよく頑張ったねえ。ひょっとしたらお父さんが海に関係あり……？

違いティー・パーティをもとにしたものだが、空とぶ豆象ダンボの飛行機と共に、世界中にアイディアが利用され真似されてしまった。

お城の傍のトイレットがまた泣かせる。レディス、ゼントルマンではなく「プリンス」「プリンセス」の表示がでていて王侯気分になる。

『**山の上の第三の男**』の舞台になったマッターホルンの麓からボブスレーに乗って中腹へ上り猛スピードで滑り限りるスリルは格別、〃世界は一つ〃の建物は玩具箱をひっくり返したようなデザインも愉快だが、中に入ると世界中の人形が民族衣裳で同じ歌を夫々の国語で歌いお国ぶりの踊りを見せてくれる。つい一緒に歌いたくなるしあわせなアトラクションである。

スカイウェーで空からディズニーランドを見下しながらツモローランドへ向う。

●ツモローランド（未来の国）

ディズニーのアイディアとアメリカ近代科学が握手して明日の世界が展開する。『**海底二万哩**』のノーチラス潜水艦で海底探検を楽しんだら、勇気と興味のある人は是非ロケット・ジェットに乗ること。超高速で空中を猛回転するロケットのスリルは絶対。空に放り出されないようにしがみつくのが精一杯である。このランドで見落すと後悔するのは入場無料の二つのアトラクションで、三六〇度の大スクリーンに九台の映写機で展開するサークルビジョン三六〇では〃魔法のカーペット世界一周〃が上映され、〃進歩の回転劇場〃は電気と生活の歴史と未来を描いて最大の興味をおこさせる。

★

お急ぎの方や初めての方は入場の際にガイド・ツアーを申込むこと。$6・50で可愛いジョッキー・スタイルのお嬢さんが2時間ディズニーランドの代表的なアトラクションを楽しませてくれた上、最後に自由に遊べるようにチケット数枚くれる。いわばディズニーランドの定食である。日本語のガイドを頼むのも良い方法である。ディズニーランドはぶらぶら見物する処ではなく、アトラクションを楽しみ、乗り物に乗り、飲み食いしなければ本当の楽しさは味えない。六千人の従業員は夫々の施設やアトラクションにマッチした衣裳をつけ、ディズニーランド式接待法で入場のお客がディズニーランドという舞台の上で思い思いの演技が出来るように、手助けするように訓練されている。だから思い切り楽しみ自分なりの演技をしないと損だ。

おすすめしたい時間は、夏季なら午後三時頃入場して十分にアトラクションを楽しみディナーをとる。日没と共にムードは一変してすばらしい夜のディズニーランドの世界になる。クライマックスは夜九時で、正門から〃世界は一つ〃の建物まで20分にわたって〃エレクトリカル・パレード〃というまばゆいイルミネーションに飾られたゴージャスな大パレードがくりひろげられ、続いて夜空を染めて大花火、マッターホルンの頂上から城へ向ってピーター・パンの妖精ティンカーベルが体を金色に輝かせながら夜空を一飛びする離れ業が見られる。これを境に子供たちは家路をたどり、境内は一変してヤングの世界に変り、ビートのきいたエレキバンドが青春を奏で欧い踊り若さが爆発しながら一時まで続く。

九月第二週から五月末までは冬時間で、月火は原則的に休園しウィーク・デイは10時—6時。土日は9時—7時、アトラクションも整備のため閉鎖するものもあるのでご注意。

入場券だけなら大人$3・50で、乗り物券なら一つ一つ買えるが、ビッグ・テン（入場券と乗り物券10枚で$4・95）、デラックス・フィフティーン（乗り物券15枚ついて$5・95）が大変おとくで、残ったら大切に持ち帰ればディズニーランドのある限り有効である。

毎年小規模なアトラクションが一つ、二年毎に大規模なものが一つ、必ず増設されるのが鉄則であり、ディズニーランドは永久に完成することなく発展を続けることになっているので、次のチャンスまで残った切符は持っていることだ。

世界中から大統領、大臣、国王女王が訪れているが、ウォルト・ディズニーは世界の元首に対し最大の敬意を以て歓迎はしたが、入場するすべてのお客がVIPだという信念のもとに、清潔自然親切安全をモットーとして温かい接待を徹底すると共に、常に昨日開園したばかりという位に完璧な整備をすることを憲法として来た。六千人の従業員中掃除を担当するのは二千人の青年たちで、白の制服にほうきと塵取りをもち常にゴミに目を光らせ、煙草のすいがらでも5分と落ちていないほど園内をピカピカに磨き上げている。清掃係は重要なPR係であり、ディズニーランドを支える管理職的なホストともいうべき重要な職務になっている。園内三〇〇個所のゴミ箱は同園のムードにあうように美しい模様が描かれピカピカに磨かれ、清潔が清潔を呼ぶように工夫されていて、ついゴミを捨てたくなるようなムードになっていることも清潔を誇るディズニーランドらしさである。補修整備のための修理係、技術係、アーチストが二〇〇人常に活動し、例えば電球にしても一年間に二六〇種一〇万個を、また清潔保持のためワックスを六千ガロン。一年中美しい緑と花を維持するため庭園係が80万本の草木を補充するなど、〃ディズニーランドは地球上で一番ハッピーな所〃にふさわしく清潔と安全と親切を完璧にするためには、莫大な経費と労力を惜しみなく投入しているのである。

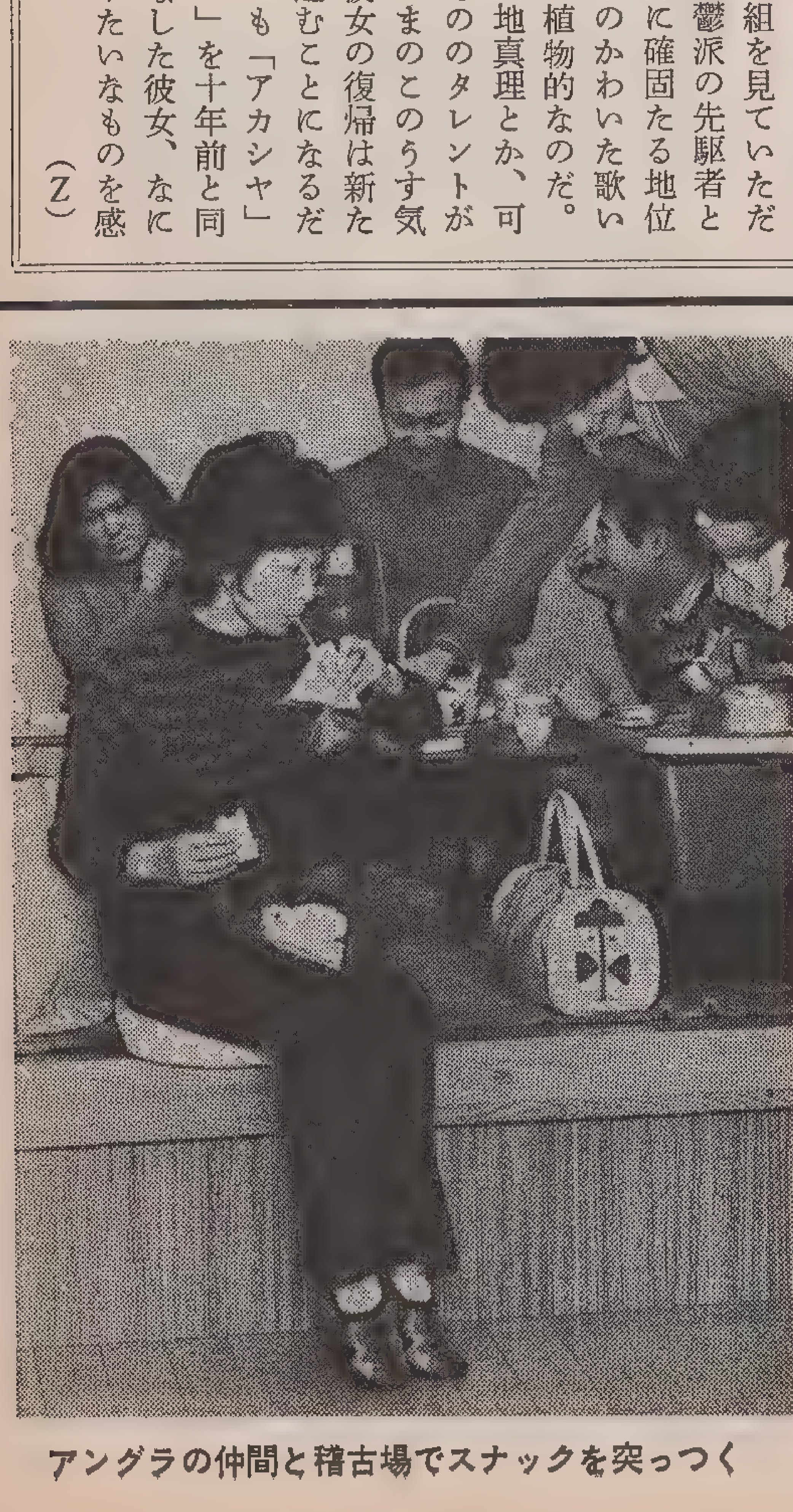
★

一九七〇年十月一日、このディズニーランドに芽生えたウォルトの夢は限りなくふくらんで、人間が本当の生活をエンジョイできる、夢の大都会建設というプランに発展し、フロリダ半島の真中、オーランドの近くに総面積一億一千万平方メートル（東京の山の手線の内側の一・五倍）の地区にウォルト・ディズニー・ワールドを建設した。ディズニーランドの一・五倍の広さをもつ魔法の王国遊園地、二五〇〇万平方メートルの巨大な湖を利用した水上レクリエーション、USスティールと協力して建設した独創的な2大ホテル、世界のゴルファーが集る2大ゴルフ場。八〇〇組がキャンプできるすばらしいキャンプ場などで、民間企業世界最大のプロジェクトとして世界の注目を浴びている。

ここに惚れた

西田佐知子

世の中にはたとえ十年のブランクがあったとしても、それを少しも感じさせない歌い手というのがいる。先日西田佐知子のカムバックを記念するワンマン番組を見る機会を得たが、さすが彼女は色あせたところがミジンもなかった。これはすばらしいことだ。彼女が登場し「アカシヤの雨…」を歌いだしたときボクの心は一ぺんに十年前に引きずり戻されてしまった。彼女のような女は一人で居なくてはならない、家庭などに入ってしまってはいけない女なのだとボクと共に願い続けてきた多くの同志たちはこの番組を見ていただろうか？　都会憂鬱派の先駆者として、日本歌謡界に確固たる地位を築いた彼女のあのかわいた歌い方、彼女はどこか植物的なのだ。小柳ルミ子とか天地真理とか、可愛さだけが売りもののタレントがもてはやされるいまのこのうす気味悪い現状に、彼女の復帰は新たなクサビを打ち込むことになるだろう。それにしても「アカシヤ」や「東京ブルース」を十年前と同じように歌いこなした彼女、なにかこう「怖さ」みたいなものを感じたのだが……。（Z）



アングラの仲間と稽古場でスナックを突っつく

「当った。英国の船会社に勤めてた」

——ナールホド、それで？

「まさかあ。それ関係ないですわ。（笑い）」

——そりゃ、そうだ。（笑い）

「高校時代は、とにかくオリンピックめざして、色気もへちまもなく泳ぎまくってました」

——失神もなかった。

「モチロン。（笑い）」

——ところで、あなたが三瀬滋子から応蘭芳に変ったのは、いつ？

「青芸をやめて半年くらいたってからでした。変えた理由はねえ、それまで三瀬の名でテレビの〃マグマ大使〃なんかに出ていて、なんとなくお子様番組向女優みたいな感じになってた。ここらへんでオトナになろうと思って、それで父方の姓の応に芸名の蘭芳をつけて、応蘭芳」

——で、オトナになったとたんに、失神女優？（笑い）

「そうなんです。だから、その名を返上するために、硬派に方向転換するのにいっしょうけんめい……」

——レーサーやったり、スカイ・ダイビングやったり。

「そうそう。今は空のダイビングの世界選手権を目ざして、懸命の努力中なんですよ。海の方は、昨年、テレビの仕事があって、世界中の海にもぐったし、これでパラシュートの選手権をとったら、またレーサーとして本腰を入れるつもり」

——硬派女優応蘭芳の活躍ぶりみて、気の弱い男の俳優が失神したりして……。（笑い）

「フッフッフ、でもね、レッテルっておそろしいわ。先日創造社から映画のお仕事が来て、内容聞いたら、これがまた失神イメージで——。いまだに〃失神女優〃が続いてるんですものネエ。そんなに若くないのに」

——その映画に出るの？

「いや、ちょうど舞台とかちあうんで出られないんです」

——あなたは、商業演劇の舞台には出てるけど、新劇の舞台は、青芸時代以来？

「そうなんですよ。俳優座劇場に10年ぶりに出るんです。懐しいですわ」

★

演劇集団日本公演「トリプル・ハムレット」を演出する**三原四郎**とは彼女は、青芸時代の〃仲間〃である。だから、三原の声に応じて、即座に出演をきめたという。

「10年見ない間に、応蘭芳、成長しましたね。さすがですね」

稽古場で三原四郎はつくづく感心の声をもらす。

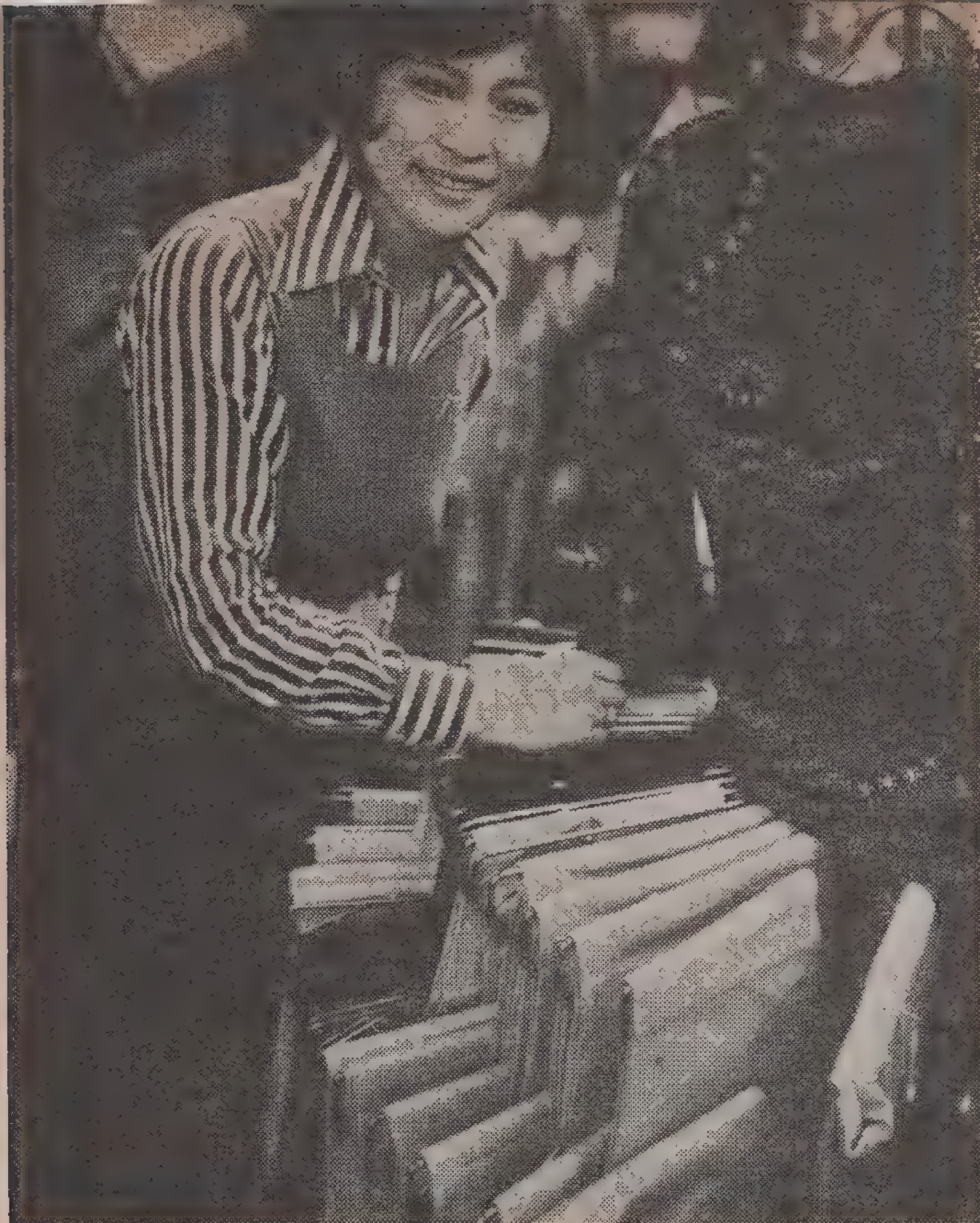
応蘭芳が銀座で中華料理店「大湖」の経営を始めたのは、昨年七月のことだが、この事業もきわめて順調だという。

〃失神〃から脱して、応蘭芳、もっか快調に我が道を行っているのである。

music a la carte

《徹底調査》

ステージ歌手になりたいわ……中川レオ



飲ませて酔わせて放り出せ、なんて威勢のいい歌をうたっている銀座のホステス、というから、白粉の濃いこわいお姐さんが現われるかと思ったら、意外にもさっぱりとしたボーイッシュな女性が現われた。

去年の11月「**かもねぎ音頭**」が発売され、暮の銀座は、ジングルベルに代って「かもねぎ音頭」に占領された……と云われるくらいはやった。レコードは今も売れつづけ、17万枚を突破し、品切れ状態が起きているという。

この「かもねぎ音頭」を歌った中川レオが第二弾の「**ちょうちょうさん**」を発表して、やっと素顔を見せはじめた。

「最初はレコードを吹き込めばいいって話だったの。お店で〝かもねぎ〟をうたってたら、今の事務所の方とレコード会社の間でどんどん話が進んで、あれよあれよという間にこんなことになっちゃって……」

お店というのは青山の「芽女(めめ)」。レズ・クラブとして知られているが彼女はそのころから男装したりはせず、パンタロンでロングヘア。今よりもっと女っぽかったという。銀座に支店ができたので、そこにも手伝いにいっていたけれど、レコードが売れ始めて今はもうすっかりやめてしまった。



「そうお店に出ているころからあんまり色気をふりまかなかったわね。そういうの嫌いなの。だから、お客さんたちとはみんな友達になっちゃうし、歌手になってもついてきてくれてるわ」

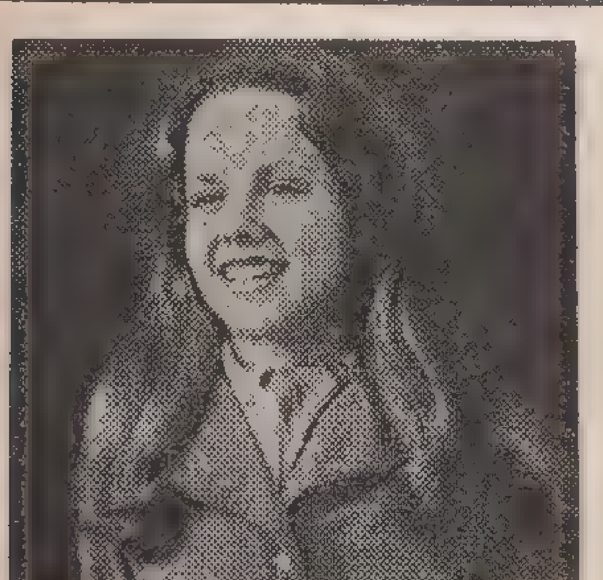
蔵前の料理屋の娘に生まれた彼女は高校を卒業してから二年間ぶらぶらして「芽女」のママと知り合って勤め始め、そこでずっと歌っていた「あんな商売してたから芸能界の裏側もよく見てきただろうってよくいわれるけど、あんまり見なかったみたい。見たくなかったのね。それより、昼間仕事するってことに憧れてたから、今の生活が嬉しいわ」

高校時代、器械体操をやっていたという彼女はひどく健康的。現在両親は前橋に移って、彼女は妹と東京で二人暮しをしている。

「あたし一人暮しって絶対できないの。たとえば妹が遊びに行って一人

今月のニューボイス

リンダ・パール



〈キング〉

★キャッチ・フレーズ・**ニューヨークからやってきたニュー・スター!**
★デビュー曲・「**そよ風と恋**」(作詞・安井かずみ、作曲・鈴木邦彦)
★生年月日・昭和30年9月2日
★趣味・各国のデミタス・カップ収集
★近く公開される映画「ジョリー」に出演している彼女が年に2度来日して、日本で活躍する。

勝恵美子



〈ビクター〉

★キャッチ・フレーズ・**演歌の正統派歌手誕生**
★デビュー曲・「**別れ待ち**」(作詞・千家和也・作曲・猪俣公章)
★生年月日・昭和26年3月8日
★趣味・絵を描くこと、旅行
★全国的に手広く旅館の斡旋業をしている父親の関係でデビュー前から後援会もできる、という恵まれたひと

黒島健司



〈キング〉

★キャッチ・フレーズ・**実力派歌手ここに登場**
★デビュー曲・「**ここに幸あり**」(作詞・高橋掬太郎、作曲・飯田三郎)
★生年月日・昭和23年1月7日
★趣味・夜明けのコーヒー、夜明けの酒
★大阪経済大学に在学中に〝ハニー・シークレッツ〟というコーラス・グループを作って活躍。ポリドールレコードからシングル盤2枚出したことがある。大学卒業の年47年にグループを解散して、ソロ・ボーカルとして大阪のクラブで仕事をしていた。ポッと出の10代の歌手とは全く違った、大人のムードを聞かせてくれる彼だ。

小川由美子

〈ビクター〉



★キャッチ・フレーズ・**女性ポップスのNo.1**
★デビュー曲、「**昨日ついた手紙**」(作詞・うさみかつみ、作曲・鈴木邦彦)
★生年月日・昭和28年10月18日
★趣味・水泳、バスケットボール、ギター、読書
★ポップス系のうまい女性歌手というのは、なかなかスターにならない。ニッポン放送の勝ち抜き歌合戦番組「チャレンジ・ポップス」に出演して、審査員の鈴木邦彦に認められ、1年間みっちりレッスンを受けてデビューした彼女は文字通りの実力派。どこまで伸びるかが、楽しみな歌手である。

浅田美代子

〈CBSソニー〉



★キャッチ・フレーズ・**ソニー・エンジェル**
★デビュー曲・「**赤い風船**」(作詞・安井かずみ、作曲・筒美京平)
★生年月日・昭和31年2月15日
★趣味・作詞・料理(とくにケーキやクッキーを焼くこと)
★「時間ですよ」(TBS系)で松の湯の美代ちゃんとして、すでにおなじみ。トリオ・ザ・セントーの堺正章、悠木千帆の芸達者にもまれながら、あいくるしい笑顔を見せているデビュー曲の「赤い風船」も、すでに番組のなかで堺正章、天地真理などとうたっているので、覚えてしまった方も多いだろう。今年のスターになりそう、という評判もちらほら

で寝なきゃならなかったりするでしょ、そうすると家中の電気をつけて皓々と明るくして眠るの」

そんなに寂しがりなら、今はやりの同棲なんてのいいんじゃない？と水をむけてみたら

「あたし結婚を大切に考える方でしょ。そういうのいやなの……」



意外な返事である。というより彼女も23歳。この年頃の女性にしてはこれがノーマルなのかも知れない。

歌手としてデビューする前には、お母さんと二人で、小さなお店を出すことが夢だったという。それも水商売ではなく、女の子が相手の可愛い物を売る店か、家庭の味を食べさせるお店をつくろう、と前からお母さんと話し合っていた。

何をするにもひとには相談しない彼女は、歌手になることも、すべて決まってから両親に報告。

「お母さんびっくりしてたわ」

けろっと言う。

歌手になったからには、やっぱりステージ歌手になりたい、というのが現在の彼女の夢。越路吹雪のようになれればなりたいし、そうでなかったら、和田アキ子や、水前寺清子のように、みんなに親しまれる歌手になりたいと彼女はいう。

この一月からポツポツテレビに顔を見せはじめ、公開放送で地方に行くことも多くなった。ファンになってくれるひとって、意外にも若い女の子が多い、と彼女は首をかしげるが、さばさばとした話し方を聞いているとうなずけるような気がする。

デビュー曲・「かもねぎ音頭」（作詩・吉岡オサム、作曲・了瑛頁）

好きな色・黒と白（洋服のデザインをするのが好きだから、よく自分で考えるけど、色はたいてい黒や白になっちゃうわね）

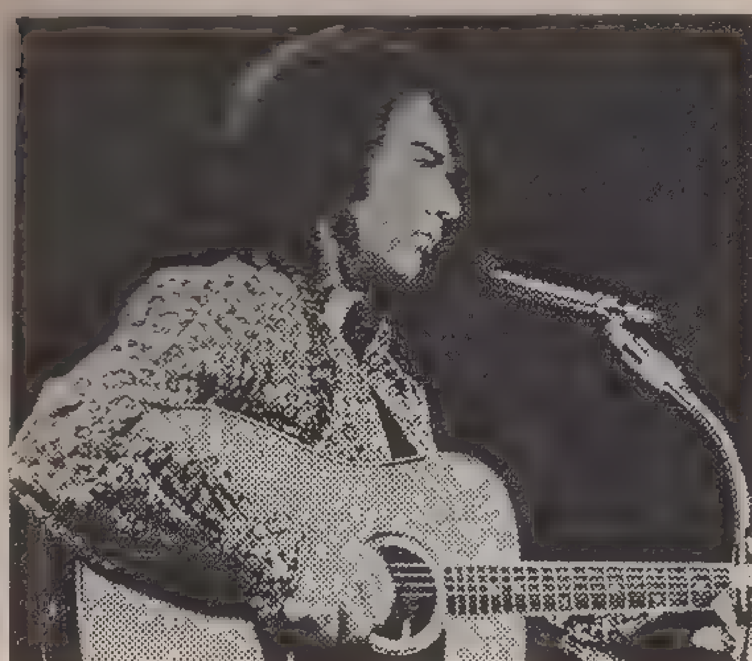
暇なとき・ただ家でごろごろ（出無精だし、あんまり外で遊ばない。今はお酒も全く飲まないし、レコード聞いたり、自分のテープ聞いたりテレビを見たり）

好きな食物・玉ねぎ以外ならなんでも好き

サイズ・B83、W60、H88、身長165、体重48。

所属・ポリドール・レコード、レオ音楽事務所

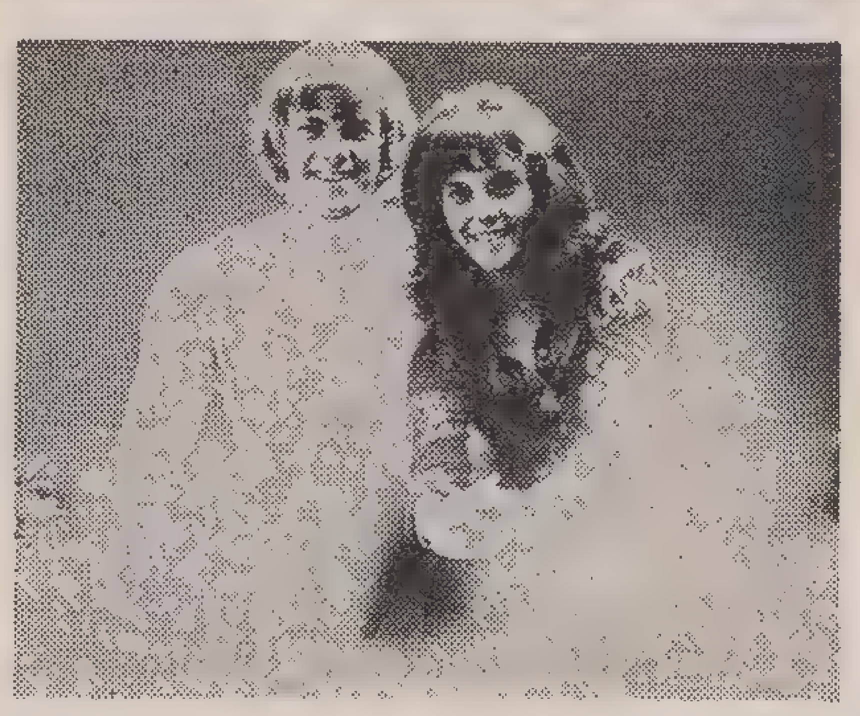
大きな方向転換を見せるニール・ダイアモンド



「スウィート・キャロライン」「ソング・サング・ブルー」など、数多くのヒット・メーカーであり、さきの「グリーク・シアター・コンサート」のライブ・アルバムで実力あるボーカリストとして本領を充分に発揮し、日本でもアメリカ本国に迫る人気が急激に上昇しているニール・ダイアモンド——彼の来日の噂が出ては消えてしまう昨今、なんとか実現して欲しいものである。

昨年28歳を迎えたニールがブロードウエイのウインター・ガーデン劇場でのコンサートを最後に、今後1年間はコンサート活動を中止し、もっぱらシンフォニーやブロードウエイ劇、子供向けのテレビ・スペシャルと幅広く手がけていきたいと語っている。このように73年大きく方向転換しようとしているニールのデビュー当時の数々のヒット・ナンバー24曲が収められた2枚組アルバムが発売され好評である。「**アイム・ア・ビリーバー**」「**思い出のシャイロ**」といったオリジナル曲を中心にしたもので、ニールの成長を知る上で興味深いアルバムといえるだろう。

大ヒットを連発するカーペンターズ



兄妹のデュエット・チーム・カーペンターズの新曲「**シング**」がまたまた大ヒットになっている。この曲はNHK教育テレビの「セサミ・ストリート」の中で使われていた曲。彼らのニュー・アルバムはアメリカでは5月18日に発売になるが、勿論「シング」が含まれている。このアルバムでは彼らが尊敬してやまないレオン・ラッセルの曲のほかに、往年のヒット・ソング「ジョニー・エンジェル」「この世の果てまで」などのメドレーもあり、たいへんバラエティにとんだ内容だ。

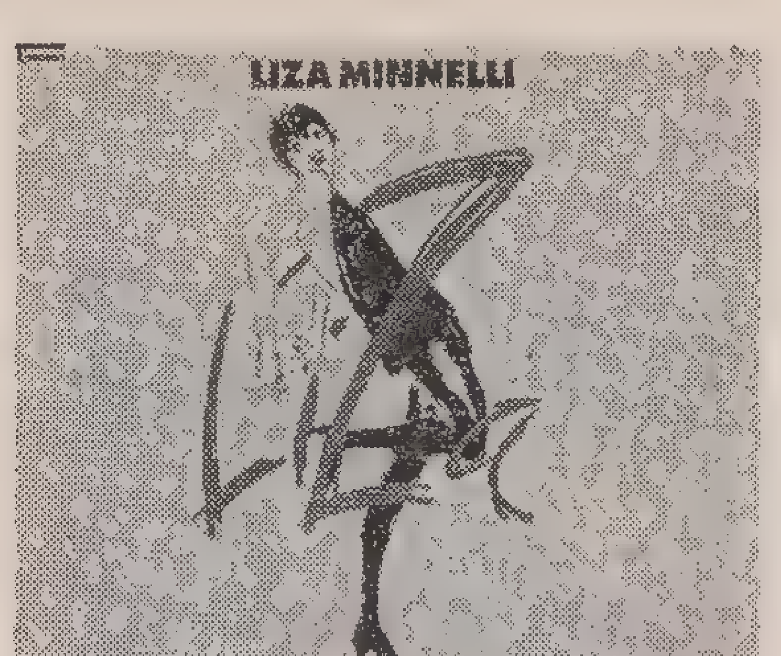
このアルバムの録音を終えた彼らは、6月まではアメリカ中をコンサート・ツアーし、7月以降も新しいショーの公演で多忙となる。こんな多忙な彼らにとっての夢は、再び日本で公演旅行することである。しかし、スケジュールからみて今年は一寸無理。来年の5月か6月ごろになるとか。

兄リチャード、妹カレンの兄妹のフレッシュなセンスで作るハーモニーの美しさに、心うばわれるステージの素晴らしさは来年、再現される！

★今月の一枚

「ライザ・ミネリ／ライザ・ウイズ・ア・"Z"」

〈CBS SOPM32〉

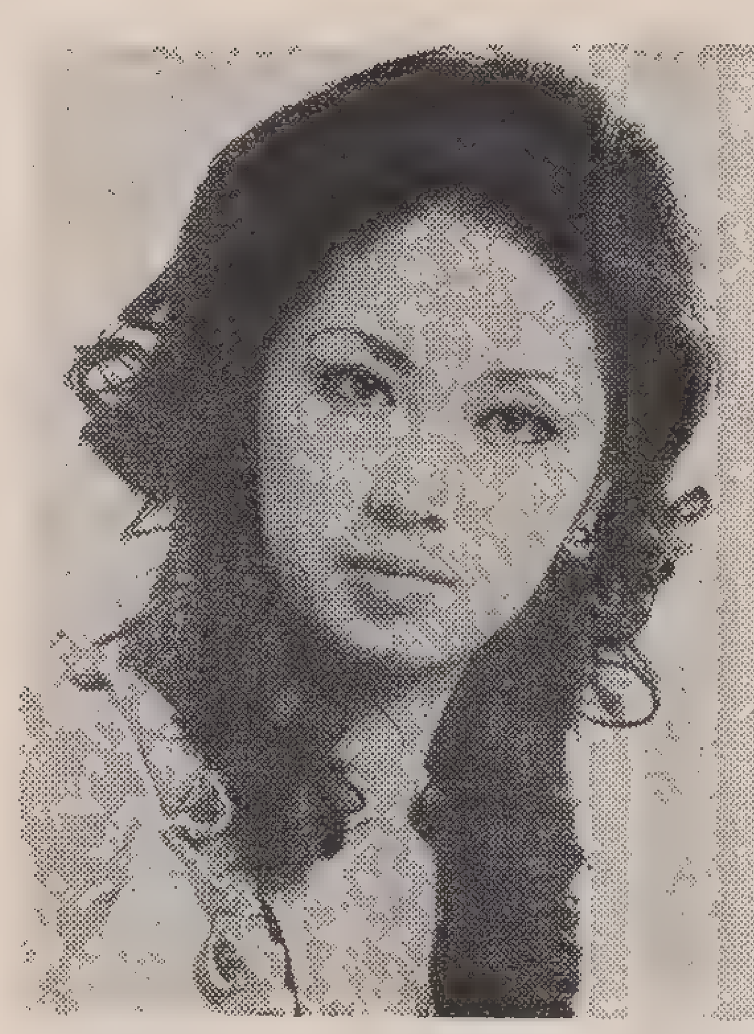


ジュリー・アンドリュース、バーブラ・ストライサンドに比較される大型ミュージカル・スターがライザ・ミネリである。彼女はジュディ・ガーランドの娘らしい、スケールの大きなパーソナリティの持主で、その唱法もダイナミックで、若々しいエネルギーのかたまりのようなシンガーである。

このアルバムは昨年の9月10日、NBCテレビを通して全米に放送されたワン・マン・ショーをライブ・レコーディングしたもの。つまりオリジナル・テレビジョン・サウンドトラック盤というわけ。私はリーザやリーサではなくZのついたライザですというコミカルな歌「**ライザ・ウイズ・ア・"Z"**」を始め、「**キャバレー**」メドレー、ビリー・ホリデイの自作自唱の「**ゴッド・ブレス・ザ・チャイルド**」、アル・ジョルスンのなつかしい歌でおなじみの「**マイ・マミー**」、シャルル・アズナブールの自作自唱した「**ユーブ・レット・ユアセルフ・ゴー**」など全11曲が楽しめる。

河本由貴

〈クラウン〉



★キャッチ・フレーズ・**カメレオン・ボイス**

★デビュー曲・「**恋の潮どき**」（作詞・中山大三郎、作曲・高橋五郎）

★生年月日・昭和27年11月14日

★趣味・バトントワリング

★変なキャッチ・フレーズだが、これは彼女の声を一度聞けば納得がいく個性的な忘れられない声だ。彼女はどういうわけか、芸能界よりもスポーツ界に知人が多く、特に大関の輪島とは親しい。輪島は「とにかく明るくて、そそっかしくて、すばらしい美人。そのくせ美人ぶらないひと」と手ばなしでほめている。湯河原のソバ屋のお嬢さんで、巾広いレパートリーを身につけようとレッスン中。



純アリス

〈日本フォノグラム〉

★キャッチ・フレーズ・**岡田嘉子作詩の曲でデビュー**

★デビュー曲「**アザミの花**」（作詩・岡田嘉子、作曲・郷五郎）

★生年月日・昭和28年6月20日

★趣味・ピアノ

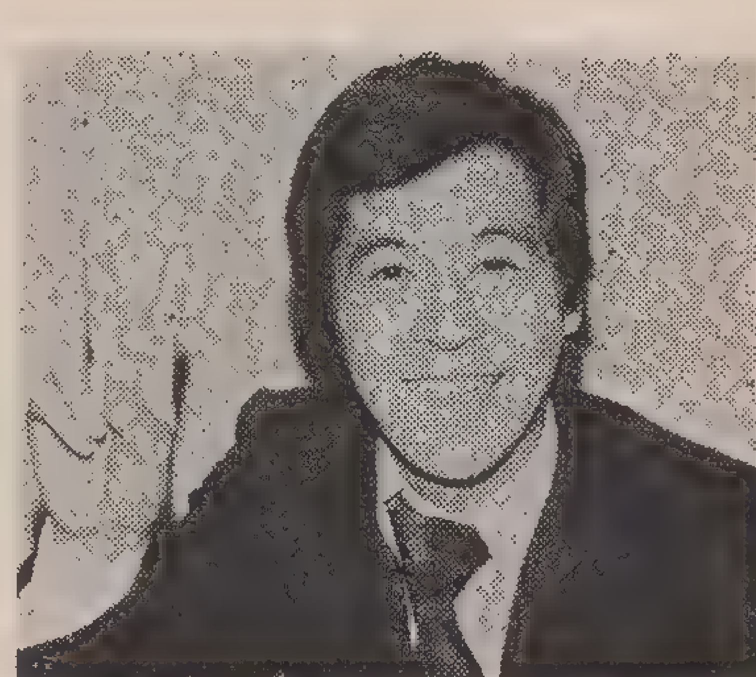
★「アザミの花」は岡田嘉子がモスクワにいる間に書いた詩。これをたまたま目にした「フランシーヌの場合」の作曲家郷五郎が「ぜひ私に作曲させて欲しい」と頼み込んで、この歌ができあがった。純アリスは日本人の母親とオーストラリア人の父親の間に生まれた混血で、「ママはライバル」（TBS系）ですでにおなじみのタレント。この歌で待望の歌手の仲間入りだが「詩の心を大切に歌っていきたい」と感激している。



宝塚歌劇といえば、かかせないのが男役スター。東京宝塚劇場4月の雪組公演『花吹雪』で、最近トップスターの座におどりでた江夏子と、主役をダブルで演じた順みつきは、その男役スターのホープとして株をあげているひとり。ひと一倍のガンバリ屋で、こうと思ったら、トコトンやりぬく努力型

背丈が同じくらいに加え、意志が強そうで、ちょっぴり泥くささがあって少々きつい印象など、ゴンちゃんこと上月晃に似ているところから、東宝では〝ゴンちゃん二世〟で走るという。それはいいが、ある一時的にせよ、芸能界引退につながった、プレゼント事件だけは「似てほしくない」とは、熱烈なファンの声。

『花吹雪』では、ご機嫌の舞台をつとめた彼女、恋人は（？）に、「そんなこと、いまはとても‥‥。舞台のことで、無我夢中です」



「僕って歌がヘタだから申し訳なくて‥」といつになく神妙な顔付で謙遜するのはジュンちゃんこと井上順。言葉とはうらはらに最近では『ラブ・ソング』がヒット。その他、歌の司会にドラマ出演にと売れっ子ぶりを大いに発揮しての毎日だが、その人気たるや大変なもの。「大ヒットは望めないし、それほど大それた夢もない。今がベストです。これからもこのままでヘタでもジックリと歌ってゆきたい」と、ブラウン管で見るヒョウキンぶりとはえらく違って殊勝なコトバ。自分を知るということが彼の場合、そのまま根づよい人気につながっているのかも知れない‥‥。



『別れの朝』でデビュー以来出す歌のすべてがクリーン・ヒットでブームを巻き起こしたペドロ＆カプリシャスだが、昨年10月、人気者の紅一点、ボーカルの前野曜子が健康上の理由から脱退、代りに九州で歌っていたという高橋まり子を加えて再スタートしたはずだったが、その後どこかへ雲がくれしてしまっていた感があった。

その彼らが何の前ぶれもなしに突然新曲『ジョニイへの伝言』を手に姿を現わした。再スタートがおくれたのはメンバーが交代しただけで、ナマ半可な気持でのスタートがいやだったからというのが表むきの理由。実はこのかん新入り高橋まり子の特訓につぐ特訓で、いくらかでも前野曜子の人気に肉迫するようにとの涙ぐましいオハナシ



よくとおるセリフの調子のよさもさることながら、踊りに関しては、若手花形随一の技倆をもつ尾上辰之助は、本名・藤間享。昭和21年10月26日東京の生まれで、小・中・高校とも、暁星を卒業。

初舞台は、昭和27年2月尾上左近で歌舞伎座『伽羅先代萩』の鶴千代と、『江戸育お祭左七』の丁稚長太。辰之助の襲名は40年5月の歌舞伎座で『曽我対面』の五郎、『君が代松竹梅』の松の君だった。

私生活ではオトボケの天才と酒豪で知られる。酒の適量はウイスキー半本（？）で、飲むほどに助平になるそうナ。日常のはなしっぷりは、父の松緑そっくり、早いテンポで明快そのもの

婚約者が決っているが、彼女にのぞむことは、「何が何でも、絶対の服従を要求します」。亭主関白の素質も充分のよし。

お米の買しめ事件で大手商社が手入れをうけたり、物価の異常な値上りに怒った主婦連が不買運動をおっぱじめたり、なにやら騒然とした世情。鳴りもの入りで登場した角さんの人気もここのところ落ちっぱなしの昨今だが、私たち庶民にとっては、せいぜい由美かおるくんのさわやかなヌードでもながめてウップンを晴らそうというところか。それにしてもくだんの美空ひばりショー、ふたを開けてみたら押すな押すなの大盛況だったとは‥

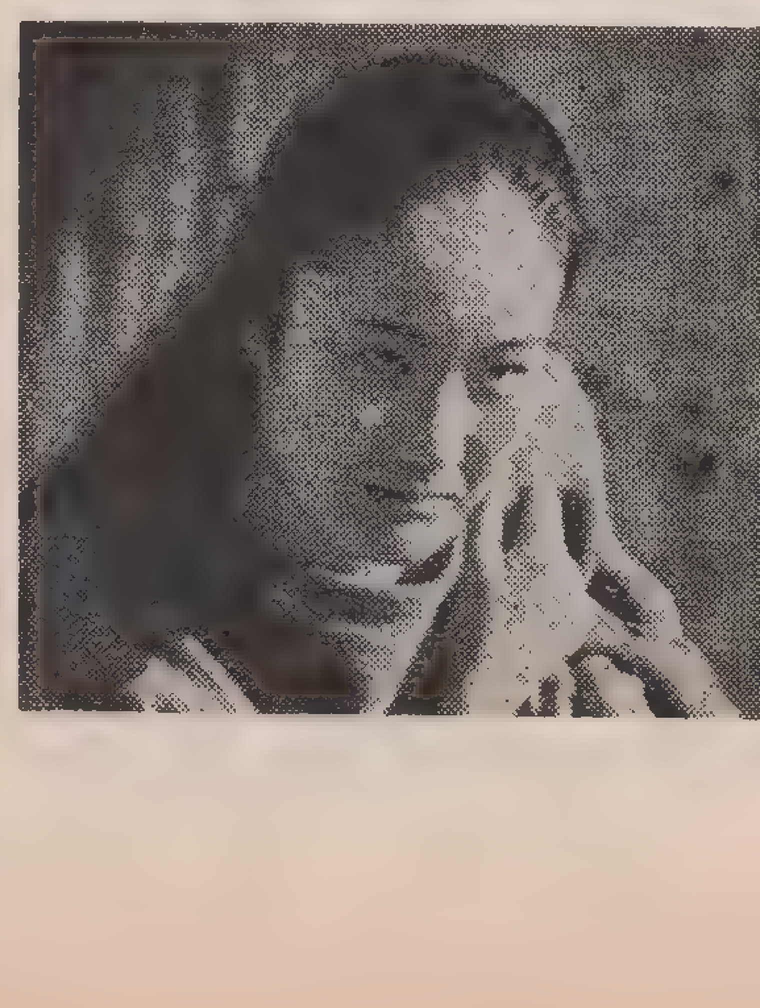
かつて東映時代劇のお姫さまスターとして名高い高千穂ひづるが、いまテレビの〝昼メロスター〟として大活躍している。司葉子、岡田茉莉子ら大物の進出でちょっとした異変を巻き起こしている昼メロだが、安定した人気を得ているという点では高千穂ひづるはまずは〝女王〟格。女王としての感想は？のインタビューに「もちろん誇りは持っていますよ。〝昼メロ〟というと以前は〝一段下り〟といった意識がありましたよネ。でも、いったい何が下なのかしら。それにしても今のテレビでジックリしたものを作るとしたら昼メロしかないんじゃありません？だいたい昼夜を区別すること自体がおかしいんですよ」と大変意気さかん。メロドラマは動よりも静の芝居で、内面的なものが要求されるとあって、家に帰れば妻、母の仕事が待つ彼女にとって昼メロ出演は大いに人生の勉強になっているとか‥‥。



赤テントの状況劇場が、3月に東南アジアのバングラデシュで、東京キッド・ブラザースは4月にグアム島ですでに公演をもったし、この春の公演で次なる飛躍にそなえて解散が決った早稲田小劇場は、4月末から5月にかけて二度目のフランス公演に出かけるなど、今年は春から小劇場の海外公演がおさかん。

「ぼくらの芝居がむこうの人に理解されているとは思いません。演劇というよりも〝異様なもの〟としかうつってないはずです」が海外出張共通の弁「ものを見たいといった欲求とむかいあうことで、自分たちをシゲキしてくれる〝ナニカ〟が見つかればということの期待しかありません」

つまりは、こんごの演劇行動のベンキョウが、主目的というワケか（？）



殿さまキングスといえば、最近メキメキ売り出してきた人気コミック・バンド。移りかわりのはげしいコミックバンドの中で〝苦節六年〟目に開花し今やギャラも同種のグループでは最高級とか‥‥。

その彼らが今度はレコードにも進出本格演歌で勝負に出た。ビクターから発売の『北の恋唄』がそのデビュー曲だ。「演歌ブームのきざしをボクたちが本物にする。歌謡史に残るものにしたい」ということだが、ぴんからトリオの後を受けて、柳の下にふたたびドジョウがいるかどうか‥‥。



「いまさら、新人賞をもらうなんて‥‥」とテレをみせながらも、「うれしいです」と喜びをかくし切れないのが、新宿コマミュージカルチームに入団11年余で、文部省の昭和47年度芸術選奨大衆芸能部門、新人賞に輝いた大西睦美。不振といわれる昨今のレビュー界からの受賞だけにひとしおのものがあるという。

これからは、トップスターの座にある新宿コマミュージカルチームのよきけん引車としてガンバルことは勿論だが、「舞台で、自分自身を構成できるようにならなくっては‥‥」が、その抱負。

「芝居ができなければ、踊れない」というイミが解りかけてきたということだが、こんごが楽しみなダンサーだ



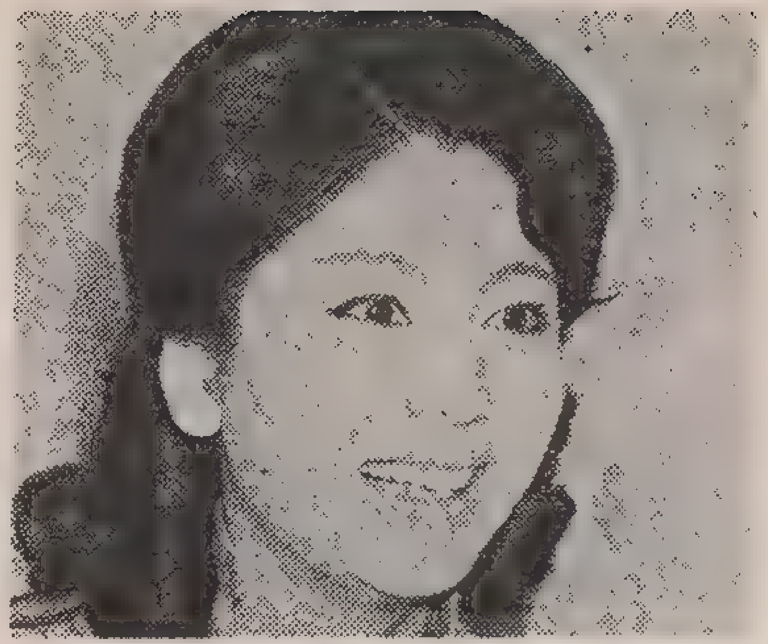


NHKテレビ「春の坂道」で、柳生十兵衛の少年時代、七郎丸をやってから、名子役をうたわれ、一躍人気ものの仲間入りをした岡村清太郎。テレビ、舞台からひっぱりだこだが、帝劇の7月公演「王様と私」に王子役で出演する。

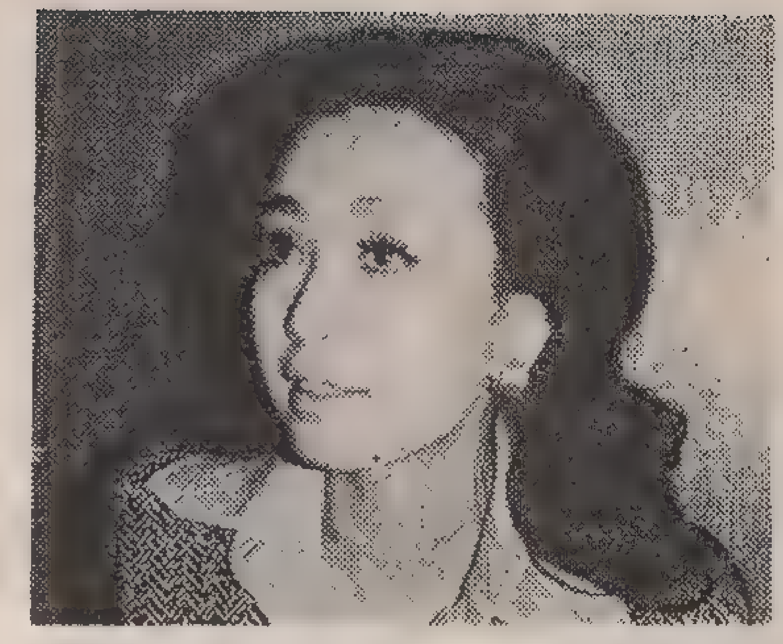
「ノリちゃん（中村勘九郎）がやった役だから、ぼく出たい」と、セリフと歌のオーディションを受けて、みごと合格したもの。

まだ舞台は先きだが、学校の春休みを返上して、早くも、セリフ、歌の稽古にもっぱら。「ノリちゃんに負けたくないから」がその理由。

清太郎は、いとこの勘九郎同様、六代目尾上菊五郎の孫にあたるが、このおとな顔負けの役者根性に、スタッフは感心することしきり。血筋は争えませんネ‥‥



松原智恵子の結婚、吉永小百合の婚約で急にクローズ・アップされてきたのが〝日活三人娘〟の残るひとり和泉雅子の周辺。「結婚？まるで関心がないといったらウソになっちゃうけど、マア聞いて下さい。フジTV系『かあさんの四季』の延長が決まったでショそれに『花は花よめ』のあとを受けて日本TV系『恋は大吉』、また五月になれば長谷川一夫先生とご一緒の東京宝塚公演『ある夜の殿様』でショ。あと日課として踊り（花柳流）に小唄（三升流）、長唄（日吉流）、お花（古流）。ネ、これじゃちょっと無理でショ？」　じゃあ一生独身かと聞けば「失礼ネ、あたしも女よ／30歳までには必ず結婚します。でもお見合になりそうネ」だってサ。



『旅情』以来半年ぶりの新曲『恋する女のブルース』を出した園まりが、有線放送を中心にキャンペーンを展開、大いにハッスルしている。「前作『旅情』は10年間やってきた自分の可能性を試した作品だったし、同時にひとつのパターンを脱皮した作品でもあると思うけど、今度のは昔の園まり調にもどった作品でいままでよりは安心して歌えます」とのこと。良く分らないけど、結局『旅情』があまりヒットしなかったので、早いはなしがあの頃の夢をもう一度、ということなのらしい。それにしても中尾ミエ、伊東ゆかりとともに組んだ3人娘のなかで、ブラウン管にどうにか登場しているのは彼女だけとあっては、なんとも淋しいかぎりのおはなし。



たしかに歌手だったはずなのに、佐良直美の昨今は作曲、ドラマ出演とさながら〝歌を忘れたカナリア〟で、TBS系『東芝日曜劇場』で音楽を担当したかと思えば、例のお化け番組『ありがとう』に出演と、まさに八面六ピの活躍ぶり。「えーっ作曲家／オーバーですよ。せいぜいメロディ・メーカーってところですよ」と御本人はケンソンするが、どうしてどうして佐良直美の作曲ぶりは『日曜劇場』の石井ふく子プロデューサーが太鼓判を押すほどの出来。いっそ作曲家として身をたててみてはの質問に、すかさず「私はやっぱり歌手、ヒットが欲しい。第一作曲じゃ食べてゆけない」との返事。ある会社の300万円の赤字を作曲の仕事で埋めてしまった彼女の、これもケンソンかな？

INFORMATION

本命視されていた本郷功次郎のほかに、実は本命がいたと、週刊誌上を賑わし、その発展ぶりが明かされた三田佳子、帝劇公演『伊達小袖』で三月に相手を組んだ林与一に、満更でもなかったものだが、その林与一にかわって四月に相手を組んだ中村富十郎には、ぞっこん、まいったようす。

「あの、よくとおるサワヤカな口跡とてもスバラシイワ。うごきも、とても魅力的なの。富十郎さんって、いまはおひとりなんですってネ。私、ほんとうに、ほれちまおうかしら‥‥」気の多いところをみせているそうナ。

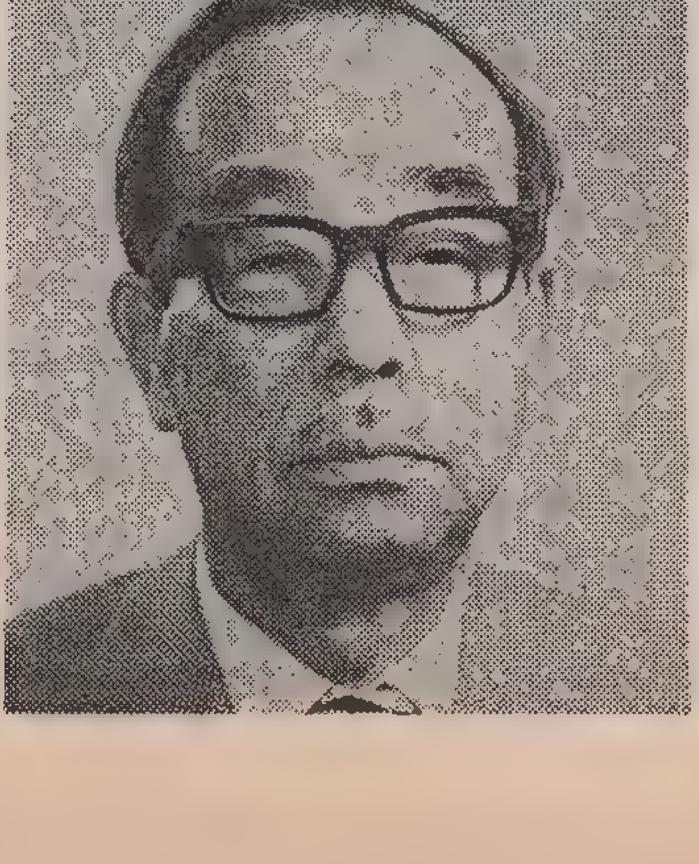


再度の奇跡の願いもむなしく、4月4日、黄泉の国へ旅立った菊田一夫氏は〝涙〟と〝笑い〟の哀歓の作者であった。その芝居は1.300本を数えるが底辺を生きる大衆の姿には、人をしてかかわらせずにはおかない説得力があり、大衆の厚い信用をうけたものである。稽古場ではきびしく「バッカヤロウ／」は日常茶飯事だったが、俳優たちは「善人だった」と称する。

女優にほれっぽく、いま活躍しているひとのほとんどは、その恩恵を受けているといってもいい。

菊田氏が30年に演劇担当重役に就任して以来の東宝演劇は、すべて氏にたよってきただけに、これからの東宝演劇の道は多難だが、と同時に日本の演劇界にあいた空白は大きい。

ミュージカル活動、10年間の努力に対してこの3月25日に与えられた「トニー賞国際特別賞」が、最後のはなむけになった。



〝おひまなら来てよネ、あたし淋しいの〟と甘ったるい声で中年男性を悩殺し、一世を風靡した美人歌手・五月みどりが実に8年ぶりに歌謡界にカムバックすることになった。再起第一弾は遠藤実作詞・作曲による『日本列島さがしても』。「マイクに向って歌っているうちに、ああ、これでまたレコードが出せるんだわと思ったら自然に涙が出てきちゃった‥‥」という彼女、相当純情なのか、相当カマトトなのか‥昭和40年ファンの惜しみない声援に送られて結婚、一児をもうけ主婦業に専念していたものの性格の不一致から離婚。一時は実弟についてプロボウラーに転向か？とも噂された彼女だが、この再起ウラと出るかオモテと出るか



自家用車二台には大型ポスターを貼り、山手線沿い（代々木―原宿間）の自宅庭には、タテ3〔米〕、ヨコ9〔米〕の野立て看板をたてて、宣伝にも一役買うなど、新宿コマ4月公演『春香伝』に「すべてをかけた」江利チエミ、別れたいまなお、気にかかるのが、高倉健の存在。

「いつも仕事に真剣に取り組んでいたケンさんだけには、仕事上のことでケイベツされたくないの。いつ見に来てくれるかも知れないでしょう。毎日一生懸命演ってるの‥‥」と舞台上でもハッスル。

彼女、ほんとに健さんに、ホレてたんだネ。



TV情報

真木洋子ハッスル

NHKの《藍より青く》で一年間それこそ全国津々浦々で愛された真木洋子は、春の新番組シーズンを迎えて、民放各局で争奪戦。結果は民放初出演はNTVの《闇にうかぶ微笑み》に落付いた。これは好評だった〝火曜日の女〟シリーズを土曜日に移動した第一作。

朝の顔から夜の顔に変身した真木洋子は、サスペンス・ドラマのヒロインを熱っぽく演じている。

幼くして両親をなくし、父の友人である実業家・池部良に育てられたのが真木洋子。彼女は恋人が殺されたショックで一時的な記憶喪失症にかかるが、そんな彼女の前に、夫と名のる男、峰岸隆之介が現われて、ミステリアスな事件にまきこまれていくという物語。

「この作品で、これまでのイメージを積極的に破りたいんです」

と真木洋子はハッスルしているが、この《闇にうかぶ微笑み》と併行して、NETの《花筵》がスタートするのだから、まさに売れッ子中の売れッ子という寸法。



《闇にうかぶ微笑み》の真木洋子

こちらは、名作ドラマを数多く世に出した〝名作劇場〟シリーズで、山本周五郎の原作。

格式高い家老・森雅之の娘が真木洋子で、青年武士・田村高広に嫁ぐが、新婚間もないうちに、夫は藩政改革のくわだてが発覚して追われる身となり、幾多の苦難に見舞われながらも明るく強く生きぬいて、再びわが手に幸せをつかむまでのお話。

題名の《花筵》は、彼女が追手を逃れて百姓家にかくまわれるうち、花筵がこの土地で作られているのを知って、自分でも独創的な図柄で織るところからきたもの。

真木洋子は、山本周五郎の原作に惚れこんでいて、このヒロインに懸命にとり組んでいる。



《花筵》の真木洋子と田村高広のコンビ

帰ってくる《七人の刑事》

春の新番組は、刑事もののブームといった感じだが、刑事ドラマとくれば元祖といっていい《七人の刑事》が、そっくり帰って来る。

TBSが90分ドラマの第三作として6月24日に放送するもので、捜査係長の堀雄二を中心に芦田伸介、菅原謙二、美川陽一郎、城所英夫、佐藤英夫、天田俊明のなつかしの七人が4年ぶりにブラウン管を顔をそろえるというわけ。

《七人の刑事》は昭和36年10月から放送開始、39年5月にいったん終了したが、視聴者の強い要望で8月には再開されて44年4月までつづいた人気ドラマ。ベテランから若手までバラエティにとんだキャストと、そのときどきの社会問題を浮きぼりにして、複雑な人間模様に直面した刑事たちの憤りや悲しみを描いたのが好評の大きな理由。



再会《七人の刑事》の天田・城所・美川・芦田・佐藤・菅原・堀

今回の90分ドラマは、あれから4年たった昭和48年の6月、ある殺人事件が起り、捜査を進めていくうちに何年か前に七人が担当した事件と関係があることがわかって、今は退職している美川陽一郎、他の課に移った刑事、一課に残っている刑事、転職した者など、バラバラの七人が再び集って捜査にのり出すという設定になっている。

当時は独身だった天田俊明も現在は三児の父だし、堀雄二の長男も中学生だったのが、いまでは大学生。

それなりに年月が経った感じを、そのままドラマに生かそうというわけだが、

「これが刑事ドラマの真骨頂というものをお目にかけます」

と再会した七人は意欲満々。

今度は魚屋の娘です

50パーセントを越す視聴率で、化物番組といわれた《ありがとう》がいよいよ再開される。

44年4月にスタートした《ありがとう》第一部は水前寺清子の婦人警官が中心、47年1月から一年間つづいた第二部は、看護婦だったが、今回は、水前寺清子が威勢のいい魚屋の娘で登場、その母、山岡久乃とともに客との交流、隣人との生活を軸に、再び化物番組ぶりを発揮しようとしている。

出演者は例によって超豪華版。隣家の八百屋の女主人が蕫原邦子、長男が石坂浩二で次男が井上順。

向いの雑貨屋に園佳也子、酒屋が草笛光子、化粧品店が草笛光子で、肉屋が佐野浅夫と奈良岡朋子、その娘が波乃久里子と沢田雅美。

焼きとり屋の三人兄妹が、児玉清新克利、佐良直美といった具合で、大空真弓、小鹿ミキたちは客というわけ。



再登場《ありがとう》のメイン出演者

魚屋をはじめ八百屋、肉屋と生鮮食料品を扱う店がずらりと並んでいるとあって、スタジオは大騒ぎ、生ものばかりなので美術スタッフは、鮮度のいい品物を……と四苦八苦。録画が終了すると、出演者やスタッフの間で、これらの小道具をチャリティ・セールしているそうだが、番組終了までには、この売りあげもバカにならないのでは……とささやかれているほどだ。

消費物価の高騰で悩まされている視聴者に対する姿勢として、

「生鮮食品をいかに安く仕入れて、安く売るかもドラマのポイント」

と、スタッフは連日、魚市場や青果市場に足を運んで、あらゆる角度

から取材してまわっている……というから、その点でも茶の間の関心を集めることになりそう。

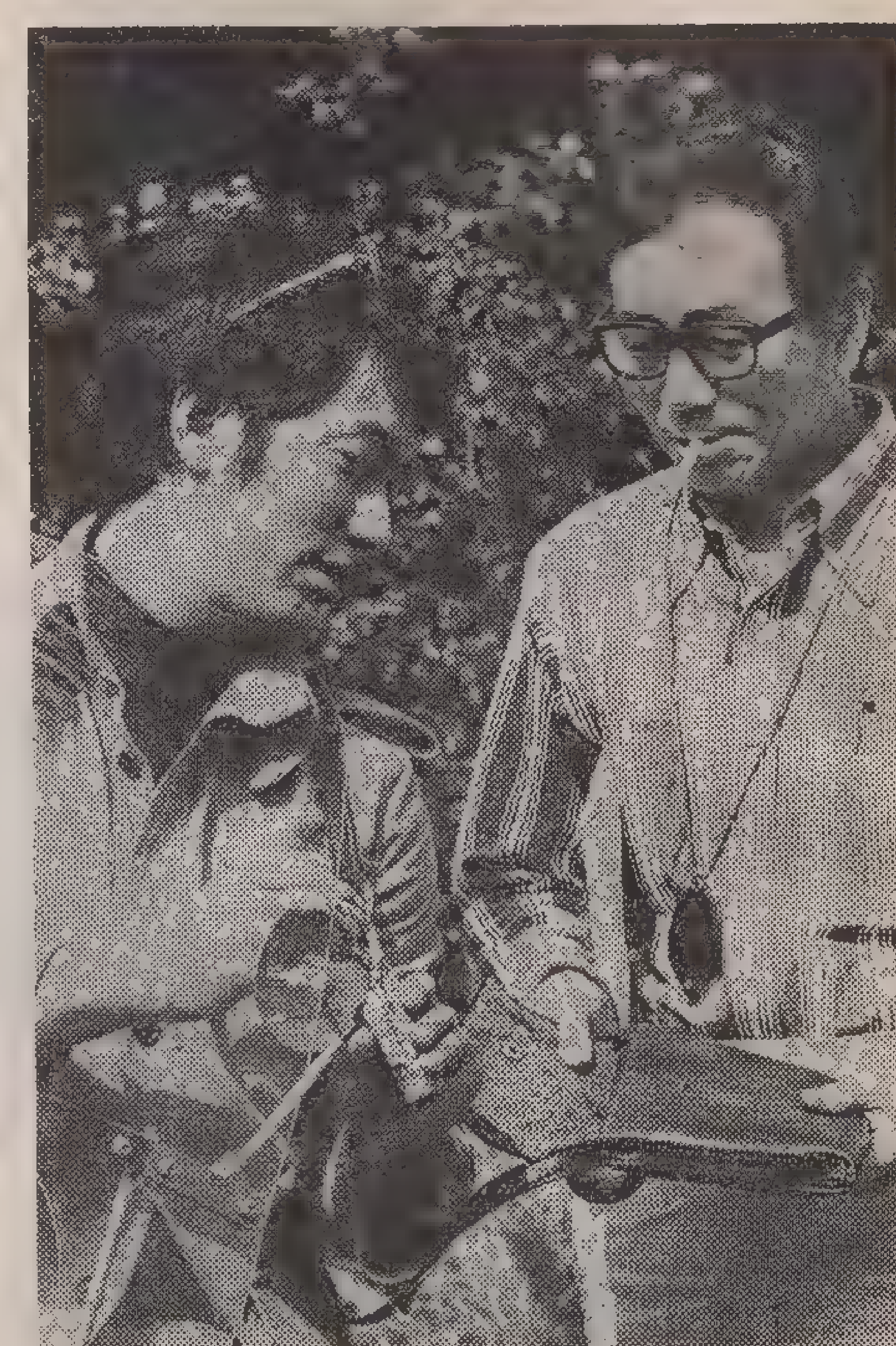
紋次郎現代版が

《木枯し紋次郎》を生んだ市川崑監督と中村敦夫の名コンビが復活して今度は現代版を……というのがフジテレビで7月スタートを予定している《追跡》。

地方回りの新聞記者の生き方をテーマにした三好徹の小説をドラマ化するもので、中村敦夫はサハリ・スタイルでスクーターをのりまわす、ちょっとニヒルな記者を演ずるわけ

「あっしにはかかわりのねえことで……」と口の揚子（ようじ）を飛ばす……ってわけにはいきかねるが、茶の間のフィーリングに合わせた〝ヒューマンサスペンス〟を……と、名コンビはぴったりの呼吸。

「紋次郎のときは恋人がいなかったので、こんどは恋人をつくってあげました」。

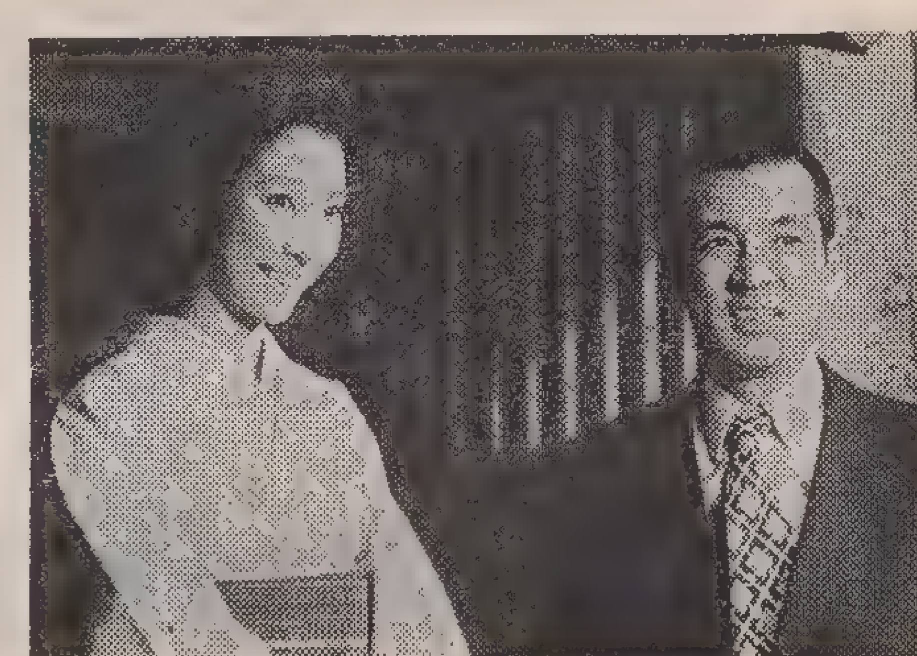

《追跡》で顔を合わせる中村敦夫と市川崑

と市川崑監督が中村敦夫をひやかすのだったが、その恋人役はポーランド系アメリカ人の新人**ジョエン・ガレッキー**というかわい子ちゃん。

揚子を鉛筆にもちかえた中村紋次郎の記者魂（きしゃだましい）は、ちょいとしたみものとなりそう。もっとも、この記者、いわゆる猛烈記者ではなくて、興味のない取材だとボサッとしているのがミソなんだそうだ。

坊主になった加山雄三

新人女優を同乗させての自動車事故で、すっかり株をさげ、仕事をうばわれていた加山雄三が、事件以後の初仕事は、頭を丸めた坊主役。

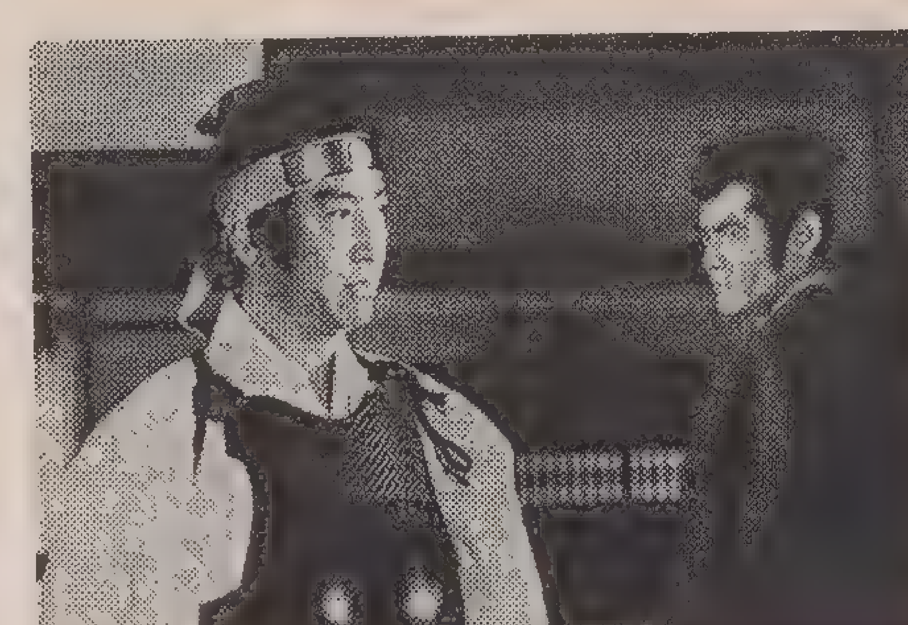

《加那子という女》の新珠と加山

NTVの《**加那子という女**》がそれで、ヒロインの新珠三千代と道ならぬ恋におちる僧侶の役。

「事件を悔いて頭を丸めたわけじゃないんだけど、タイミングがよすぎてどうも……」

と加山は照れているが、初共演の新珠とは息のあった演技を展開。

割烹（かっぽう）旅館の女中頭（じょちゅうがしら）から寺の住職（じゅうしょく）・**仲谷昇**のもとに嫁いだ新珠は、二人の子を生みながら、夫の留守に住職代理としてやってきた加山と愛しあうようになり、彼の子をみごもってしまう。それからの30年間の波乱の人生が描かれる作品で、**丹羽文雄**の『**一路**』をはじめてドラマ化する文芸作品。加山はこの一作に再起を賭けているというわけ。


《新選組》の鶴田浩二と菅原文太

幕末やくざ路線？

フジテレビでスタートした《**新選組**》は**鶴田浩二**の近藤勇が男の魅力をふりまいているが、この近藤に対抗する桂小五郎には、これまでの二枚目タイプとちがって、ぐっと男くさい**菅原文太**が起用された。

東映やくざ路線の大御所、鶴田浩二に対して、『**仁義なき戦い**』などで新鋭やくざのエース・菅原文太の参加となると、ちょっとした幕末やくざ路線……てな感じだが、この二人が動乱の幕末にあって、互に主義主張をこえた男の友情を感じあっているという設定で、まずはバツグンの顔合わせ。

もっとも菅原文太の方は、恋人幾松役の**中村英子**とのラブシーンとなると、どうにも苦手といった感じだが、白塗りをやめたこの小五郎は、

「明治の大政治家木戸孝允になる人ですからね、慎重にやらなくちゃ」

●芸能愛欲語辞典●

の

監修／南部僑一郎

ノアの箱舟「旧約聖書」創世記に出ている有名な洪水伝説。主人公ノアが神の示しで巨大な箱舟をつくり生物すべて一つがいずつ救った物語。アメリカ映画「天地創造」（ジョン・ヒューストン監督主演）で壮大な規模をみせていた。

ノイローゼ 身体的に何の異常もみとめられないのに精神的原因で身心に種々の病状が現われるもの。家庭の不和、強い失恋などが動機になっておこる。昔はまことに甘い言葉があった。「恋わずらい」といい芸能の世界では「牡丹燈籠」その他の怪談などで巧みに描き出されてきた。

能（のう） わが国古典芸能のうち代表的な一つ。五百年ほど昔からおこなわれ、いまも続いている。とくに男女の愛欲を描いたものは幽幻で美しい。

農家（のうか） 大昔から農業国だった日本には農家を中心にした悲喜劇が多く出ている。それは土にうもれ表面にあらわれないドラマである。映画では戦前内田吐夢監督「土」が著名な作品。

直衣（のうし） 平安時代貴族の平服。時代劇などによく現われる。はかまは下でくくった指貫（さしぬき）。日常は烏帽子（えぼし）をかぶる。映画「源氏物語」などでおなじみの筈。



農奴（のうど） 封建制社会、土地にしばりつけられた不自由な農民。中国ではパール・バックの「大地」アメリカで「アンクル・トムズ・キャビン」など映画演劇にとり入れられた。

農兵節（のうへいぶし） 民謡。幕末ころ開港でにぎわう横浜野毛山（のげやま）下での洋式軍事調練を皮肉をいれ唄ったもの。ノーゲの山からノーエ、といまでも歌っている人もいる。

野菊の墓（のぎくのはか） 明治の作家で俳人の伊藤左千夫の処女小説。農村に育った十五歳の政夫と野菊のような乙女民子との淡くはかない純愛を描いた。昭和三十年木下恵介監督が「野菊の如き君なりき」の題名で映画にして好評だった。

野口雨情（のぐちうじょう） 詩人。大正昭和二代にわたって数多くの童謡民謡がつくり出され「波浮の港」「十五夜お月さん」など映画化されたものが多い。

のぞきからくり 江戸中期から明治大正まで続いた娯楽設備。箱の前にあるのぞき穴から見ると、仕掛け絵がつぎつぎに変化してゆく。絵の主題は「八百屋お七」「石童丸」など悲哀物語で、箱のわきに



男女の祭文（さいもん）に似た調子の語り節がついた。

のど自慢 昭和二十一年一月NHKラジオ放送から始まった素人が歌謡曲、民謡などを歌う催し。なんと二十八年間、今でもテレビの人気番組として続き、ここから一流歌手になった人もいる。

ノートルダムのせむし男 十九世紀、ビクトル・ユーゴの歴史小説。ジプシー娘エスメラルダを中心にせむしの鐘つき男カシモドの純愛と自己犠牲。戦前戦後洋画大作として映画化された。

野ばら 百六十年昔ゲーテの詩に十八歳のシューベルトが曲をつけたもので世界じゅうの若い男女がいまだに唱っている。

野伏（のぶし） 平安朝から山野に寝て修行した僧。山伏や後に一揆（いっき）をおこした農民軍のこともいった。野武士ともかいた。

幟（のぼり） 幟旗の略称で、今でも何かの機会にみることができる。風になびく旗は樹木にからむので



五百年前からこの様式がうまれた。

乗合船（のりあいぶね） 釣りをやったことのある人なら誰でも知っている。昔の水上交通機関。それだけに古くから歌謡や歌舞伎舞踊にとり入れられた。

のれん もともと陽よけのためのものが、商家の屋号を出したことから家の象徴のようになった。現在でいえば看板のひとつと思えばいい。商家の奉公人がノレンワケといって分れて独立の商売をやる場合にもいわれる。

のろし 信号用の火や煙のこと。西部劇をみた人なら誰でもインディアンの煙ののろしを知っている。江戸時代から火薬が発達したので花火を使うようになった。

のろい（呪） 呪言（じゅげん）や行動で憎むべき相手に不幸や災厄をもたらそうとする方法。この呪術信仰からきた奇妙な習慣は明治期までつづいた。相手の爪や髪毛など使ったり人形（ひとがた）に釘を打ちこんだり、俗称丑の刻参り（午前二時半）なんか今では芸能の中にようやく生きのこっている。

野分（のわき） 秋に吹く強風。草木を吹き分けることからこの名が出た。黒沢明監督の「用心棒」とか「七人の侍」などに出る出演者たちが顔もあげていられない場景を思い出してほしい。



ノン・フィクション 事実にもとづいた作品。記録小説、記録映画、戦記、伝記、旅行記など、空想や想像によらない実録のすべて。

●第一線芸能記者覆面座談会●

意外や意外！花の素顔のもうひとつの素顔

芸能スターにゃ仕事の顔と、ほんとの顔がございます。売れてるイメージとは別に意外な内面がかくされてる例など、いろいろとございましょう。今月は日ごろタレントと接触している、ベテラン記者のみなさんに、今日このごろの事件を通じて、芸能スターの花の素顔を語っていただきました。

（編集部）



小百合婚約の後遺症

本誌　第一線記者のみなさんは、芸能界の人気者たちの意外な素顔に接しておられると思いますけど、今日は、その花の素顔のもうひとつの素顔っていったものを……

A　むずかしい注文だな。オレたちには、そこまで素顔をみせないのがタレントってもんだぜ（笑）

B　それにしても、スターともなれば、表の顔と裏の顔ってのがいろいろあるよな。愛嬌のあるのもあるけど、こ憎らしいのもあるね、ほんとに……

C　まず、ほほえましいところからいこうや。**吉永小百合**なんてのどうだい。ありゃ憎らしい方かな、オレたちの本音では（笑）

A　**岡田太郎**氏との永い仲を、ものの見事にとぼけつづけたって点で週刊誌記者のうらみを買ってる向きも多いんだろうけど、いざオープンになっちまうと、ああ手放しでよろこばれると、ほほえましくもなろうってもんだぜ。

C　そのコンビの『**愛のはじまると**き』が、意外や意外の視聴率で、フジテレビとしてはがっくり。

B　その悲報を小百合に誰が伝えるかって、鳩首会議の結果、やっぱり太郎さんに伝えてもらおうってことになったそうだな。

A　二人でなぐさめあって……ってところだろうけど、婚約発表以降の視聴者のうけとめ方をとってもも気にしていた小百合だけに、たしかにショックだったんじゃないかなァ。

B　フジテレビは、ハッピーエンドで幸せいっぱいの小百合は、やっぱり逆目に出た……と判断してるね。いっそ、小百合の父親が、せめて六回目を放送するくらいまで断固反対っていってくれれば、視聴率かせげたのでは……なんて無責任なことをいってたぜ。（笑）

離婚するか浅丘ルリ子

本誌　今後、吉永小百合としては、素顔と演技の顔の使いわけが苦しくなるってことでしょうか。

C　幸せいっぱいって顔してて、ドラマチックな起伏を演ずるってのは無理な話なんだ。女優ってのはある種の緊迫感がなきゃ面白くないからな。

A　**浅丘ルリ子**なんか、**石坂浩二**との家庭円満を折あるごとにPRしてるけど、それでも、夫婦の危機説ってのが消えないが、それがつまり女優の価値を高めてるってことかね。

B　オレは、やはり浅丘ルリ子の離婚はあり得ると信じてるな。『**冬物語**』のルリ子なんか見てると、ありゃ、石坂浩二の女房なんかにしといちゃいけないって気になっちまう。

A　ルリ子に惚れてる奴は、みんな別れさせたがるな（笑）

B　それもあるけど、同じ演技者同志として評価すると、やはりルリ子の方が亭主をうわまわってる。しかも、ルリ子は、石原プロ以来の相棒の**銭谷**プロデューサーと起したプロダクションを背負って、いまや意欲的に仕事をしたいってところだ。こうなるとルリ子が家庭に定着する暇がなくなるのは当然だ。まず、それが危機を呼ばないわけはない。

C　石坂浩二にも、ばっちり実績はあるんだけど、石坂でなければばって決め手がない。そこへいくと、ルリ子には、ルリ子ならこそって味がある。役者の重みとしちゃルリ子に軍配があがるからな、こりゃ亭主としちゃつらいだろう。

A　だいたい、ルリ子にかぎらず、女優であるってことは、女房じゃないってことなんだ。対社会的にも彼女たちの位置は、むしろ亭主的立場だものね。そいつを女房にしようとするから破局がくる。

B　ルリ子の場合なんか、兵ちゃん兵ちゃんで、べた惚れの顔をみせて、まァうまくやってる方だろうけど、なにかのきっかけで、もめはじめたらいっぱつで崩れそうな感じだね。

C　大手術直後の『冬物語』をやらないのもめごと以来、ルリ子の内部にさめてる部分が生れてきたって見るのが順当じゃないの。それだけルリ子の女優としての魅力がプラスされたって感じで、反面、夫婦の危機説が増大するって寸法だ。

B　川崎郊外に土地買ったからって離婚しないって保証にはならないよなァ（笑）

男まさりといわれるが

本誌　どうも、みなさん、浅丘ルリ子の離婚には賛成って感じですけど……。

A　いや、石坂浩二にやきもち焼いてるんだよ（笑）

本誌　ところで、外見と内面がひどくちがうタレントといったら誰があげられますかね。

B　**和田アキ子**なんか、かなり違う方だぜ。ジャンボで男まさりな感じだけど、実はひどく女性的で、涙もろいたちだ。

A　レコード大賞のときなんか、手放しで泣きじゃくっちまって、見てる方がびっくりした。あれ歌唱

賞だったなァ。

C ふだん、男っぽいことポンポンいってるのは、あの見てくれに合わせるための演技で、実は、とっても繊細な神経のもち主。それだけに、ひどく傷ついてもいるんだろうなァ。ほろって泣かれると気の毒になってきちまう。

本誌 歌謡スターには、外見とは大ちがい……なんて人が多いんじゃないですか。

A コマーシャルベースにのせるために自分を演じてるってケースはざらだね。**藤圭子**を悲劇のヒロインに仕立てた、沢ノ井事務所みたいにね。

B そうだね。藤圭子なんか、その典型的例だ。本来の彼女は、明朗活発な娘だものな。しかし演歌の星は、悲劇的であればあるほどいいんだって寸法だから。

C それが前例になって、**白川奈美**なんか、デビューの条件が、しゃべらぬ、笑わぬ、上向かぬ……だったんだそうだぜ。それが効を奏して、ホステスソングの〝**子守唄シリーズ**〟で売り出した。本人はひどいゲラ子なのにね。つらかったろうと思うぜ。

本誌 ところで、**小柳ルミ子**はどうなんです。**五木ひろし**と婚約説なんかも出てますけど。

B あれは、一種のかくれみのじゃないかとオレは見てるんだ。小柳ルミ子には、五木以外に本命の恋人がいるんじゃないかね。そんなうわさもチラチラきくぜ。

A 小柳ルミ子ってのは、意外にシンの強い娘だからな。感情に押し流されるってことも少ないし、ばっちり計算のたてられる娘だ。いま五木とどうこうっていったら、どんな反応が起るかよく知ってるんだ。いま否定も肯定もしないってのは、別のメリットを計算してのことだよ。

B 五木の方も、しっかりしてるから、小柳ルミ子との婚約説を否定しながら、その援護射撃みたいに『**ラブラブショー**』の恋人役に**岡崎友紀**を選んでみたり、芸の細いところを見せてる。（笑）

現代孝子物語とは

本誌 もっと、ぐーんと若いところはどうでしょう。**森昌子**とか**麻丘めぐみ**とか……

C なんていったって、ジャリだからね。全部素顔みたいなもので、経歴さえごまかしようがないじゃないの。

B 森昌子なんか、セーラー服に鞄かかえてスタジオにとびこんでくる。急いで衣裳を着がえて、鞄のかわりにファンから贈られたぬいぐるみかかえて、マイクの前に立つときも、惜しそうにぬいぐるみをセットの片隅に置いとくって感じ……まるで子供だもの。可愛いっていやァそうだけど。ただそれだけ。

C 麻丘めぐみは、歌よりもドラマの方が忙しい。『**恋は大吉**』ではアルバイトの〝巫女役〟でレギュラー出演だろう。**児玉清**や、**松山省二**なんかのうけもいい。

B そのかわり、明大中野高校の方へ行くひまはあるまい。学生だってのは彼女にかぎらず、とりあえずのたてまえだけだな。

A **奈良富士子**なんてのは、すっぱり中退しちゃったんだろう。彼女を泣きで売ろうってんで、大阪天王寺高校の同級生と先生をスタジオに入れたら、ワーッと泣きになっちゃった。すっぱりとはいうもののの淋しいものらしいぜ。

B 秋田出身の**桜田淳子**や、神戸の**森田由美恵**、北海道の**牧村三枝子**みんな親元をはなれて、友達のひとりもいない東京でがんばってる。いってみりゃ住み込みみたいなもんだものなァ。ときどき、ホームシックになるらしいよ。

C やがて名をあげ、金を貯めて、東京に家を建て、車を買って、両親をひきとる……現代孝子物語だ。そのうち教科書にのる時代がくるんじゃないかね（笑）

離婚しちゃえば……

A 孝子っていやァ、例の**森進一**はどうなったのかね。

B 石川玲子を断固誣告罪で追求するんだっていってたぜ。これまでの経過からすると誣告罪は成立するだろうからな。それにしても、母親が自殺したってのは、彼にとってショックだったろう。いまやそのうらみが石川玲子に向けられているって感じだ。

本誌 **いしだあゆみ**との結婚説はどうなんです。

C これぱっかりはわからんね。しかし、結婚はともかく、二人は熱い仲なことはたしかだろう。

B しかし、いしだあゆみも、この間の単発ドラマ『**初蕾**』なんかが好評だったし、やる気だしてるところだから、簡単に結婚なんてわけにいかんだろう。

A すぐ別れるより、のどかにやってた方がいいってところだ。**黛ジュン**なんか、離婚以来、狂ったように遊びまわってるっていうからな。六本木の深夜クラブの従業員なんかも、さすがって感服してたよ（笑）

本誌 **雪村いづみ**の方は、どうなんです。

A いずみの場合は、離婚以前から話題のあった**飯野おさみ**と、離婚発表後は、それこそ、おおっぴらに熱々だよ。離婚のときも、愛がさめたから別れるけど、恋愛しないとはいいません……なんていってたけど、あたりまえだよな。その時、すでに恋愛中なんだから。

B 結構な話じゃないですか。しかし、ある意味で、雪村いづみってのは正直な女なんだな。かわいいって感じもするよ。

C 例の告訴事件さえなきゃァネ。

A お前さんは、こだわりすぎてんだよ。ありゃ、一応のたてまえなんだから。

C いや、たてまえで訴えられたんじゃ、逮捕される方がたまらんってことだ。

B まァ、まァ、その件はそのくらいで……（笑）

大型新人は誰か

本誌 ところで、最近の新人タレントで、意外な素顔っていうと誰ってことになりますかね。

A まず『**北の家族**』の**高橋洋子**だろう。可憐な演技をみせているけど、ケロッとしたど根性はみあげたものだって、関係者も舌をまいてる。

B 北海道ロケにいっても、〝観光地の宣伝に使われるみたいで、いやな感じ……なんてケロリといっちまう。周囲はハラハラの連続。

C 文学座だって入りたくて入ったんじゃないわ……なんて堂々といってるんだから、**杉村春子**大センセイも目を白黒ってところじゃないかね（笑）

B **松坂慶子**ってのも、あの見てくれとちがって、さっぱりとドライなところがあるらしい。全力熱演型ってのは、もはや、はやらないってところかね。

A でも松坂ぐらいなら、まだ懸命タイプだぜ。**栗田ひろみ**ぐらいになると、仕事は仕事、私は私っていった割りきりが見事だ。

B ある日、目が覚めたらスターだったって感じだから、立身出世型のタレントってのは、当然少くなっちゃうね。

C 同時に、いわゆるスターっていうスケールのタレントも生れないみんな小型で、どこにでもいる娘みたい。男性の方も同じだけど。

A 仕事の顔と素顔の落差がはげしいなんてスターもいなくなっちまった。したがってスキャンダルのスケールも、ちまちまっとしてて楽しみが少ないって感じだね。

MINI MINI NEWS



浅草へ行き下町情緒にごきげんのミレーユ・ダルク

東京でひらかれたフランス映画祭に出席のため、**ミレーユ・ダルク**がやって来た。映画や写真でみるとおりのノッポさん、そしてブロンドの髪は白っぽいほど淡く、ほわっとふくらんで細いとがった顔をつつんでいる。記者会見の席で、**アラン・ドロン**とのロマンスを根ほり葉ほり聞かれてやや戸迷ってしまった。

ジャンパー・スタイルの下の卵黄色のスポーツ・シャツは、ボタンを三つもはずしてバストがのぞけそうなのには、日本の報道陣も（男が多いから）陶然とした感じ。招待した日本側もダルクには細心の注意をはらって、ごきげん回復に努力し、浅草へつれていって浅草寺をみせた。この日は色とりどりのパッチワーク式のブラウスを着こんでいたが、その長い長い脚に、またまたカメラの目が集中したという次第。

★

そのミレーユが去ったあと、**アラン・ドロン**のレコード第一作「**あまい囁き**」（キング）が発売された。ドロンはセリフをしゃべり、シャンソン歌手の**ダリダ**が歌い、ふたりのかけ合いで囁きがうまれる仕掛け。役どころはプレイボーイ。歌うダリダをくどいている感じで「きれいだね」「とってもすてき」といった言葉をムードたっぷりに語りかける。やりますねえ、さすがドロンくん。

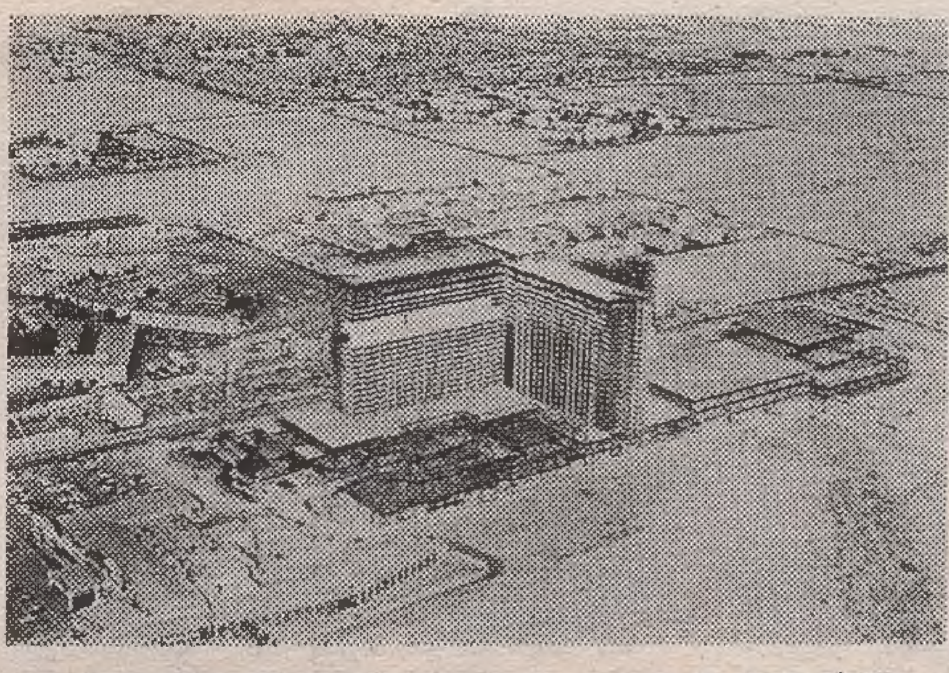


アラン・ドロンはダリダとレコードを吹きこみ

★

スティーブ・マックイーンのテレビCMがついに登場した。**アラン・ドロン**、**カトリーヌ・ドヌーブ**、**オードリー・ヘップバーン**、**チャールズ・ブロンソン**、**デビッド・ニーブン**など外国の大物が多いなかで、マックイーンのCMは、彼が大好きで自分でも何台か持っているホンダがスポンサー。契約金は噂では百万ドル（三億円）、情報では約二十五万ドル（七千万円）、どちらにしても大した額である。

この契約発表のあとで、マックイーンが、「**栄光のル・マン**」で配給会社が宣伝タイアップにつかったポスターを〝肖像権の侵害〟で訴えるという事件があった。日本の商習慣でもあり、タイアップの手続きに落度はないのだが、マックイーンさんあんまりがめつくならないで、と言いたい。あなたを慕っているファンも多いことなのだから。



MGMがラスベガスにリゾートホテルを建設



ホンダと契約したマックイーンと本田社長

★

MGMがラスベガスに世界最大のリゾートホテル〝MGMグランドホテル〟を今秋オープン。ラスベガスの目抜き通りフラミンゴ・ロードに面して建て、建坪は約二三万平方メートル。中に高さ約八三メートルのガラス張りの塔が立つ巨大な娯楽の殿堂。ショールームから劇場、カジノはもちろん、食欲、性欲、トバク欲、買物欲、スポーツ欲などすべてを満足させる設備がととのっているとのこと。だけど〝ベン・ハー〟ルームなどに泊ると一夜で貧乏になるほど高価だよ。

★

ちびっ子歌手として、またテレビドラマの子役として知られる**さくらまゆみ**ちゃんが**石橋正次**と東京、青山で結婚式をあげた。まゆみちゃんはまだ八歳。実はこの結婚式は、目下まゆみちゃんが売り出し中の曲「**およめさんになりたいな**」（詞・真澄良輔、曲・天井正）と、石橋正次の曲「**お嫁にもらおう**」（詞・千家和也、曲・叶弦大）にちなんで仲よくPRを共同作戦でというわけ。初対面でいきなり結婚式とあって石橋のほうがテレ気味でした。



石橋正次が8才のさくままゆみと結婚

★

五月に出産をひかえ、〝ただ今女優休業中〟の筈の**岩下志麻**が、夫の**篠田正浩**が演出中の「**化石の森**」に特別出演した。主人公のインターン**萩原健一**の姉の役。「ショーケンのファンなの。それに母親を演じておられる**杉村（春子）**さんとはどうしてもご一緒したかったの」とかで、夫君の出演申し込みには二つ返事でOK。〝母性本能より女優根性が強いね〟の声しきり。



妊娠8カ月で「化石の森」に出演の岩下志麻

★

「**真夜中の警視**（けいし）」（フジテレビ系、関西テレビ制作）のロケ撮影中、**原田芳雄**が無免許運転で事故をおこしカメラマン二名が重傷を負（お）う事件は、近来にない不祥事件。だが、ドラマの放映中止措置（そち）やタレントの謹慎（きんしん）、監督をはじめ関係者の責任追求（ついきゅう）などはきまっても、本質的な根元（こんげん）はどこかに……と感じられるだけに何かすっきりしないニュースである。

編集室だより

★ 異動によって私以外はみな他の編集部にうごいていく。あんまり出たり入ったりがはげしいので、映画会社の方や執筆者はややケゲンな表情。むりもないが、これも国際情報社の特殊事情からおこることなので仕方がない。そのかわり他の部所から新刊がでるし、山ちゃんも山口クンもそれにともなってのとくに懇望されての異動なのです。外はすっかり春になってしまったが、最初から落ちつかなくて、あわただしい六月号の編集だった。（林冬子）

★ 春・恋・人事異動・春闘……なんとも貧弱な連想だが、陽ざしが明るくなるにつれて、何か変化を求めるのだろう。そして、人事異動だけが、現実のものとして私の前にやってきた。出戻ってまだ一年三カ月。やっとよろしくと云い終ったところなのに、また映画情報にさようなら今度の職場は、やはり世界画報というグラフ雑誌。編集部は変っても今後とも芸能欄を担当していこうと思いますので、誌上を借りて、よろしくおねがいしまーす（山中登美子）

★ ついにこのオレは林冬子のたくみな策動によって、この映情編集部から追い出されることになってしまった。オレはこの半年間、必死に悪徳代官のような林冬子と闘ってきたが、ついに敵の強大な権力の前にあえなく敗北を喫し、悄然とここを去ってゆくのだ。去りゆく男の後ろ姿にはいつだってニヒルなムードが漂っているものだ。この俺の孤立した悲しみは、林冬子などという女が例え逆立ちしたって分りっこないのだ。さらば友よ、ケッ！（山口正毅）

ファン ファン



映画の大好きなあなた、《ファン・ファン》欄にお便りをお寄せください。あなたと同じように映画に目のないファンと友だちになれます。

映画の話だけでなく、あなたの自慢の似顔絵やカットなどもどしどし送ってください。墨か黒のマジック（印刷の関係で黒以外の色は掲載できません）で描いてください。なお裏面に住所、氏名をはっきり書いてください。

採用させていただいた方には、映画情報のステキな洋画スターブロマイドをお贈りしますから、お好きなスターの名を添えてお送りください。

あて先 〒150 東京都渋谷区渋谷二ー九ー九 国際情報社

映画情報《ファン・ファン》係



●表紙の人●
ミッシェル・ユアン＝ザデ
MICHELLE YUAN-ZADEH

やわらかいアッシュ・ブロンドのヘアがやさしくあなたに誘いかける。ミッシェル・ユアン・ザデはフランスで期待の新人。



●表紙の人●
小柳ルミ子
RUMIKO KOYANAGI

なぜかルミ子ちゃんの歌は男心をしびれさせる。「漁火恋唄」についで「春のおとずれ」も恋のムードを…（撮影／長友健二）

映画情報
第38巻 第6号
6 月 号
昭和48年5月15日印刷・昭和48年6月1日発行
定価 400円
郵送料36円・外国送料75円
編集兼発行人
石原 明太郎
発 行 所
株式会社国際情報社
郵便番号・150
東京都渋谷区渋谷2－9－9
電話 03－400－3101～7
振替口座・東京4500番
印 刷 所
国光印刷株式会社
東京都渋谷区東1－28－6
電話 03-409-2861～4

●本誌のご購読は、本社(上記)に直接電話かはがきで、または最寄りの販売会社・セールスマンにお申し込み下さい。直ちに配本または郵送いたします。
●前金は絶対に頂きません。配本とひきかえに現金でお支払い下さるようお願いします。
●配本に万一、二重・未配などの手違いや不都合の事態がありましたら、本社・販売店にご連絡下さい。なおお求めの際は販売店名をご確認下さい。



MOVIE CTORIAL



RUMIKO
KOYANAGI

雑誌コード1909　VOL 38 NO 6

JUN

昭和廿六年十月二日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）　昭和四十八年 五月十五日印刷 昭和四十八年 六月一日発行
復刊第二五〇号 通刊第三十八巻 第六号 六月号　昭和廿六年九月十一日 国鉄首都特別扱承認雑誌第二〇七四号



SACHIO ITAMI

MOVIE PICTORIAL ★ JUNE 1973

映画情報６月号特選ポート／伊丹幸雄

昭和26年 9 月11日国鉄首都特別扱承認雑誌第2074号　昭和26年10月 3 日第 3 種郵便物認可